濃尾地震生き証人の記録



愛 知 県

(表紙写真)

名古屋市熱田区の家屋が倒壊した様子 濃尾地震でこわれた名古屋城 長良川に落ちた国鉄東海道 線の鉄橋 根尾村水鳥地区の落差 6 mに及ぶ 根尾谷断層

濃尾地震生き証人の記録」の発刊にあたって

愛知県知事 仲谷義明

も過去しば 本は環太平洋地震帯に位置しているため、世界でも有数の地震多発国といわれています。 自然災害にはいろいろありますが、その中で最も恐れられているものは地震であるかと存じます。日 しば大地震に襲われまして、 多くの人命と財産が失なわれてきま した。 そして愛知県

の東南海地震、二十年の三河地震と相次いで大きな地震災害に見舞われています。 特に明治以後の一○○年間だけをとってみましても、明治二十四年の濃尾地震をはじめ、 昭和十九年

現 在、 愛知県では、県民のみなさんのかけがえのない生命や財産を地震災害から守るため、地震対策

を積極的に推進しています。

年一月に「地震体験記録集」として発行いたしました。そして今回は、濃尾地震の体験談をまとめまして こうした地震対策の一環としまして、東南海地震、三河地震についての体験談をまとめ、 昭和 五十三

濃尾 地震生き証人の記録」として発刊するはこびとなりました。

ため、 濃尾 ード八・四)で、愛知県に史上かつてない大被害を与えました。 地震を体験された方は現在非常に少なくなってきています。それだけに貴重な体験談を載せたこ 地 震 は明治 二十四年十月二十八日に岐阜県の根尾谷を震源地として発生した巨大 濃尾地震から今年で八十八年も 、地震 ~ ・グニチ

の記録は大変意義深いものであり、今後の地震対策に大いに 役立てていきたいと存じます。 健康をお祈りする次第です。また、この体験談集の巻頭に濃尾地震の解説をお願いした愛知県防災会議 貴重な体験談をお寄せいただき感激ひとしおであります。厚く御礼申し上げると同時に皆様の 最後になりますが、今回この濃尾地震の体験談を収録するに当たりまして、多くの御高齢 の方々 一層の

から

御

昭和五十四年十月

員の皆さんに深く感謝申し上げます。

の専門委員であられる飯田汲事先生をはじめ、濃尾地震体験者の調査に御協力いただいた各市町村の職

濃 尾 地 震 に ついて

愛知県防災会議専門委員 事

著しい断層が現われ、その付近の家屋の倒壊が夥しく、したがってその倒壊家屋の下敷となって圧死 地震である。 言語に絶するものがあったのである。その被害を総計すると全体で した者や負傷者が多数にのぼったばかりでなく、続いて発生した火災や水災などによる被害の惨状は た大地震の一つであるが、まさに「身の終り」を思わせるほどのもので、その震動は激烈をきわめ、 県大野郡根尾村を震源として、一大鳴動を伴って発生し、美濃及び尾張地方を中心に大被害を与えた 濃尾地震は明治二十四年 との地震は外国では Mino−Owari (美濃−尾張) 地震といっていて世界的にも知られ (西暦一八九一年)十月二十八日午前六時三十七分に揖斐川上流域 Ó 岐阜

住 負 死 家 傷 全 壊 者 者 二一、三二九人 九三、四二一戸 七、八八〇人 (愛知県では (愛知県では (愛知県では 三九、〇九三戸) 二、六三八人) 七、七〇五人)

非住家全壊 住 家 半 壊 七一、 七〇、〇二三戸 一九〇戸 (愛知県では (愛知県では 四六、 三二、〇五九戸)

家 非住家半壊 屋 焼 失 五三、 七、六六九棟 一三五戸 (愛知県では (愛知県では 五九六戸) 二一〇棟

飯 H 汲

五棟

(愛知県四、二一七個所)、橋梁損落一〇、

九六一

個所

(愛

家屋半焼

また道路破壊二○、○六七個所

六○棟

(愛知県では

知県二、一六七個所) 、堤防決壊八、二七六個所 (愛知県二、一七三個所)、 山嶽崩壊一○、二二四

個所(愛知県九四個所)の多きに達した。

ζì る。 濃尾地震はわが 震源地方は数年前から地震活動が次第に増し、濃尾地震の三日前には震度四の前震が二回 国 内陸で起った最大の地震で、その規模M (マグニチュー ド は 八 ・ 四とさ しも記

県で二四七を数え、震度七の激震地域は愛知県で一二○市町村、 級のもの二回) も 録されている。 余震は十年以上も続いたが、十年間では規模M四以上の地震が九一回 起 ってい る。 この地震で震度六の烈震となった市 岐阜県で四三九町村の多きに達 町村数は愛知県で一六〇、岐阜 (そのうちM

しかも激烈な地震動で住家全壊率が九〇~一〇〇%という全滅またはほとんど全滅に近かった町:

村は

噴砂泥水の烈しかったところは液状化現象が生じたところで、多量の噴泥水により浸水や湖沼を生じ この地震の地震動により濃尾平野の到るところで地割や亀裂から砂・泥・水を多量に噴出した。 と の

愛知県では

一一、岐阜県では一六八町村を数えたのである。

愛知・ 多い方であるが、 町村数は全体で一七五 また泥砂の多量 この地震で出現した根尾谷断層はその上下ずれ、水平ずれの最大はそれぞれ六m及び八mであり、 岐阜両県では の堆積などがあり、 震源地から約一九○㎞も離れた静岡県でも亀裂から泥水を噴出しているのである。 に達したが、愛知県は三九、岐阜県五七、福井県二六の市 町村から千個所以上の泥砂水を噴出した所も 起村では死者が出たほどであった。 あっ たのである。 この液状化現象 町村となり、 の み られ ح たた

福井平 その延 事変であったといえる。 層生成は地 として指定されてい っている。 長は 野 12 震前 震害は 達 約八〇 し日本海 後の水準測量に この断 km るが、 で 12 あ 根尾村水鳥地区に出現した六mに及ぶ上下のくい 層 も通じたものと考えられ つ このような地震断 た およびその周辺数 が よる地殼変動の研究により一 断 層生成 による断裂破砕 km 層 から二〇 は世界的 るので、 km O にも知名であ この地震は 線は伊勢湾から濃尾平 の範囲に 層明らかになったが、 お ζſ b, わ て最も大きかっ が |国を東 ちが 地 震 研 ζĵ は、 -野を 究に 茜 この先駆的 両域に分断 横ぎ 玉 重要なも たかゞ の天然記 <u>,</u> ح Ŏ 地 さらに 一殼変 念物 た大 の 断

予防 のである。 震災予防調査会がその後三十三年間にわたって残した輝や 調査会が設立されたことで、地震及び災害予防の研究が体系づけられるようになったことで かしい 幾多の研究業績 は世界の注目 [をあ `ある。 نگ

動

究

わ

が

玉

0

地震研究の

特徴とし

て世界的に認めら

ń

る端緒をなし

たので

あ

て の

れ研

は

地は

震

研究へ

の一寄与であるが、

濃尾地震が果した大きな役割がある。

それ

はる。

府

飛機関に

教訓 用語として使わ 文明 は災害も大きかっ 大きな教訓 となり、 開化により西洋から直輸入された洋 を与え 建築・土木構造物の耐震研究の体系づけの契機となった。 ħ ているが、 た。 た が、 また堤 地 これ 震及び災害予防の調査研究面に果した役割もきわめて大きかっ 防 はこの地震当 護岸 橋 風 梁 の煉瓦造建築は無惨にもこの地震に 時 の創 道 路 作で生れたものである。 溜池 などの大被害は 耐震構造という言葉は今日常 土木 このようにして濃尾 より 技術 破壊 0 向 ざれ 上 たの 7) た j であ . こ と ょ 地

る。

N.E	
77	1
V	P

濃尾地震の体験談村上志やうぶ	濃尾地震について 高田 かま	濃尾地震のこと 寺西 たき	濃 尾 地震木村きやう	濃尾地震について 山田 あき	濃尾地震の想い出 藤田 のぶ	ーこわかったこと、たのしかったことー	濃尾地震の思い出 岩田 とめ	濃尾大震災当時の有様 坂 藤市郎	濃尾地震体験談木村徳次郎	濃尾地震体験回顧録 近藤 よね	濃尾地震の体験談 水野 はな	濃尾地震の思い出 近藤(まつ)	〔名古屋地域〕	濃尾地震体験談集	濃尾地震について	「濃尾地震生き証人の記録」の発刊にあたって
23	23	22	21	20	18		17	16	15	15	14	13				
濃尾地震の体験談 加藤 与き	濃尾地震について 加藤鉄之助	濃尾地震の思い出 脇田仙三郎	濃尾地震を省りみて 松岡 みね	濃尾地震について 堀井 てる	濃尾地震体験談 関谷 全光	亡父の表彰状 木村 はつ	濃尾地震体験記錄 今并市太郎	濃尾地震体験談 飯田かほる	濃尾地震について 浅井太郎一	濃尾地震の体験談 浅井 こう	濃尾地震について 秋田 とめ	〔尾張地域〕	濃尾地震の記憶 安井 のぶ	,	专門 委員 飯田 汲事	·愛知県知事 仲 谷 義 明

38 37 36 36 34 **33** 32 32 27 25 25

濃尾地震について 長江-	濃尾地震の体験談 市川	濃尾地震の驚怖 成田	濃尾地震の体験談 森	濃尾地震の体験談 河村	濃尾地震を体験して 加藤	濃尾地震について	-八十八年前の昔-	濃尾大震災の思い出丹羽	濃尾地震の体験 丹羽キ	濃尾の震災覚え書き大口	濃尾地震の体験 今枝	濃尾地震について 草加	濃尾地震について 浅野	濃尾地震の思い出 林本	濃尾地震について 安達	濃尾地震の体験 高木!	濃尾地震体験記 岡田山	濃尾地震について 大西
かの。ふ	斧二	増次	r)	さい	す江	國三郎		蓬洲	萩三郎	きみ	くわ	せ い	玉惠	源吾	は ま	源右エ明	六四郎	俊作
63	62	61	60	59	58	58		53	51	50	49	48	46	45	45	門 44	42	41
濃尾地震の体験談加藤 た	濃尾 地震新美 完	濃尾地震の思い出 河合 ス	〔知多地域〕	美濃・尾張地震 大島 お	濃尾地震、私の体験 横井米三	岐阜や大垣、大地震 山田ゑへ	濃尾地震について 黒宮繁左	五才の思い出 伊藤 引	〔海部地域〕	濃尾地震の思い出山内 は	濃尾地震の体験森本 な	濃尾地震の体験からの思い出 服部かま	濃尾地震の体験について 津坂竹-1	濃尾地震の記憶 沢木 ヴ	濃尾地震の思い出 伊藤 丐	濃尾地震について 高間善力	濃尾地震体験談 古澤 、	濃尾地震について 上野 🕝
尾地震の体験談加	尾 地震 新	尾地震の思い出 河	多地	濃·尾張地震 大	尾地震、私の体験 横井	阜や大垣、大地震 山田	尾地震について 黒	才の思い出 伊	部地	尾地震の思い出山	尾地震の体験 森	尾地震の体験からの思い出 服部	尾地震の体験について 津坂	尾地震の記憶 沢	尾地震の思い出 伊	尾地震について 高間	尾地震体験談 古	尾地震について 上

濃尾地震の記憶 中島(きく)	濃尾地震について 玉越 開治	濃尾地震について 大浦 常一	〔東三河地域〕	今でも忘れていない濃尾地震 森 しよう	濃尾地震の記憶 築山 きん	竹やぶに逃げこんだ 伊与田しま	濃尾地震体験談森 その	濃尾地震について 三宅半四郎	濃尾地震の記憶 古井 つい	濃尾地震の体験談太田 志な	濃尾地震の体験談山口(さつ)	濃尾地震の時の私の記憶 長谷川あき	幼き頃の思い出 加藤 うめ	地震と舟に居た家族服部(里つ	濃尾地震杉村 なみ	〔西三河地域〕	濃尾地震の体験 山田 はる	地震の恐しさ 下谷 ぎん
94	94	93		91	90	90	88	87	87	86	85	84	84	83	82		80	80
		濃尾地震について 磯部 一舜	濃尾地震について 池田 ちえ	濃尾地震の体験について 山口 鉱次	濃尾地震の体験 加納 つね	子供が見た濃尾地震 加藤(はる	濃 尾 地震 石川志ゅん	濃尾地震の体験 安藤をわ	〔愛知県以外の地域〕	濃尾地震の記憶を思い起して 佐藤 くら	濃尾地震のおもいで 村松まつの	濃尾地震について 三浦 つま	濃尾 地震 成瀬 りき	濃尾地震の想い出 森下 清人	濃尾地震について 山本 古ま	濃尾地震の体験 藤城福治郎	濃尾地震の思い出 中島 登わ	濃尾地震について 中島(ちゑ
		107	106	106	105	104	104	102		100	99	'99	98	97	97	96	96	95

吉 堀 則 伊 山 水 丹 場 武 木 羽 田 藤 田 萩三郎 幸次郎 宗三郎 藤三郎 義 は せ 郎 浄 128 126 124 122 120 117 115 114 113

竹 伊 小 平 伊 古 加 伊 坂 井 野 内 藤 田 藤 藤 Ш 富三 いかさ ま 弘 寅 す ち まっい 5 郎 146 144 142 140 137 136 135 132 131

高 佐 横 高 井 鈴 福 吉 河 藤 里 津 上木井村 柳 目 ちを 兵 い < 重 鯛 末 そ 次 ょ か八奈 松 159 157 156 155 153 151 150 148 147

> 三 伊 丹 戸 遠 大 伊 藤 谷 羽 浦 藤 橋 米之助 兼 ま かゝ 半 実 ささの 平 172 172 170 166 164 162 161

大 地 震 一 覧 表

年月日	地震名	規模 (M)	地 域	被 害 · 摘 要
明治 5. 3.14	浜田地震	7. 1	島根西部 (石見、浜田)	死者522家屋全壊4,762山くずれ6,567
24. 10. 28	濃尾地震	8. 4	岐阜、愛知	死者7,880家屋全壊164,611半壊123,158山くずれ1万 余、大断層(根尾谷)
27. 10. 22 29. 6. 15	出羽地震	7. 3 7. 6	秋田、山形 三 陸 沖	死者726家屋全襲3,858半壊2,397焼失2,148 死者27,122家屋流失全半壊8,891船7,032(津波被害)
大正	三陸地震		= PE AH	
12. 9. 1	関東大地震	7. 9	関東南部	死者99,331行方不明43,476 家屋全壊128,266 半壊 126,233 焼失447,128 津波
14. 5.23	北但馬地震	7. 0	兵庫北部 (日本海側)	死者428家屋全壞1,295燒失2,180
昭和 2. 3. 7	北丹後地震	7. 4	京都、兵庫	死者2,925家屋全壞12,584焼失3,711断層(郷村)
5.11.26	北伊豆地震	7. 0	静岡東部 (伊豆北部)	死者 272家屋全壊 2,165 断屑 (加殿、原保)
8. 3. 3	三陸地震	8. 3	三 陸 沖	死者3,008家屋流失4,917 倒壞2,346 浸水4,329 船舶流失7,303 (津波被害)
18. 9.10	鳥取地震	7. 4	鳥 取	死者1,083家屋全壊7,485半壊6,158断層(鹿野、吉岡)
19. 12. 7	東南海地震	8. 0	静岡、愛知 三重、岐阜 奈良、滋賀	死者1,223 家屋全壊34,946 半壊 60,993 流失 3,129 津波
20. 1.13	三河地震	7. 1	愛知南部	死者2,306 家屋全壞16,408 半壞31,679 断層(深溝)
21. 12. 21	南海地震	8. 1	中部日本以西	死者1,330行方不明102家屋全壊11,591半壊23,487流失1,451浸水33,093焼失2,598船舶破損流失2,991 津波
23. 6.28	福井地震	7. 3	福井、石川 富山	死者 3,895 家屋倒壞 35,420 半壞 11,449 焼失 3,691 断層
27. 3. 4	十勝沖地震	8. 1	北海道南部 東北地方北部	死者28行方不明5家屋全壞815半壞1,324流失91
35. 5.23	(チリ地震)	8. 5	東北、北海道	死者119行方不明20家屋全壊1,571半壊2,183流失 1,259(津波被害)
39. 6.16	新潟地震	7. 5	新潟、秋田 山形	死者26家屋全壞1,960半壞6,640浸水15,297 津波
43. 5.16	1968年十勝沖地震	7. 9	北海道南部東北地方	死者49行方不明3負傷者330家屋全壞673半壞3,004津波
48. 6.17	1973年6月 17日根室半 島沖地震	7. 4	根室半島南東沖	負傷者 26 家屋全壊 2 小津波あり、波高は模室で約 1.5 m 浸水 275 船舶流失沈没 10
53. 1.14	1978年伊豆 大島近海の 地震	7. 0	伊豆半島	伊豆半島の河津町、東伊豆町、天城湯ヶ島町に被害は 集中、死者25負傷者205全壊96半壊616
53. 6.12	1978年宮城 県沖地震	7. 4	宮城県沖	死者27人、負傷者10,962人、全壊1,377棟、半壊6,171棟 ブロック塀の倒壊が多かった

濃 尾 地 震 体験 談 集

[名古屋地域]

濃尾地震の思い出

近 藤 ま つ

(名古屋市昭和区)

八時頃二つ年上の仲さんと茸を採りに行こうと出掛けたところ 其の時、私は七才でした。その日は曇って居りましたが、朝

道を歩いていると何だか 地面が大きく揺れて、履いていた

地震そのものも又恐ろしさも全然知りませんでしたが、さすが がする」等と言って居ました。子供の事で今まで経験も無く、 草履が脱げてしまいます。仲さんは「人力車に乗った様な気持 けません。桑の木に摑まりながら漸く家の近くまで来ましたと に気味が悪くなり家へ帰ろうとしました。しかしなかなか歩

ろしさで一杯になってしまいました。 ころ、母親に見つかり「何をしている。ぐずぐずしていると押 しつぶされてしまう。早く帰れ」と言われ、それから俄かに恐 ます。 として母にひどく叱られました。

ます。

当時くびり池(現在の鏡池)の上手に大人が三人で手をつな

山の中の事でもあり聞く事もありませんでした。 たが、入口の戸等は捩れて開けにくくなってしまいました。 っーと大きく揺れていかにも恐ろしいと思いました。 いだ位の太い松の木がありましたが、その大松がしわっーしわ 家族は皆恐がったり驚いたりしましたが、死んだ人等の話は 幸い山地で地盤が固いので、家は瓦が落ちた程度ですみまし

る余震が恐ろしく、夜は外の小屋で一ヶ月位寝た様に覚えてい ていました)衣食には不自由もしませんでしたが、何度も揺れ 家が別段被害がない為へもともと電燈は無くランプを使用し

其処此処に七、八寸もの地割れがしていて、それを飛び越え様 昼間は何んとなく落ち着かず、あちこち歩き廻りましたが、

流れ稲も何も見えなくなりました。 て来たことです。山の上から北の方を見ると白水がどうどうと の上池の堤が切れ、続いて下池の堤も切れて、どっと水が流れ 大変に恐ろしいと思った事は、家へ帰って間もなく、猫ケ洞

地震は始めから大きく揺れ、時間もかなり長かった様に思い

その水の為に傾いたり、倒れたりした家もありました。桶や

げたと聞きました。 たらい等もいろいろ流れて来て、それ等は川名の大橋で拾い上

水がどんどん減ってしまいました。猫ヶ洞に比較すれば遥かに小さいくびり池も堤にひびが入り、

九十四才の今日迄、度々地震には遇ったわけですが、あの時って「男の歌を歌う」と父から叱られてしまいました。沢山来ましたが、私はその歌を直ぐに覚え、家へ帰ってから歌が歌を歌い、賑やかに堤を築く様子がとても面白く、見物人も猫ヶ洞の堤は数日後補修されましたが、その時は大勢の人々

程の大地震は他に記憶がありません。

濃尾地震の体験談

水野は

な

肥料店で、随分広い頑丈な家でした。

地震のすんだ後大人が集

区鍋屋上野町で、千種区浄水場西へ二丁程の所で種油製造販売

私の出生地は、昔愛知郡東山村鍋屋上野、今の名古屋市千種

(瀬 戸 市)

私は明治十八年一月十九日生れで当年九十四才の高令であり

ます。

ったので少しばかり申上げます。

当時、私は七才の幼時で大した覚はありませんが、あまり怖か

地震の朝早く起きて、母と妹と三人中の間に居りました。

突

道路では西から来る人、東から来る人、皆倒れて居りました。無我無中で一生懸命に這いころげて道路へ出て命が助りましたり、その内に上からは物が落ちる、横からも物が落ちる。私は生きた心地はなく、何かの下敷になって死ぬのでないかと思いた。中く出よ」との言葉に、私は走って逃げようと思うても、震だ、早く出よ」との言葉に、私は走って逃げようと思うても、震だ、早く出よ」との言葉に、私は走って逃げようと思うても、震だ、早く出よ」という音と同時に天地がゆれ出しました。母は「それ地然ゴーという音と同時に天地がゆれ出しました。母は「それ地

造って貰い、近所の人と共同生活をした覚えがあります。毎日何回となく続き、家へ入る事出来ず、空地に堀立て小家を

この恐ろしかった事は終生忘れること出来ません。

其後余震が

であったと話しておられたと言う覚えがあります。って、こんな丈夫な家が後へ引きがったと云う事は大変な地震

—14 —

濃尾地震体験回 顧 録

近 藤 ょ ね

大 阪 市

ばかり此処で生活をし、食事はおにぎりの様に思われた。 だかれて表に飛び出し、近くにお墓がある竹薮の中まで逃げ出 所です。その当時、年令は七才でまだ学校に通っていません。 した。お墓の付近に仮小屋を建て、近所の人々と一緒に一週間 地震が発生したのは朝早く、時間は解りません。寝ていて父に 地震にあった場所は名古屋市東区小川町といってお寺の多い 夜は

電燈もないから暗かった。大人の方は種々地震について話して しておられました。 おられたが、子供ながら解った事は、震源地は岐阜方面とか申

た。家は多少傾いた。屋根瓦も一分壊れましたが修理その他は になく、後で聞いても、死んだりけが人はない様に思われまし れますが、余り記憶にありません。家族のものも、父しか記憶 どは解らなかった。家は一階建で余り壊れて居ない様にも感じ ますが、その当時、多分柱とか家具も折れたり倒れた事と思わ 天気は晴天で、一週間程で家に帰りました。その間、 余震な

> 解りません。山くずれとか海岸方面の事は解りません。 体験からして、これから地震が発生したら、子供ながら、 その後小さい地震はあったが、濃尾程ではありませんでした。

第一に避難場所の選定

第二に食料の確保

が必要であると思いました。 第三に衛生方面の確保

濃尾地震体験談

木

村 徳 次郎

(名古屋市西区)

した。 朝まだ床の中に居ました。地震と気付き逃げようとしました 数え年六才の時です。名古屋市西区東枇杷島町に住んでいま

かかり、それなり失神してしまいました。 助けてもらい気が付いた時には堀立小屋にねかされていまし

が、立つ事も出来ず、一歩か二歩あるいた時に、壁や柱が倒れ

た。余震は五、六日つづいた。弟と一緒にいたが、水を一口、

二口飲ませてもらって死んでしまった。

一丁ばかり前まで火事で焼けて来た。

いて生活をした事だけはよくおぼえています。

何分年少のため、父親がなく、母親や兄について焼野原を歩

何はともあれ、火が一番大切です。火を消す事が何より大切

ました。

濃尾大震災当時の有様

坂 藤 市 郎

南北の通り中程の東側に家が有りました。その北西筋向いに、 と私の三人暮らしでした。住居は、現在の西区浅間町八番地。 私は明治十七年六月一日生れ。濃尾地震当時七才の私は両親

浅間神社が有りました。

うちに、はげしく家が揺れ、父親が私を抱かえ、立っては、ころび、 ないよう記憶しております。その日、朝早くからグラグラと家 が揺れていました。私の父親が「地震だゾ」と話しをしている 濃尾地震のその日、朝からとてもむし暑く、長い間雨も降ら

> はり、ころんではころんでは、やっとの思いで裏口から出て来 ました。父は私を抱いたまま裏口から表へ出ました。母親もや 戸を開いたとたん、向え側の家が、私の家の戸口まで倒れて来 起きては、ころび、座敷より、ようやく表の戸口まで来ました。

昼、大分おさまり、外では大さわぎで、あちらでも人が家か

ら出られない、こちらでも出られないと言う声、声、声。 私の父親は、当時大工でしたので、鋸とまさかりを持って、

は、地震の最中に、父親が子供を抱いて外へ出たとたん、家が

じこめられた人を助け出す所を見ていました。そして別の方で 近所の倒れた家へ行き、瓦を割り、たる木を切り、家の中にと

供だけ助かったことも後で聞きました。 倒れ、家の下じきになって、子供をかかえこむように死に、子

地震も大分おさまった午後、町内の人々が集り、浅間神社境

内に小屋を作り、町内の人々と、煮炊きをして皆で食事をした りして、一週間ほど浅間神社での生活が有りました。

夜は石油等の空きかんを引きずって歩き、「火の用心、火の

用心」と町内を歩きました。

その後も余震が一日何回と有り、皆ビクビクして生活をして

なかった事が大変良かったのではないかと思います。としましたが、幸いの事に、火を出さなかった事、火事にならくの家が倒れたりしました。私の家もかたむき、後日に家を起いた事を覚えています。当時私の住んでいました浅間町も、多

濃尾地震の思い出

ーこわかったこと、たのしかったことー

田 と

岩

(一宮市)

困るが、ただ天気はよかったことは覚えている。もらって、家からとび出したか覚えてない。自分の家のはなれもらって、家からとび出したか覚えてない。自分の家のはなれ

が材木の下敷きとなり死んだ。これを見るとこわくて、今でもまた、隣りの材木屋の材木が逃げる途中の人に倒れて、数人広小路の柳の木にしばり、その中で寝たことは覚えている。

続いたので家に入ることは出来ず、戸や障子をはずしてきて、

そして毎日毎日小さな地震やら、大きな地震が一日数十回と

はなかった。「カンテラ」であったので、夜は早く寝るように母所もあった。そこに行くとこわいと父にいわれていたが、父の目をぬすんで見に行ったことを思い出す。家の中の戸棚等は倒れていなかった。神様の燈ろうはほとんど倒れていたが、父の目をぬすんで見に行ったことを思い出す。家の中の戸棚等は倒れなかったが、天幕をはって天幕の中で勉強したことは覚えている。水道はなかった。井戸水のつるべで水を汲んでいた。学校は地震の後も使用出来た。また家も多く倒れて死んだ人もあった。歩いりぶるいがする。また家も多く倒れて死んだ人もあった。歩いりがあった。「カンテラ」であったので、夜は早く寝るように母地震の後も使用出来た。また家も多く倒れて死んだ人もあった。歩い

よりいわれたことを覚えている。

私の家は指物屋であった関係上、地震が終ってからは、毎日

毎日父は夜おそくまで働いたことは覚えている。

ようでした。

なうでした。

なうでした。

のは何もなかったが、田舎の方で土地を多くが倒れた人には材木の配給があったが、田舎の方で土地を多くが倒れた人には材木の配給があったが、田舎の方で土地を多くが倒れた人には材木の配給があったが、田舎の方で土地を多くが倒れた人には村木の配給があったように覚えている。ただ家

とであった。わざわぎ遠い堀川まで歩いて、舟に乗りに遊びに子供ながらの思い出の一つとしては、堀川で渡し舟に乗ると

出の一つとして今も目の前に浮んできます。 障子の仕切で寝たととを思い出すと、こわいよりたのしい思いてこわくてたまらなかったが、夜、広小路の柳の木の下で戸や以上のことである。舟に乗ったのもはじめてであった。

濃尾地震の想い出

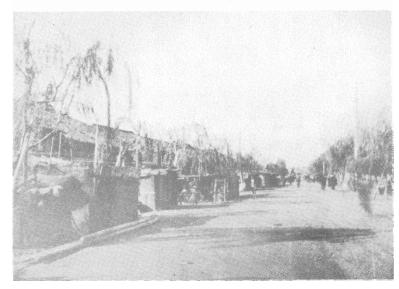
(愛知郡東郷町)

ぶ

して、家が揺れ始めた。叔母が「地震ダー」と叫んで私をころ愛がないです。としたかと思うと、ドドドドともの凄い音が変然体がグラッとしたかと思うと、ドドドドともの凄い音が変然体がグラッとしたかと思うと、ドドドドとものすいた。養女として貰われてきていた。我ままな私は、その朝も学校へでいた。私は名古屋市尾頭橋で、タバコ屋を営む叔母の所への時であったと思う。明治二十四年十月二十八日、冷い雨が降の時であったと思う。明治二十四年十月二十八日、冷い雨が降の時であったと思う。明治二十四年十月二十八日、冷い雨が降の時であったと思う。

がす様にして外へ飛び出したものの一人で立ってる事もしゃが

んでいる事も出来ない。飛び出てきた人達が這う様にして、体



名古屋市の広小路に仮小屋を建て避難しているところ

降って、びしょ濡れで、皆抱き合っていた事を、百才になる今できなかった。ただひとつ見えたのは、真黒な泥の雨が降りには叔母の体にしっかりしがみついて、怖さの余り泣くことすらを寄せ合い手を握り合い、十人ばかりひとかたまりになり、私

日でも昨日の事の様に記憶している。

達の遊び場である神社の、さくまの灯籠と呼んでいた御神灯籠すでした。尾頭橋付近は、幸い家屋の倒壊や、死者はなく、ただ私も怪我のない様な、地震小屋を建てて、近所の人達と幾日間かをそれからと云うものは、余震がひどく、近くの広場に倒れて

だった。 しているので、外へ出て見ると空が真赤に染まって、夕焼の様のなって、大人達が「枇杷島が燃えてるゾー」と、大騒ぎ が、一基幾つにも割れて倒れていた。

込ま、三日も9月も6と0k、足ら見上げて、こ。 ん燃え広がっていると、叔母達が話しているのを聞きながら、

その次の日も、またその次の夜も、名古屋駅の方へ、どんど

私は、三日も四日もその赤い空を見上げていた。

私の養父すなわち叔父は、士族であったため、町の治安の役られた。

も当てられない無惨なもので、誰であるのか判断もつかず、着を明せつかっていて、殆ど家に帰らなかった。仮小屋ですごしてくれた。
 を仰せつかっていて、殆ど家に帰らなかった。仮小屋ですごしを仰せつかっていて、殆ど家に帰らなかった。仮小屋ですごしを仰せつかっていて、殆ど家に帰らなかった。仮小屋ですごしを仰せつかっていて、殆ど家に帰らなかった。仮小屋ですごしを仰せつかっていて、殆ど家に帰らなかった。仮小屋ですごしを仰せつかっていて、殆ど家に帰らなかった。

金が渡されたと聞く。仮小屋の中で叔父の話は続いた。者その他指一本でも無くした方々には、一様に一人五十両づつ現当時紡績工場長だったと思うが、服部さんと云う方から、死

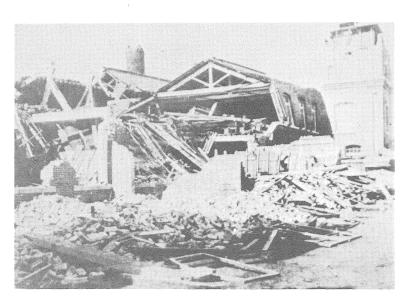
物で判別する有様であったとか。

には、若しそれらの囚人達が悪い事をする様であったら、容赦不を気づかって仮釈放された。民間の人達にはそのことについるが強があり、そこの囚人も地震のため、それぞれ家族の安仮刑務所があり、そこの囚人も地震のため、それぞれ家族の安

そろしいと口で云えない程怖かった。

長い人生の中で、戦争も怖かったけれど、子供の頃の恐怖は、

なく切り捨てよとの特令があったと、刀を持って出かけた。お



うです。古家は皆とわれたそうです。簡単ですが母親から聞か されたことお知せ申上げました。 の甲にわれ、人は立っておられないので地面にはっておったそ 濃尾地震は、母親が生れて始めての大きな地震で、 地面は亀

鳴を上げて死なれたそうです。

大勢の女工さんがその下敷になって、助けて助けてと云って悲

工さんが入いったとたんに大地震があって、工場の建物が、レ 夜昼二部にわかれ、夜の部女工さんは朝五時に帰られ、昼部女 工場があって、他県から沢山の女工さんが働きに来ておられ、

ンガ作りのため、めちゃくちゃにこわれてしまったそうです。

想い出の糸口を取り出せば、いくらでも憶えているものですね。

濃尾地震に

(名古屋市千種区)

濃尾地震について、母親からきかされた事、一言申上げます。

私の母親は明治九年生れ。私は明治四十一年生れ。 濃尾地震は朝五時にあったそうです。 名古屋に尾張紡績織物

も止まり、後から後から余震があり、東京は大火災が起きたそり、その時地震は横ゆすりで棚から物がおちて来ました。時計根の種まきをして居りました。私は家の中で、子守りをしてお時、関東大地震がありました。その時、父母は家の前の畑で大大正十二年九月一日の関東大地震。昼十二時。私が十五才の大正十二年九月一日の関東大地震。昼十二時。私が十五才の

うです。

行く人がふらついて歩けない程強い地震で、地面に座り込みまではおりませんが、名古屋の小学生が岐阜県へ沢山疎開して居りました。その時も大分強い地震で、疎開した子供が大勢死亡したそうです。私は外におりました。空襲の時の地震は風もあり、というとうなりがきこえました。空襲の時の地震は風もあり、といるがあれて半分になり、庭の石燈ろうがたおれました。道水そうがゆれて半分になり、庭の石燈ろうがたおれました。道水そうがゆれて半分になり、庭の石燈ろうがたおれました。道水そうがゆれて半分になり、庭の石燈ろうがたおれました。道水そうがゆれて半分になり、庭の石燈ろうがたおれました。道水そうがゆれて半分になり、庭の石燈ろうがたおれました。道水ではいまで、地面に座り込みまではおりませんが、名古屋の石燈の中で、地面に座り込みまではおりませんが、名古屋の大田の石屋の中では、地面に座り込みまでは、大東亜戦争終戦前、五月頃屋三時。岐阜県が震いた。



した。私は今までに大きい地震二回程あいました。

尾地震

濃

木村きやう

(名古屋市港区)

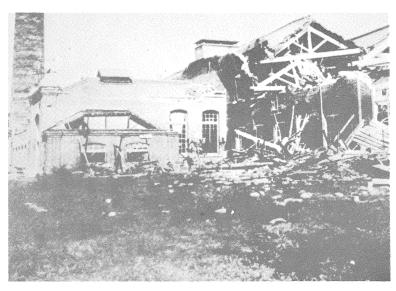
消し、一旦は屋外に逃げましたが、私が倒れたので助けに来て、きしたところ、地震でゆれがひどくころびました。「サツマイましたところ、地震でゆれがひどくころびました。「サツマイましたところ、地震でゆれがひどくころびました。「サツマイましたところ、地震でゆれがひどくころびました。朝、母きく私の家は半農半漁で、家はかやぶき屋根でした。朝、母きく

たのは何軒もなかったと聞いています。随分大勢の方が亡くない。下ノ一色(名古屋市中川区)ではほとんどの家が倒れ、残っしたけがも有りませんでした。

た様です。 当時まだ電気もなく「アンドン」でした。大災はおきなかっ

当時「ヒナン」する所もなく「ムシロ」屋根で、家の外で少

った様です。



朝六時頃、

田の姉の家に、二十五日、七夜祝で子守に行っていた。二十六日、

姉むこがお粥を産者に一ぱいつけて二はい目をつけ

地震の時は九才で、今の名古屋市中川区富田町大字万場八反

親が五六才の子供をかかえて出た時、子供に何かがおちて、子 なでた。毎日小さい地震があってゆすりづめだった。 屋を作って、毎日そこで寝おきすると、キツネが出て来て顔を この八反田では酒屋と

富田さんの二軒が倒れた。

その時、母 地震は長く続いた。田圃中の一軒家だったので、西の畑に小

れた。

伊福では、裏の盛願寺と伊福部神社と小川さんと青木さんの

濃尾地 震のこと

寺 海部郡七宝町) 西 ŤZ È

供は死に、母親は肩にあたって骨が折れ、一生そのままで暮さ した。義兄は立って出れなくて、はって出ました。 ゆすって来たが、姉の産者は走り出して、私も走り出ま

た。私の家の井戸はにごらず、近所の人々が水汲に来ました。 家が倒れた。いづれも瓦屋根だった。庄内川は水がたくさん出

ラス (カンテラのこと)。 旧の九月二十六日なので蚊は居なかった。明りはランプとガ

地震の日天気はよかった。地震のゆれは長かった。

地震の時

は歩けなかった。はって出た。

濃尾地震について

高

田

カン

ま

(丹羽郡大口町)

れ、近所の家もほとんど倒れ、皆が表で野宿していた。 自分の家といっても小屋程度だったため傾いただけで、傾い

此の程度しか記憶がなく、付近のお宮の御拝殿が「番早く倒

たまま当分暮した。

だった。その割に大事はなかった。

当時電気はなく、ことぼし(油に火をつける)のあかりだけ

濃尾地震の体験談

村 上 志やうぶ

(名古屋市南区)

まいりまして、ハッキリした事はあまり豊富にはありません。 呼び年九十五才になりまして、もう此の頃では体も大分に弱って

地震の起きた時は五、六才の時です。

昔は子供でも小さな日和下駄等をはいて、カラカラと音をた

いすり出し、外で立っている事が出来なくなり、地面の上にこ てながら走って遊んだもので、表で遊んでいると、急に地震が

ろがってしまった。日和下駄を持って、地面にはっていても 自分の体がいすれて起上がる事が出来なかった。

た

東方面付近と思われる。

名古屋市のおかいちに暮していた。現在の名古屋市南区道徳

年令五、六才の事とて、たいした事を覚えていない。

母親が朝食の用意をしていた時、一緒にかまどの火をみてい

天気は晴れていたと思う。

出たので取りに引返し、母に叱かられた。 幼かったため母にひっぱられ表に出たが、下駄を片方落して

夜は、家の中で寝る人がなく、しばらくは外でカヤをつって

この様な事しかわかりません。

濃 尾 地 震 0 記 憶

井 0

安

名古屋市港区) Š

ので空地の垣根につかまって居ました。 とび出しました。農家でしたので、庭は広く、立って居れない の時でした。ぐらぐらときて、すぐ地震と気づき、家族と表に 私の六才の時です。幼くてあまり記憶もありませんが、 朝食

になっていた記憶があります。 あとで家の中に入り、朝食の御飯が天井からのススで、まっ黒 小屋を作って、しばらくこの小屋の中での生活が続きました。 何日か余震が続き、家の中に居れないので、庭の空地にワラ

あり、 この地震で近所の農家が一軒焼失しました。傾いた家は多数 戸は開かず、後に皆さん建て起しをされました。



『岐阜日日新聞号外第一』に載った震災のようすを 描いた絵

尾 張 地 域

濃尾地震について

田 ح め

秋 (名古屋市東区)

市栄町(旧名浦町)で富板忠蔵の三女。 地震のあった時の年令は六才。今の五才でした。場所は一宮

ゆれて、地震と云う事がわかり、裏の竹ヤブに逃れました。途 朝食を取って居ました時に、天気はハレでしたが、ガタガタ

中コロビまして、歩けませんでした。長くゆれて居る内に家が

井戸水は出ました。食料は家が米屋でしたので困りませんでし ませんでした。毎日小屋にねました。火事は出ませんでした。 こわれてしまいました。家族全部裏にとび出して、けがはあり

震源地は大垣と聞きました。

た。

が五軒ありましたが、皆倒れました。濃尾の地震が一番ひどく て、皆死にました。毎日鳥ゾウスイを食べて居りました。借家 米屋でしたので、ニワトリが沢山居りましたが、小屋が倒れ

> ありませんので、此位で御用赦願います。 くとび出したので、少しのけがもありませんでした。 とび出すのがよいと思いました。私の家も六人居ましたが、早 ありました。川の水は追々多くなりました。地震の時は、早く なんにしても六才でしたので、あまりくわしい事のおぼえが

濃尾地震の体験談

ح Š

浅

井 宮 巿

突然体がふわふわとし、冢がみきみきと音がしました。庭で仕事 私の七才の時でした。地震発生の時、私は寝床に居ました。

とさけび、家から出てこいと言って居ますが、私も立つ事が出 をして居た母親が地に倒れてころがりながら、「こう、こう」

ません。地震のゆれが一時止んだ時、母親に助けられ、裏の竹

来ませんでした。その間どの位の時間が過ぎたか気おくがあり

やぶに避難しました。

その時点から竹やぶの生活が約一ケ年程続きました。それは

計は傾き、水屋から茶わんが落ちてわれて居ました。家の中は時に障子があかなくなったり折れた個所も出ました。家の中は時事はまぬがれましたが、瓦はずり落ち、家はねじり傾いたためました。私の家は当時麦がらぶきの家でしたが、幸にも倒れる余震が間断なくあったからです。竹やぶは小さな堀立小屋にし余震が間断なくあったからです。竹やぶは小さな堀立小屋にし

東海道線の築堤など地割が至る所に出来ました。また笠松町は足んどの井戸が「つぶれ」たり水の道が変り、出なくなったりしましたが、私の家も「にごっ」て水の量も少なくなり、浄りしましたが、私の家も「にごっ」て水の量も少なくなり、浄りしましたが、私の家族は無事でした。 関い材本にはさまれて死亡しましたが、私の家族は無事でした。 田畑、木曽川堤防、て死亡しましたが、私の家族は無事でした。 田畑、木曽川堤防、て死亡しましたが、私の家族は無事でした。 田畑、木曽川堤防、で死亡しましたが、私の家族は無事でした。 田畑、木曽川堤防、で死亡しましたが、私の家族は無事でした。 また笠松町は

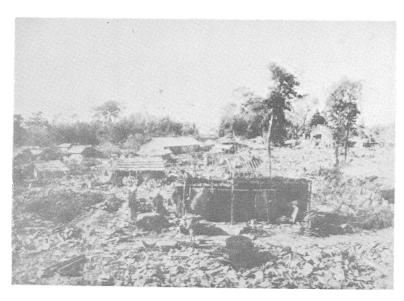
た。木曽川鉄道橋の修理のために、家に「さしかけ」をつくり建替え修理は一ケ年以上も過ぎてからぽつぽつと始められまし

たり傾いたり正状の家はほとんどなく、倒れた家は隣人が手伝火事が発生して、数日間燃えたと聞きました。各自の家は倒れ

って整理をし、小さな小屋を造って生活をして居ました。家の



木曽川の堤防は地震で破壊された



岐阜県の笠松が全焼した様子

濃尾地震の体験報告書

当時は愛知県中島郡日光村馬引尋常小学校第二学年在学中でし 村大字馬引に住居していました。 た。なお当浅井太郎一は只今の一宮市で当時愛知県中島郡日光 地震の年明治二十四年は、当浅井太郎一は呼び年八才にて、

濃尾地震につい 7

ほとんど歩きの頃で、思い出しながらしたためました。

九十年近く前の事でもあり、七才の時で電気もなく、交通も

受け、明治二十七年に建替えされ、当事の家の材料を一部使用 多数の人が来て生活して居ました。現住所の家も地震の被害を

されています。

発生した時点では成人が立つ事も出来なく、その場でころころ

濃尾地震が、現代言われて居る震度何度か私は知りませんが、

して居た様子だけは今も目に写ります。

宮

市

浅

確な記録に依ると明治二十四年十月二十八日午前六時三十七分十 正しい震烈波動線は三線重なり合い濃地区に三線、 当時の正

しかし何分家屋は殆んど百家悉く倒壊して、時計の止まった時 計も、太綱に重い鉛の玉を二つ三つ吊した時計もありました。 震は七時かとも思うが、定かの記憶はありません。当時玉振時 朝食前、大体六時頃、突然大々的の第一震に逢う。或は第一

朝立ちは良い天気でしたが、地震で曇天になりました。第

震までは確か良い天気でした。私は第一震で、父母に従い屋敷

ったと思う。

間など記憶更にありません。

て竹やぶ迄、膝頭で竹やぶ迄やっと運んだと終始噺していまし 太左ェ門の一つ話には、当時を懐古して、弟三市を両手に受け な地震でなく、何度もころびながら、やぶにつきました。祖父 の東南七、八間の所の竹薮へ馳け込みましたがとても歩ける様

でした。 地震と言えば、即籔々と言う言葉は当時の流行語を産んだ程 た。

地震=-大地震でしたら竹やぶへの声は八方。

人皆初めから大地震と直感しました

まいました。そして、その後は少地震が数度来ましたが、皆薮 ると将に東西震に間違いなし)私の本宅は四ッ八畳の草ぶきで、 大体田舎で大きい方でしたが、瞬間あおむき気味に倒壊してし 第一震は東西に大激震だったと思います。 (正しい記録に依

の竹にすがって安全でした。

せんでした。そして第一震后間かってきに午后まで七、八回有 また根のゆるんだ立ち木にとまりなどせぬこと。 歩けるような地震でなく、第一震は這うより更に方法はありま 屋根瓦のはねとびや、窓がらすがわれて、飛びちるのをさけ

の本宅はあお向けに倒れた。 前にも書いたかと思うが、第一震で私は東西に大ゆれで、私

弟三市二才は祖父が両手に受けて、膝頭で皆の居るやぶへ運

んだと終始話しました。

只こわい思いで放心状態でした。

只恐ろしいの一語に尽きました。二、三日あとになっても、

ずたおれた。大体その頃私の字は多分全部で百五十戸前后と思 竹やぶへ馳け込んで居ましたし、殆んど皆一様に全字一軒残ら

田舎の事で朝六時半と言えば大体皆起きていて、近所隣各々

修復しただけで昭和五十一年まで残っていましたが、遂にこわ 近辺、只の一軒も建って居らなんだ記憶です。 その添家少し いますが、私の記憶では私方の添字二階建て瓦ぶきでは六畳間 と、だら三畳とはしごだん。二階六畳間一間と物入れは、近所

したと嫁は申しています。

たと思います。兎に角、階段やはしご段が地震には禁物です。 五はあったと思いますが、大体浅井町森病院へ行った人もあっ とのけがなどは大方そこで手当てして貰いました。大怪我も三、 な方があり、 当時、病の人は大体村医の岩田順造さんと云う慈悲深い親切 確かそこが病人を引き受けて下さった。亦ちょっ

后元通りになった。 良い井戸でしたが、約一ケ月位かは、こし水しましたが、其の

井戸水は大分濁りました。私方は人がお茶の水を汲みに来る

険。壁の玉ふりなど下へ落ちていてこわれた。二階に居て、は り落ちていました。窓の硝子は殆んど割れ、飛び散り、誠に危 に飛び散っていました。屋根瓦は、大体はな先のものは大方ず 障子なども殆んど倒れましたが使用出来た。家具などあちこち ましたが、しかし、戸障子ぐらいはそのまま用いられました。 勿論、前述全体倒壊の有様でした。雨戸、障子全部飛び散り

しごで怪我した話が多かった。

川が流れていたが、堤も切れず害無し。津波も高潮の害なし。 地割れは北西から南東へ少し斜に。確とは記憶していません 私達の所は、山崩れ、地辷り、大水には関係なし。近くを小

が、巾曲尺一尺位のヒビ割れ。多分、深さは曲尺の一尺五寸位 のひびわれ穴。遠くから遠く迄通っていたが、水が湧き出た様

な記憶はありません。

昔は自給自足で、一番、困らなかった。また衣類も元々尾張は織 物地帯で困らなかった。

井戸水を村中使用していましたが、大体砂とし。食料は案外

に角、小屋がけして先づ安全を保った。家の外の生活は一週間 電燈は字中殆んどなく、大体石油ランプ時代でしたが、地震後 以内だったと思う。竹やぶ住居は、大方二日位の覚えでした。 大体小字で、自分達各々四、五日で倒れた家を取片づけ、兎

一、二ケ月はカンテラでした。

昼間は全力を尽して后片づけと畑仕事など。夜は、男子や子

供は安眠、女子は衣類の繕いに査奔。

の再利用や戸障子の整理が先決。大工、左官さがし。しかし震 男子は住居の勘考、食料補給、殊に屋根瓦の整理整頓、天井

災后の新築は容易ならず殆んどが困りぬいた。

学校建築は最優先。宿直の先生の住居の瓦屋は二ヶ月程で完

人程で、先生は一年と四年を教え、二年三年は永らく自習でし成。寺小屋授業が始まり、加藤条溍郎先生の論、全生徒も七十

織物工場ばかり即時小屋がけし、休まず仕事をしました。家業は一方総員全力結集で復旧に当りました。工場は、大方、小

た。

見舞品など、余り広範囲の事で、手も届かず。

項を話し合う。新愛知新聞、大阪毎日の状報、一番克く話され怪我したこと。二階から下りることの困難など、巨細の注意事

た。手拭をさき、傷の手当てしたこと。飛び出しの際ころんで

地震后聞いた色々。朝早やの地震で飛出し一か所にかたまっ

た

も断層を見に往く人が克くありました。ありました。震源地は江州寅姫、滋賀県の寅姫で、十数年后にありました。震源地は江州寅姫、滋賀県の寅姫で、十数年后に

は立派でした建物もとうろうなど全く皆倒れてしまいました。法円寺(浄土宗)、善慶寺(浄土真宗)、観音堂の当時として、寺宮につきて、寺も宮も全部倒れました。神明社、村社全壊、

お墓も煙突など大分倒れました。

びわれは長く断続していたと思います。電車や汽車のことは頓柱は半かたいでいました。道路は案外被害が少なかったが、ひ柱は村に余計ありませんでしたが、大体線は殆んど切れ、

るった様飛び歩きました。川や池は大した変化はなかった。井動物や鳥や魚の事は余り記憶ありませんが、鶏や犬は気がく

と記憶ありません。

のは何も見ませんでした。います。地鳴りは一、二日したと思う間もなく止んだ。光るもいます。地鳴りは一、二日したと思う間もなく止んだ。光るも戸は大体水が少し濁っただけ。空は五、六日曇天でした様に思

二 濃尾大震災の実状報告書

る限り正確をと思い、三、四正しい記録を参考に記し差上ます。思い、能う限り正しく知りたいと思い、呉の朦朧よりも出来う更に記憶ありません。しかし、出きうる限り正確を期したいと戸浅井市太郎方に住み、当二才で、したがって、当時のことは戸浅井市太郎方に住み、当二才で、したがって、当時のことは戸浅井市太郎方に住み、当二才で、したがって、当時のことは

十一秒発生。

震災の時、明治二十四年十月二十八日、午前六時三十七分

烈震に続き余震絶えず、壊滅状態となりとても復旧困難の

状態になりました。殊に岐阜県笠松など大火で全滅の状態だ

った様でした。

尾張名古屋の事は存じません。震裂破動線も御覧下さい。尾張部より一般に岐阜県方面が悲惨だった様でした。勿論、

| 六十回、激震一、鳴動十五、合計七百二十。もっとも当日二|| 震動回数調査。二十四年十月烈震四、強震四十、弱震六百

書き示す。続いて二十四年十一月中、地震合計千八十七回

時五十五分より以后、十月末日までを、即ち四日間のものを

十八日午前、記録不能、記録なし。従って、二十八日午后

同十二月中、計四百十六回を記録せり。

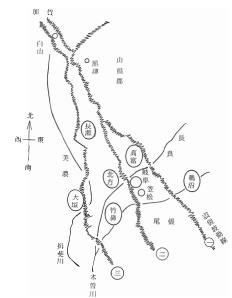
国費支出の状況は、当時、愛知県は国費補助額七十五万円

交付。当時、岐阜県の決定交付額は百五十万円

体大阪毎日に若干依るのではないかと思う節と、或は地方のれていたと聞いて居ますが、私のこの報告の重要部分は、大当時、愛知県は名古屋の新愛知また大阪毎日が最多く読ま

旧役場の記載を貰いたかの節を感じます。

裂波動線図



濃尾地震体験談

飯 田 か はる

稲 沢 市

来、水が吹き出しておりました。その中に母ははまり、ずぶぬ ら、早く外に出よと云われました。家の外には大きな亀裂が出 四番戸(現在の一宮市西大海道)で地震にあいました。 日たってから夕立があり、竹薮の中に避難しておりましたが れになって来ました。地震のあった日は晴れでしたが、二、三 朝早く、父母は寝ていましたが、私が家の中に逃げこみました 私は満八才(小学校三年生の頃)丹羽郡穂波村西大海道一三 地震は

h_o

そろしかった様な気が致します。 地震とその后の余震は一時間位でおきまり、その間は大変お 雨のため傘をさして立っていた記憶があります。

か倒れず、その中に地震のあった日から三、四日たってから入 ましたが、その内の一棟は木のそばにあり、それに支えられて 校として使われておりました。 住居は三棟と倉庫が三ケありましたが、みんな道路側に倒れ 家は製糸工場でしたが、工場はたおれず、その後一年位は学

> り込み、その中で生活しておりました。 食べものはさつまいもを掘って来て、むしたりやいたりして

食べた記憶がございます。 人程ありましたが、しばらくして皆家へ帰って行ったようです。 当時の家族構成は、両親と女兄弟三人で、ほかに使用人が十 以上の外はまだ子供でしたので、くわしい記憶はございませ

濃尾地震体験記 録

井 市 太郎

今 宮 巿

「それ地震じゃ、早く薮へ逃げて行け」と大声でさけびました 音がしたかと思うたら、其の直後ふわふわとしてきた時、父が 日、朝食をしていた時です。いかにも気味のわるいドードーと は、お天気で晴天のおぼえです。明治二十四年旧暦九月二十六 時代でしたから、一宮町大字両郷寺区でした。地震の起きた日 当時、私はまだ九才で、小学校二年生でした。 当一宮は町制

けと言いましたから、姉と二人はって薮へ行きました。から、逃げだそうと思っても、ふらついて歩けない。はって行

すぐそばにあった井戸は埋ってしまい、そとや縁の下に亀裂が出来て泥水がふき出しました。門は倒れ、土蔵も倒れてしまい、住宅は倒れなかったがひどく傾き、土壁は全部ふるい落ちてしまい、戸や障子は外れ、とても中へは入れない有様で、私共家族は両親と姉一人弟二人いましたが皆無事でありました。前の一軒は倒れて火事になりかけ、その家の人が大声で助けを求められたので、近所の者が協力して火を消しました。前でかと思って見に行きましたら、学校の土壁はきれいに落ちてしまい、立っている丈でした。すぐそばに先生の宅がありましたが、完全に倒れていた。氏神様の灯ろうは全部倒れて居ましたが、完全に倒れていた。氏神様の灯ろうは全部倒れて居ました。

いるしみずを使いました。余震は小さな地震がドンドンといく米麦と共にたべました。水は井戸がありませんので、噴き出てその中で暮しました。食事は、畑へ行き、甘藷を堀って来て、暮しましたが、雨が降ると困るので、倒れた門のつまをあけて

家族の生活については、二晩や三晩は薮の中に蚊帳を吊って

ワフワと打ってくるようで恐ろしかったという話をきいていまつかありました。地震の時に畑で仕事をしていた人は、波がフ

す。

亡父の表彰状

村 は つ

宮

市

木

左は明治二年生れの亡父、当時小川喜太郎(二十二才)が戴

いた表彰状でございます。

助けた所は一宮市萩原町荒神(コウジン)で、倒れたクズ屋

れた家で道をふさいでいたそうでございます。切り開いて助けたと話してくれました。萩原の町は両側から倒にふさり込んで、かすかに助けを呼んだ声をきき、鋸で屋根を



愛知県尾張国中島郡萩原村

1 Ш 喜太郎

明 治二十四年十月二十八日 激 震 , 際

堀

場

仲 助

倒 潰 ノ 家 屋

上厭

伏

セ

ラ

将ニ瀕死セントスルヲ救助セシ段奇 特ニ候事

明治廿六年十二月二十日

愛知県知事正四位勲三等時任為基

濃尾地震体験談

谷 全 光

関

宮 市

大きな音に、雷と思って家の中へ駈け込んで奥へ行くので、父 出ろ」と大声でどなった。ぐらぐらと家がゆれ、何とも言えぬ やっと外へ出て、大きな木にしがみついた。五つ年下の妹は、 大きな音がする。走ろうと思っても、足がもつれて走れない。 朝、父の後で仏様に参って居ると、突然父が「地震だ、外へ

> どうしである。食事に薩摩芋を食べた。 震は五分間位と思う。あとからあとから揺れ、どんどん音がし 危い。家具や箪笥はゆれる。引出ががたがたした。最初の大地

親が抱きとめ外へ飛び出した。棚の上の物は、ばたばた落ちて

すぐ小屋から飛び出した。 う地震が来ても大丈夫だから逃げなくてもよい」と言われても、 を敷き、木から木へてずを掛け屋根にして小屋が出来た。「も 隣の竹薮の側に小屋を掛けた。下に麦殻を敷き、その上に筵

が吹き出していた。井戸はⅤ形に石積された井戸で、底の方に れがして水や砂がぶくぶく吹き上げられて居た。田の中でも砂 庇瓦は少し落ちたりずれたりした。時計は六時で止まって居た。 近くに山もなく、堤防もなく、安全であったが、道路で地割

家は少し傾いて、戸、障子が動かぬ様になった。麦殼屋根で

井水が溜り不自由は無かった。 電灯は昔の事で無く、ランプやカンテラであるため夜は暗の

中で過した。

地震の後はお互に家を助け合って、直し合いをした事と思う。 瓦で屋根が重いからではないかと思う。東野は田舎である故、 倒れた家は村で三戸とお寺の本堂が倒れた。今思うとお寺は



岐阜県の笠松は火災のため全焼した

見なかった。

家が倒れて人が下敷になっていて、そこへ火が燃えて来て、逃

ました。空は火災の煙で赤くどんよりして、夜は恐ろしかった。行く有様が見える様だ。お前はあの声が聞えぬか」と泣いて居げる事も出来ず、生ながらにひいひい助けてと言いつつ死んで

九月二十四日地震の日は晴天であった。

地鳴と言うか何とも言えぬ音は聞いた様に思うが、光る物は

地震の震源地は大垣の西の方とかは後で聞いた。父親は、一宮

は建って居る家は一軒も無いそうな、また「笠松は大火災で、

を積みましたが、濃尾の地震が一番大きかったと思います。濃尾の震災、関東の地震、終戦前の地震、種々恐ろしい経験



濃尾地震について

堀 井 7 る

宮 市

朝六時から七時頃で、天気はくもり。

年令十才、学業は自由で、出校は半分位、学業を学ぶ。時は、

粉が来た。 時に、現在地、岐阜県羽島郡笠松町方面に火災が発生して、そ 体の家々は倒れて、砂けむりが立って何も見えなかった。その のけむりが当家(葉栗郡北方村、現在の一宮市)の方まで火の に気ずき、そのままで家を出て堤防へはい上り、その后 御仏様のオブク様「御飯を付ける」を付けている時で、地震 一面

と印があったとの話です。 七、八年前に家を解体した時点に、柱に「寛永(何年)に建築」 の家は当時はカヤぶきの家であった。 んの二軒位で、五十~六十位の家屋が皆倒れた。インキやさん 大日村では家が倒れなかったのが、カメヤさんとインキやさ 現在の家主の話しだと、

の中で、舟の中の生活を十日位すでした。大舟は生活のため使 家外生活は、当時生活家業に使用の木曽川に大舟が有り、川

> 下ったり上ったりする。時々家具類を名古屋で買って販売され た。その時代、お酒が一升八円位だった。電灯はゲイト灯。見 族が住んだ。家は古柱などをつかって約八坪の家を建てる。 大舟で物資の運ぱんをしていたので、名古屋港まで木曽川を

用するので、家、屋敷内の竹やぶで整地をして小屋を建て、家

地震后は木曽川の水が土水になって、のみ水にならなかった。 地震の前に、木曽川の川原の地面の所に吹上る場所が出来た。 舞品は各方面から衣類品が来た。

濃尾地震を省りみて

岡 2

ね

松

宮 巿

れていかれました。当然七才の子供であり、ゆれが大きく、歩 ったか記憶になし)で寝巻きのまま、庭のヤシの木の根元につ 日は晴で大変いい日でした。たしか発生は午前七時頃であった と記憶しています。私たちはまだ寝ており、父の大声(何とい 濃尾大地震の年、私は七才であり、兄弟は三人でした。

行は出来ず、だきかかえられての避難でした。

の場としても、鉄道作業工事があり、大半の人々がこれに従事 ように)。こんな生活が三、四ヶ月続いたと思います。 ど全戸が庭に穴をほり、窯として利用した(再発時すぐ消せる 屋は、柱を数本たて、雨を防ぐため、雨戸を上にのせた簡単な 残っていたそうです。この地震の日の後、毎日ゆれが続き不安 聞いたところでは、倒れた家々の付近は地割(穴ボコ)が多数 我村は幸いにして、農家が多く、村内の食料は自給出来、働き 確保に大変苦労されたようです。また仕事も少かったようです。 不足であり、中古材を再利用しての家が大半でした。 ものでした。炊事に伴う火は危険であると考えており、ほとん の片すみに小屋をつくり、この中での生活をしました。この小 な毎日であった。倒れた家の人々は仮住居とし、残った家をも は多数の家々が倒れたが、火事の発生はまぬがれました。後に の中心を走る道路の両側は、なぜか、全て倒れました。我村で つ人々も再発の際の危険防止から、ヤブの中、あるいは広い庭 これも後に耳にしたことであるが、農家でない人々は、食料 倒れた家の人々は、家の再建をしはじめたが資金、材料とも 幸いにして我家は家屋の崩壊はまぬがれました。しかし、村

し、わずかな収入を得て生活しました。

いずれにせよ、あんなこわいことは、もういやだと思います。が呼び戻されるだけで、細かなことは、忘れてしまいました。屋生活が続いたこと、二、三ケ月後、寒さが身にこたえた記憶地震発生時、七才という子供であり、遊びにもいけず、仮小

濃尾地震の思い出

田仙三郎

宮

巿

脇

出た。第一の避難場所は、家の前の畑であった。そこには、桑勝、現在もなお住んでいる一宮市浅井町にいた。この地域は、時、現在もなお住んでいる一宮市浅井町にいた。この地域は、た。「それ地震」と大声で父が言った。私は、外へ走り出したた。「それ地震」と大声で父が言った。私は地震にあった地震のあった時、私は数え年七才だった。私は地震にあった地震のあった時、私は数え年七才だった。私は地震にあった

の大木があり、「ここならまず安全だ」と母が言った。

家のゆ

れ方は、まるで祭りの山車を引き出す時のようであった。

付近の家屋はほとんど全襲したが、幸いにして私の家は下半分位は倒れたが、上半分は建っていたので、寝食する事はできた。半分は建っていた我が家も、余震の激しい時は家の中に安心していることはできず、近所の薮や林が一番安全だとされていたので、皆そこに避難した。我が家の近くにある頓受寺(とれて)

家のない人々は、そのお寺を利用していた。

の恐ろしさをひしひしと感じた。れができた所には、七五三縄(しめなわ)が張ってあり、天災はできず、沸かして使っていた。その後、地割れができ、地割

き出していた。そのため、井戸水は全く濁り、生水を飲むこと

また地面や道は至る所に地割れができ、赤茶色の地下水がふ

林平宅へ押し寄せ、手当てを受けたそうだ。害によりけがをした多数の人々は、連日各方面から浅井町の森曽川の水に映るので、一層不気味な日が何日も続いた。この災当時、笠松町では大火事が起こり、数日間燃え続け、夜は木

災害には充分な対策が必要である。私の体験談が何かのお役にてのような恐ろしい体験を皆がくり返さないためにも、地震

たてばと思い、ここに記しました。

濃尾地震について

藤 鉄之助

加

瀬戸市)

た。瀬戸は二十戸余りたおれたと聞て居ります。もなく成り、是を見て、私はたおれた家の前で永らくないて居りましえて戴いて居りました。此の玉越と云う家が地震でたおれ、見るかげ

云う家が地はけ見(易者)の家で、小児八人が学校の勉教をおし

私はまだ学校にはいってなくて私の家から一町ばかり東に玉越と

私の家の屋根瓦も半分ばかり落ち、戸も開け立て出来ぬように

成りました。

し止めました。 いて居りました。朝くどで御膳たきおり、くどのそばに薪がたいて居りました。朝くどで御膳たきおり、くどのそばに薪がたいて居りました。朝くどで御膳たきおり、くどでごぜんを

ての事、皆様、御考え願度し。私は、一番、火事と云う感じがじました。第一番に火気に付

濃尾地震の体験談

藤与き

加

(瀬 戸 市)

妹二人がいて、母は妊娠中であった。 当時、自宅は米屋をしていた。与きは二女(十一才)、姉と

て表へゆきかけた。自分はなげ出されるように床におりた。歩た二人の妹をつれて階段を下りて来た。下から父が妹をかかえすごくゆれたので、父が階下から大声でよんだので、二階にいすではのは、二階の仏だんにごはんをあげにいっていて、もの

北 のぼり窯 13 畑 西 蔵所橋 せ ٤ Ш 裁判所 陶器館 小陶 学 校原 役 けいさつ 松本屋 場 松本芝三郎正武 当時の住所(蔵所)は、現 松本与きの父である。 和歌を教えていた。 に小さな学問所をひらき、 様の山方どうしんをし、後 瀬戸へくる前は、くつかけ 在、瀬戸市民会館となって (今の定光寺の中) で徳川

けなくて表へはい出したトタンに階段がおち、家の中につんで

いた米俵がゴロゴロとろげおち、戸はかたむいてしまった。

るを七輪でにていたが、焼けつく様なその七輪をかかえて裏のその時、母と姉は裏のかまどでごはんをたいていて、みそし

庭へ飛び出したとたん、屋根瓦がダダダとおちた(すぐそばへ)。るを七輪でにていたが、焼けつく様なその七輪をかかえて裏の

表の道はまん中頃がさけて水がふき出していたし、とても歩

リで一パイだった。少しゆれのやんだ時、父が家へ入り、夜具らドドンドドンと音がし、屋根瓦がおちるので、あたりはホコけなく、小さい妹はコロコロころがっては泣いていた。何かし

をもち出し、川の土手にふとんをひいて、家族が集っていた。

が全部ひしゃけてしまい、ドロドロの水がわいていた。この土土手の中で約半ケ月、寝たり生活をした。井戸の中のどかん

管は七個位入っていた井戸である。

く、ここだけが役場のそばで、かたまっていた。東の方には五、しである)。まだ何といっても田舎で、近所に人家はあまりなけいさつにタキダシをした(勿論ドロ水で米をたいたにぎりめ幸にも、米屋であったので米に不自由はなく、近所の役場や

て住んでいた。 六軒家があったが、みんなたおれたので、竹ヤブにカヤをつっ

に登り窯がいくつかあったが、ドドンドドンといっては、くづみなこわれた様におばえている。特に西の方のオチンヤマの方いてこわれなかった。陶器工場はしっかりした建物でなかって、十分位東に宝泉寺と子寺があったが、そこは、しっかりして

ケ月位、たべものは何も売り屋がなく、皆がこまっていたが、かったが、窓がかたむいたり、入口があかなくなっていた。半隣りの学校、けいさつ、役場はしっかりしていて、こわれな

れてゆくのがみえた。

ドロ水でたいてはたべていた。

家は米屋であったので、それで、皆にわけたりして、米だけを

た

話しをきき、お父つあんが、ありがたいことだと家族に話し、様に波うってしまった。でも、こわれて死んだ人があるゲナとりると歩けなくて、はっていた。家の屋根はまるで柔かい弓の

十二日間位はゆすりづめで、タタミの上は歩けたが、庭にお

も雨が降らず、外で寝ていても心配がなかった事だった。ほつみんなでおがんでいた。一番よかった事は、この二ケ月位一度

ぼつ家を修理しはじめた。

電気ははじめからなく、あんどんをつけ、ローソクであった

岐阜の山の中だと聞いていた。ので(役場はランプであった)その心配はなかった。震源地は、

| お寺の墓、石どうろうはみなたおれた。|||卓の山の中たと聞いていた。

完全に家の中で一家全部が普通にねたのは、一ヶ月半すぎた

いった感じは、二階はとてもこわくておれなかった。ゆれがひた。勿論、食事は川の土手で用意してたべた。その時、家へは家へ、ゆれのすくない時、入るだけで、全員ずっと外で寝てい様におぼえている。はじめの十二日間は、必要なものをとりに

との間、空はいつもドンヨリにごっていて、カラッと晴れて

どく、やっともちあげてたてた。階段もこわくてあがれなかっ

が、近代の街の様子を見ると、あんな地震がきたら、街はゴチ家もくっついていなくて、にげ場は一パイだったのでよかったいなかった。何といっても、まだまだ周囲は田や畑があり、人

たが、そこで、皆が外へにげ出した時、一軒の中から、すっぱまどうしたらよいか、わからなくなってしまうだろうと思う。はどうしたらよいか、わからなくなってしまうだろうと思う。

んという事だ。 だから、ねる時はいつでもとび出せるように用心しなきゃいかとたんに家がつぶれて、その人は死んでしまったときいている。まきをきてたので、恥かしく、きるものをもとめて家へ入った

だかの母親が幼児をかかえて外へとび出したけど、みんながね

位、号外もなかったとのことです。つあんがみせてもらった位だったそうです。地震のことは半年

当時は新聞もなく、たまに号外屋が役場へ来たのを、お父っ

ゴチャにこわれた街のまん中で、一体、人々はどうなるかと思かったけど、今の町の人は水道だから、メチャメチャ、ゴチャー番困ったのは、のみ水、ドロドロの井戸水でもあったでよ

うと心配だ。

また、地下衝なんて所は、あぶないから、つくらん方がよい

し、みんなもいかん方がよい。

濃尾地震について

大 西 俊 作

(犬 山 市)

ゆき、長い間、小屋暮しをした。水かめの水がおどり出してい天気は晴だと思う。地震の時、親にだかれ裏の畑に連れられて地震の時はまだ四才で、記憶も少ないが、場所は犬山市で、

た程度の記憶ぐらいです。



濃尾地震体験記

岡 田 六四郎

(犬山市)

明治二十四年十月二十八日、母の袖にまつわりつくような恰なにぶん五才の時ですので、記憶がうすらいでいますが。

けようとしていました。晴れというべき天候だったと思います。ったでしょう。母は弟の手をひいていました。ようやく夜も明好で、顔を洗うために庭先に出ました。午前六時三十分ごろだ

時に、軒先がギシッと倒れてきました。そのあとは、もう何の瞬間、ド、ドーンと地面が真下へすっと下ったような感触と同

地底から、ゴー、ドドンと轟くような音がしたと感じたその

母や弟の泣き声や叫び声があったはずとは思いますが、はっ

きりしておりません。

覚えもなくなってしまいました。

く時だなと思っていた時に、地震がきたのです。ていました。鉄釜の中は湯がたぎりはじめ、もうじき、火をひ父はその時竈の前にうずくまって、朝飯用の釜で御飯を炊い

ギシッ、バリバリという音とともに、梁が釜の上に落ちてき

した。

必死で体を動かし、竈突からはい出たのです。朝の光で目に映裂傷をおったのにも気づかず、何としても家族を救い出そうと、定めてから、竈突を手きぐりでさがし求め、その間に、右手にねじ倒されてきたが、梁の下で、父はじっと火の消えるのを見いうことです。台所の戸棚は轟音の中で倒れ、柱、障子などはいうことです。台所の戸棚は

て、釜はバカンと割れ、禓は火の上に流れ出し、灰がまったと

父と前後して、二人の兄もペシャンコになった家の屋根呼ばれていた。今の犬山市新坂町)だったのです。

ったものは、ペシャンコになってしまった兎長屋(当時、そう

てきたそうです。三人は、泣き声、うめき声のするあたりの瓦

時の瓦の上を走る足音が、私の耳底に残っていますので、そのをはねて下敷きになっている者を救い出していきました。その

とろになって

意識がはっきりしたのでしょうか。

父の手によっ

救い出されました。兄たちは近所の方々をも救い出すべく、つかわかりませんでした。弟が泣きながら、母につかまったままて救い出された私には、なんのために家がつぶれてしまったの

ぶれた家々の屋根を走り続けました。

わら屋根の家もありましたが、ここでは、火事は出ませんで

へ出

教い出されたものの、たえず余震が続きます。父は、「 畳を出せ」と兄たちに指図して、家から畳をはこび出し、桑畑の中出せ」と兄たちに指図して、家から畳をはこび出し、桑畑の中出せ」と兄たちに指図して、家から畳をはこび出し、桑畑の中上で、話られたように、水はなくなってしまっていたので、何いと、語られたように、水はなくなってしまっていたので、何いと、語られたように、水はなくなってしまっていたので、何いと、語られたように、水はなくなってしまっていたので、何いでは、話られたように、水はなくなってしまっていたので、何いでは、話られたように、水はなくなってしまっていたので、何いでは、話されたものの、たえず余震が続きます。父は、「 畳を

近づくのがこわかったのです。 な重労働だったようです。井戸の付近は地面がひびわれていて、のいい二人の兄が木曽川まで水運びに通ったのです。たいへんのいくずれてしまったので水はくめません。そこで、元気

から、翌日から復旧作業がはじまりました。冬が近づきます。なんとしても屋根のある家に、ということいのですが、そのあいだ、雨降りがなかったのは幸運でした。桑畑の中の畳敷きで幾晩をすごしたかははっきり覚えていな

して、利用できるものはみな利用するということで、タチの低倒れた家を整理し、枘で折れた柱は、そこできって短い柱とほぞ



赤十字社の出張仮病院は丹羽郡小折村(現在の江南市)において震災 で重傷を負った患者の治療を行った

い家の形がやがて出来てきました。

意外だったのは台所の戸棚、鍋などが、梁の下にはいってい

たために無きずであったということです。

小学生になっていました。しかし、地震以前の状態にもどったと思ったとき、私はもう、

赤十字社の手によって手当てをほどこされ、他の負傷者も同様後になって母から聞いたことですが、父の右手の裂傷は日本

ものと思います。

であったということです。

金がおくられていますが、国か県かは判然としていません。オなお、おくれましたが、全壊、半壊については、夫々の見舞



濃尾地震の体験

木 源右エ門

高

(犬山 恵

日も尚鮮明であるのは、いかに地震が強烈であったかを物語る記憶ははとんど無く、地震の記憶のみが八十八年を経過した今濃尾地震が発生した時に私は数え年の六才にて、当時の他の

後に犬山町に合併し現在の犬山市になっていますが、その高雄私の住んでいた所は、地震当時は高雄村と云って居りました。

地震発生の時は朝食前にて、地震と同時に父親が幼児であるので、見当もつかぬ程深い地割れが長く続いていました。村の農道には幅七、八寸、深さは長い竹等が全部入ってしまう

強い余震が度々起り、夜は竹林の中に家財を搬出して、そことかの家が倒れたと云う話をしていたことも記憶しています。たのが転がり、家の外を回転して行くのを見ました。親達がど恐怖感も覚えています。その時、木製の臼が軒下に立ててあっ私を抱きかかえて屋外に避難する時、父親諸共に転倒した時の

濃尾地震について

安 達 は ま

冝 南 市

ゆすりかけ、皆さんが地震と言ったので家に帰る。途中守さん おんぶして一緒にどんぐりをひろいに行き、少しひろった所で ある。そのお宮に、子供をお守りしていただく娘さんに、弟が 天気は良かったと思う。朝ではんを食べて、家の北にお宮が

と、ふらふらころびそうになって家まで走って来た(お守さんが

が弟をおんぶしたままころんでしまった。自分はあちらこちら

どうしてたかわからない)。 い間その場所からはなれなかった。母が薮の中にいて、倉がた もその木につかまった。手をはなすところんでしまうので、長 家では、父が大きい柿の木にひっしでつかまっていた。自分

本家も新冢もたおれていた。

おれ、ひさしが母の肩におちて、真赤に皮がむけていた。倉は

薮の中でアンドをとぼして生活していた。

作り、昼間は家の中で、ゆすり返がくると薮の中に行き、夜は 中におれないので、薮の中にアワ、高キビ、コモなどで小屋を

家はたおれなかったが、ゆすり返しがひどくくるので、家の

ない位、大きく割れていた。父があちらの方でも割れていると お宮の方で道が大きく割れていた。大人の方がとんでもとべ

言っていました。

朝が早かったので、一般の家はまだ起ていた家や、まだ起て

で、その家で朝食をすまして買物に出掛た所でした。 いない家でした。家の近所は不幸があったので、買物に行くの

濃尾地震の思い出

本 源

林

宜 南 市 吾

すと神棚が動き、雨戸がガタガタといい出し、その時父が大声 十月の朝五時半か六時頃であったと思いますが、寝ておりま

私は当時、小学二年生でありました。

で「出よ」と叫びました。

の火を消して、外へとび出した様子であった。母は隣の老人を 私は弟の手を引いて、はって外へ飛び出しました。父は台所

連れ出しに走っていった。

すでいゆれのため歩くことが出来ず、木にとまっておりました。 地震はゴーゴーという地鳴がし、波打つように激しくゆれた。 余震は日に二、三回位で、二十日間続いたと思う。家はほと

んど倒れたり、傾いたところが多かった。火災もあったようで

す。

私の家も半倒となり、戸はあかず家具等もこわれていました。

止っていた。 屋根瓦は全部われてしまい、窓ガラスもこわれていた。時計も

道路は地割れがあり、地下水から赤い水がふき出しておりま

物は着の身着のままで、食べる物はさつま芋を食べておった。

お蔭様で家族は全員無事で、竹やぶの中で寝起をした。着る

電灯はなく、ローソクの灯で暮していた。

寝てしまう毎日でした。学校は一ヶ月ほど休校でした。 昼間は農作業の手伝をしたぐらいであった。夜は電気もなく、

供であったため余り憶えていないが、夢中の出来事で、こわか

震源地は岐阜県笠松だと聞かされたおぼえである。当時は子

った思い出が今も頭の中にのこっております。

こんな大きな地震は、他にくらべて問題にならないすでい地

震であった。

濃尾地震につい 7

野 玉

恵

浅

豊 明 市

ておりませんが、生家は尾張国中島郡明地村須賀(現在尾西市 濃尾地震当時、私は数えの六才でしたから、余りよくは覚え

起きて、朝飯を食べておりましたが、私はまだ寝床の中で地震

姉は小学校三年生でしたから、学校へ行くために私より早く

須賀)です。

を体験しました。 家の前は地割れがして歩くことができなかったので、母に手

を引かれて裏の薮へ避難をしました。

火事にならなかったために、また酒を仕入れてきて売っておえました。 もこわれてはいませんでしたから、建て直したら直ぐに竈が使もこわれてはいませんでしたが、私の家では瓦竈であって、幸いに

があって、皆薮の中の小屋で夜も昼も暮らしておりました。須毎日地震はありまして、家へ入れないので、どこの家にも薮りましたから、近所の人が買いにきたのを覚えております。

賀は薮の中の村であります。

前の家も裏の家も藁葺屋根の家で、倒れていましたが、私の

ざいません。 ようなことをお話申上げることができなくて、誠に申しわけごようなことをお話申上げることができなくて、誠に申しわけご われません。また建て直しも簡単です。



濃尾地震について

草加せ

(一 宮 市)

濃尾地震の時は、私が六才の頃です。

五城町で、木曽川の堤防がすぐ近くであります。村西五城の農業で、兄弟は兄四人の末子でした。現在は尾西市村供でしたのであまり覚えておりませんが、家は中島郡大徳

笑いました。

た。その当時は母がきびしく、学校へ行く前に、桛(かせ)をままさで親にせがみ、ようやく許されて学校へ行っておりましせんでした。私は兄達が行くのを見て、行きたいと末子の我が当時、女の子は村でも上の家(資産家)でないと学校へ行きま

さま(雷)が落ちたのだと思いました。父は朝のおつとめ(仏個目をはめているときでした。大変大きな音がしたので、夕立二個くらなくてはなりません。ちょうど一個をくりおわり、二

て倒れました。その時はじめて、地震なのかと幼な心にも恐ろ見ると、母屋の屋根が前後に大揺れにゆれて、五、六遍位ゆれへとびおり、屋敷内の蕗畑まで逃げました。蕗畑から家の方を検)をしているところでした。私を直ちに横抱きにして、土間

祖母は別の小きな家に住んでおり、地震が一時納まってからう。

しくなりました。母は勝手元で、朝の食事の仕度をしておりま

した。

おりましたので、皆安心と同時に、何となくおもしろくて皆でわりの槙の木の間に首をつっこみ「ここだ、ここだ」と言って

祖母のいないことに気付き、屋敷内をさがしたのですが、塀が

幸いなことには、どこの家からも火は出ませんでした。いま

ほど火の元となることが少ないのでよかったと思います。

納屋程度の建物がいくつもありましたが殆んど倒れました。は村でも中以下の農家でしたが、屋敷はひろく、家も母屋始め屋敷内の地が二、三本割れていたのを覚えております。私方

時代でありました。
ら、当時は、お米を食べることは許されない貧しくもきびしいら、当時は、お米を食べることは許されない貧しくもきびしいどこの家でもさつま芋のくず芋ばかりでした。農業でありなが鍋)を持ち出し、隣の人達も私方に集まって食事をしました。

朝飯がまだでしたので、倒れた家の中より大きなはそり(

いました。 つるべで汲みあげる井戸の水が、噴水のようにもりあがって

でしたが、親たちは大変苦労したことと思います。子供でしたので、地震によるあとの苦しさなどは知りません夜は小屋が全潰より少し良いのがあり、その中に寝ました。

今日の方が、天災地変の影響は大であることは当然です。ていましたので、地震による影響はありません。文化の進んだ当時は、田舎においては電灯とてはなく「ランプ」を使用し

濃尾地震の体験

今枝くわ

(豊田市)

た。 私が地震にあった場所は、小牧市東田中で、十四才の時でし

も歩けない程で、はって前の竹薮に出ましたが、ゆれが前震、私も地震にあったことがないため途方にくれ、歩こうと思ってゆれだしました。父が、地震だ、外へ出る様に言われましたが、たところ、西方でなにかごうごうと言う音がしました。すると、夜明けは雨でしたが、朝は天気になりました。朝食をすまし

火事はどこにもなかったから、大事に至らずでした。家族も父ました。竹薮で家を見ると、音を立てて半壊となりましたが、

強震、後震とで一時間余でしたが、余震が何回も相当長く続き

母、兄姉妹の五人で何の異状もなく幸でした。

友だちも異状もなく、東田中では死者、けが人は一人もなく、

特に気を付ける様に留意すること。の時、地震時には倒れてくるものや、瓦がずれ落ちてくるから、家の被害は三軒で、いずれも瓦の乗っている家のみでした。そ

家は平家と二階では、田舎では柱が少く、壁も少いため、二

階より平家の方が安全と思いました。

水は濁って使用出来なく、川の水と、食料は、火事がなかった入鹿池の堤防がきれたことと、各所に地割れのみあった。井戸山くずれ、地すべり、大水等は東田中では異状はなかったが、

て家も直しました。なく、昼夜、竹薮の中で家族と健康で生活しました。暫らくしかよりと、見舞にもらった衣類で過した。田舎には当時電灯はから半壊の家の中より出して過した。着物も前記と同様、家の

その内でも、入鹿池の堤防きれの復旧工事に地元及び地方より地震のあとで聞いたことは、各所で地割れと溜池、堤防きれ。

が屋根瓦が落ちてけがをして、小牧の医院に入院されていると人夫に出て働いている様子でした。その他お寺が倒れ、坊さん

とを聞きました。

地震の震源地は、当時聞いたが今は記憶がない。

相当倒れた。おた石どうろやお墓のせきひ(石碑)

f

尾地震当時と今とは相当違うが、二、三私の思うことは、地震の体験から、こんなふうにしたらよいと言うことは、濃

な物置きでも、家の中でなく、門の付近に作って置くとよい〕 食料、薬品等は十日位貯蔵出来る様な、地震に耐える小さ、 家は壁の多いとして、成るべく軽い方がよいと思う。

と思います。

なると、家の中より持ち出すことが出来ない場合が多いと思四 町単位に空地に貯蔵倉を作る事がよいと思います。いざと

テントの如きものを、用意して置く必要があると思います。

濃尾地震とほかの地震を比べてみると、濃尾地震の方が強か

ったと思います。

います。

濃尾の震災覚え書き

口きみ

大

(西春日井郡師勝町)

時数え年の八才、たしか隣村に在った尋常小学小木学校の一年ど恐しい事はなかった。生家は小牧市の西端の藤島であり、当わたしの生涯とも云える九十五才の今日まで、濃尾の震災ほ

っている。兄二人はすでに学校へ出かけ、つまり行きがけの時(快晴)であった事が、わたしにはなぜか強い印象となって残

生で、その日のこの地方の天気は秋特有の抜けるような青天井

異様な地鳴り音がして、それはそれは立っては居られなかった。間。私は戸外にいたと記憶する。とにかく天地鳴動と言うか、

わたしの家は全部倒れてしまっていた。とにかく突然一瞬のこれほうだい。ガラス戸は当時のことで無かったが、大きな音で、一年程前に建てたものだったが、太い柱は折れ、家具障子は倒最初に落ちて来た屋根瓦が父親に当り、足を貸我した。自宅は

とで、地面に這っているより仕方がなかった。

割れ放題で、郷中(集落の中)を帯状に大きな地割れが走り、

幸いにして自宅近隣の火災は発生しなかったが、屋敷も道も

が話合っていたのを心細く聞いたものだった。
事が判らないままにも、自分の家もよその家も全壊、村の寺堂事が判らないままにも、自分の家もよその家も全壊、村の寺堂

だった。祖先の言い伝えだったかどうか、地震は竹やぶ中へ避難することを第一とし、そのまま竹やぶの中で仮小屋を建て暮濁ってしまい、それでもその濁った水で煮炊きをした。勿論電濁ってしまい、それでもその濁った水で煮炊きをした。勿論電がのない時代のことで、夜は暗闇であり確実な情報も判らず、灯のない時代のことで、夜は暗闇であり確実な情報も判らず、灯のない時代のことで、夜は暗闇であり確実な情報も判らず、だと言う話ばかり。地震の源は北の方の方向だと人伝ての話はだと言う話ばかり。地震の源は北の方の方向だと人伝ての話はだと言う話ばかり。地震の源は北の方の方向だと人伝での話はだいた。父親の怪我も幸いひどいものでなかったようで、今の晴いた。父親の怪我も幸いひどいものでなかったようで、今の晴いたとろればからない。

ったが、何々を受け取ったと言う記憶はさだかでない。竹やぶその頃、郡役所の方の筋からか村々に見舞の物が来た話があ

り、およそ半年後に自分の家を建てたと思う。「スジカイ」のり、およそ半年後に自分の家を建てたと思う。「スジカイ」の

の中の仮住いでひと冬を過し春も終り頃、強い地震も間遠くな

こまかく入った家だった。

のにならない、地面が裂けてしまった恐しい濃尾の地震だった。地震がきたら早く家の外の安全なところまで出ることだ。大正地震がきたら早く家の外の安全なところまで出ることだ。大正地震がきたら早く家の外の安全なところまで出ることだ。大正の大風、戦争のときの空襲(爆撃は受けていない)、そののにならない、地面が裂けてしまった恐しい濃尾の地震だった。

いは地面が揺らぐ弱震がひんぱんに襲い、学校はしばらく休み

その日から三、四日間はたて続けに強震があり、半年間ぐら

濃尾地震の体験

羽 萩三郎

丹

(小牧市)

八十八年も前のことであるので、参考になる程の記憶はありま、濃尾地震についての体験については、何しろ当時六才であり、

明治二十四年十月二十八日(天候晴)朝食が終ってすぐ、ぐ

せんが、僅かばかりの記憶を申し上げます。

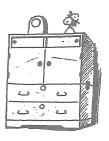
らぐらとゆれた。父が地震だと云って、兄と私を抱いて家外へらぐらとゆれた。父が地震だと云って、兄と私を抱いて家外へらぐらとゆれた。父が地震は今までにないと、大人の人達が話しないが、こんな長い地震は今までにないと、大人の人達が話しないが、こんな長い地震は今までにないと、大人の人達が話しないが、こんな長い地震は今までにないと、大人の人達が話しないが、こんな長い地震は今までにないと、大人の人達が話しないが、こんな長い地震は今までにないと、大人の人達が話しないが、こんな長いであれていたとでは解らないが、こんな長いであり、一応戸外へ出ることは出来た。隣家の四才の友達が土間に下りた時、一寸底くなっていた床下へ転の四才の友達が土間に下りた時、一寸底くなっていた床下へ転び出した。

戸毎に屋外の木の下や竹やぶの中にむしろで仮小屋を作って生落ちる程度のものが一度あった。それが二日位続いたので、各茶のでは割合小さいのが多かったが、翌日の夕方、棚から物が

幸い起きなかったが、現在では火が一番とわいと思います。震事は出来なかったようだ。地割れや地下水のふき出したことはがあった。石とうろうや墓石の大半が倒れたが、鉄道や電車はがあった。石とうろうや墓石の大半が倒れたが、鉄道や電車はの苦痛は感じなかったが、余震のあるうちは落着きがなく、仕の苦れはなかったが、現在では火が一番とわいと思います。震ちい起きなかったが、現在では火が一番とわいと思います。震ちい起きなかったが、現在では火が一番とわいと思います。震ちい起きなかったが、現在では火が一番とわいと思います。震ちいあったが、現在では火が一番とわいと思います。震ちい起来なかったが、現在では火が一番とわいと思います。震ちい起来なかったが、現在では火が一番とわいと思います。震ちい起来なかったが、現在では火が一番とわいと思います。震ちい起来なかったが、現在では火が一番とわいと思います。震ちい起来なかったが、現在では火が一番とわいと思います。震ちいる。

は倒れて人は死す、ちをさき水(意味はわからない)がふきい「ころは明治の二十四年十月二十八日の愛岐両地の大地震、家な記憶はない。

出て、その時その日の恐ろしさ………」



地震後に次のようなうたが流行したが、その一部です。充分

源地は木曽川流域だと聞いた。

濃尾大震災の思い出

八十八年前の昔ー

丹羽蓬洲

(小牧市)

一突如襲った濃尾の大地震

は只一人、朝飯を食べておりました。一人坊やの私は、母にあまえてお茶碗と箸を握って、室内に

ナリ、前庭の樫の大木に抱き着き、片手で私を抱えておるのが部屋へ飛び込んで来た者が、疾風の如く私の体を抱えて、イキすると突如、茶碗を持つ手が振るえて、何が何だかわからぬ。

父でありました

震動と、天地晦冥とでも言いましょうか、空一面に黄塵立ち籠瞬の間に倒壊したのでありました。後は間断なき物凄い地鳴り、間もなく、宅の水車工場と付属倉庫が、一と揺れ二た揺れ、一がラグラと揺さぶって、遠近からは物凄い轟音が聞こえてくる時は、明治二十四年十月二十八日午前六時三十八分、大地が

たが、地震関係のことだけは、ハッキリ記憶に残っております。その時、私は数え年の四才、満年では二才七ヶ月でありまし

く近く、空は一面ホコリ立って、此の世の終りかと感じました。れております。もう振動の麤音と、阿鼻叫喚の人の声とが、遠自然感応するものの如く、大地震だけは、今も脳裡に刻みこま人間頑是ない三つ児でも、危急存亡、生か死の非常時には、

水車工場内の従業員全部が、数珠なりに抱きついて、体を伏せ大木が一本、庭に横たわってありました。その大木に母は勿論父に抱かれて、フト隣りを見ると、その時建築用材の丸太の

ておりました。

震、地震、世なおし」と叫びましたから、生れて初めて地震をととは、何人でも不可能でありました。倒れ伏す人々が、「 地最初は上下動、次に水平動と揺り動いて、地上に立っておる

三 子供心にも親の愛情の有り難さ

知りました。

将に倒壊せんとする母屋の中に飛び込んで、危険を顧みず、

最初の劇震に続いて、また激震と間断なく地震は長く続いたつ児の胸に深く深く刻み込まれたのでありました。

める光景でありました。

二 三つ児の魂百まで

ので、母家の破壊した人々は竹薮へ避難しました。

四 大地震の震度

以来の大震災でありましょう。 昔、安政元年十一月四日の大地震を聞いておりますが、それ

から、想像を絶する大震災であったと思います。四十四回、微震七百十五回、計八百八十六回と記しております」東春日井郡誌には二十八日より一ヶ月間、劇震一回、強震が

たなかったと言うから、其の一端が伺えます。と称しておりましたが、その測候所の震度計が壊れて、役に立と称しておりましたが、その測候所の震度計が壊れて、役に立

場用として二、三トンの水が常時流れておりました。は通水しておりませぬが、この頃は家庭用、防災用や、水車工

拙宅に添うて西側を合瀬川の清流があります。現在では冬春

には水が無かったと言うことを、後日話しで父母から聞いておその清流の水が全部堤防上へ、地震で揺り上げられて、川底

ります。

事の石垣は、当時丸石材を舟で冬春の平常通水期に運んだもの参考までに付け加えますが、合瀬川や新木津用水等の護岸工

でありました。

録して、その様相を偲び、災害対策の一助ともなればと思いま当時震災の惨状を記した、東春日井郡関係の古文書を左に採

す。

明治二十四年震災町村別個

小牧市行政地区域

外山村

小牧町

知多里村

境村

(元小牧町)

岩崎村 久保一色村 味岡村 (元味岡村)

池林村

大野村

大草村

陶村

(元篠岡村)

-54-



無電力時代と水車工場の役割

を算したと伝えておる。

計一五、三〇一戸

四七〇戸

破損 半潰

八六七一戸 三五五三戸 三〇八四戸 小針入鹿新田

藤島村 多気村

(薬師寺村後豊山町合併)

(元北里村)

北里地区被害 三三戸 二四八戸

当時東春日井郡内の被害

全潰

小木村 小針村 市之久田村 小針己新田

水車工場万能時代がありました。 明治二十四年時代は、小牧地方には水力電気もなく、勿論石 今は何処にも水車工場を見受けませぬが、小牧市地方にも、

油発動機もなく、電燈は尚更ない。小田原提灯時代から、石油

した。 力源で、米麦の精臼、小麦の精粉工業は、水車の力に依存しま と思いました。 カンテラと、後に石油ランプができて、世の中が明るくなった そこで農村地方の労力源としては、水車工場は地方唯一の労

農村では、酒造業や水車工場は、比較的地方の余力ある人が

経営したものでありました。

か「木綿を繰る」とかと称して、水車工場で精製機械を運転し 明治の初期には、小牧地方は木綿の産地で「木綿をひく」と

たことを記憶しております。

知っておりますが、可動しておったかは覚えがありませぬ。 大震災当時、工場の一部に木綿精製機の残っておったことを

にも記録されております。 震災当時、まだ木綿栽培が行われておったことは、郡農会史

ろうが、外国綿花の輸入で、自然減退したのが主たる原因で、 小牧市地方の木綿栽培の断絶したのは、風土気象の変化もあ

桑樹栽培と養蚕に移行したものと思います。 大変な脱線をしましたが、明治末期になって、石油発動機が

各地に普及し、次で水力電気の開発で、各地に電気事業力が普

られた水車工場は、自然と影を消してしまいました。私方もそ 及しましたので、農村唯一の動力源として、一般民衆に愛用せ の一つで、大正十四年に工場を閉鎖しました。

六 震災と避難場所

した。従ってスワ地震と家内中の者が、前庭先へ飛び出しまし 当時の私方の母屋は、堅な木造建築で、屋根は萱葺でありま

> 遇う危険がありますから、突嗟に飛び出す方向は、平素茶話し たが、現在のように、邸内全部瓦葺では、屋根瓦の雪崩落らに

に考えておく必要があります。

薮の中へ仮小屋を建てて、住居とした人もあります。

この時、母屋を壊された人々は、余震が尚続くので、

すが、後からでもよい。火の元用心は、重要注意事項であると 突嗟の場合、火の元用心は、手の廻らぬ場合もあると思いま

思います。

七 惨状を極めた震災

罹災程度の記録としては、幸に小牧村と小牧原新田を合せた

小牧町の古文書は貴重な文献であります。

それによると、

総戸数 総人口 四、〇九一人 九七九戸 圧死者 負傷者 四六人 十四人

と記録があります。

三百四十一人、負傷者千百二十二人に及ぶ、比例数字が出て、 これを現在の小牧市人口十万人に比例推算しますと、 圧死者

劇震の程が偲ばれます。

また郡農会史の記す処では

「小牧、小牧原新田を合せて、全潰二百二十二戸、半潰五百七

十一戸、破損百十一戸」

と記録しております。

日本の近代史で、天災編と言えば、濃尾大震災はトップを競

う大災害であった。

死者七千二百人、負傷者一万七千人という空前の災禍となって は、愛知、岐阜両県で、倒壊家屋十四万二千戸、半壊八万戸、 桑新聞が、明治二十四年十月三十一日の朝刊で報道した被害度 当時名古屋地方は素より、愛知県代表の地方新聞であった扶

救恤援護

おる。

を下し賜はる 宮内省」と、掲載せられておる。 対し、「其県下非常の震災に付 聖上皇后両陛下より金参千円 扶桑新聞の見出しに「御手許金の下賜」と題して、愛知県に

され云々と報じておる。 食させられ、勅使として侍従北条氏実氏を、愛知県下に差遣は また勅使として、天皇陛下は畏しこくも、尾三濃の震災を聞

ておるが、震動全国に及んだ大震災であったから、国を挙げて 引き続き畏しこき辺りからは、度々御内帑金を御下賜になっ

各界各層の団体有志からの義捐金や、救援物資は巨額を算した

のであった。

全潰全焼 半潰半焼

先ず倒壊家屋や半潰家屋には、小屋掛け料を支給せられた。

三円五十銭

五人家族 七円

六人家族

八円

四円

九円 四円五十銭

七人家族

人六十二銭一厘宛、半潰男一人四十一銭四厘宛、女一人三十 次で第一回分食料給与、全潰男一人金八十二銭八厘宛、女一

斯くて、官民を挙げて、尾三濃大震災地方救援の幕が、開か

銭宛、第二回分も同額を支給せられたのであった。

れたのでありました。



野 國 三. 郎

浅

(稲 沢 市

濃尾地震の時七才でした。

濃尾地震は美濃尾張(名古屋市、

津島市、

稲沢市、

一宮市

に避難をしました。

萩原町、起町)が被害が大きかったようです。

遊んでいましたが、上下にゆすりましたから、立つ事が出来

ませんでした。

ました。最初、何事か起きたと思いました。 地震の日はくもり。我家の前が、地がわれ、水と砂が大分出

片原一色にては、四、五軒の家がのこりました。

安全な所にいました。地震の時、上下にゆすりましたから、歩 地震のゆれは、四、五日続きました。地震の時は、 なるべく

した。 く事が出来ませんでした。前震、余震、小さい地震がつづきま

を作り入りました。 我家の前の畑に小家を建て、町内の人がねました。野天風呂

> 加 藤 す 江

(稲 沢 市

起きました。前日の夜にも地震があり、すぐ地震だと思うと共 わたしの家庭が台所で朝食を食べているときに、濃尾地震が

避難させていたことをおぼえています。外に出て、地震が続い した。父親は親せきの子をあずかっていましたので、ひっしで したが、歩くことができないので、何度かころび、はって出ま

濃尾地震は大きくゆれたので「外に出よう 」と立って歩きま

危険とおそろしさのために、竹薮での生活が七日七夜続きまし てあぶないので竹薮に行きました。何度も何度も余震が続き、

Ŕ では数家の家がたおれました。やぐい家はたおれ、丈夫な家で た。雨のために中止し、家での生活がはじまりました。 地震のために家がこわれたり、かたむいたりしました。 かたむいたり、ひさしがおれたり、戸や障子、壁などがお

ちたり、まがり、たいへんでした。 家の井戸の中より、水がむくむくとわきでていました。多

るところもありました。その中で、村人は津波がうちよせると 数の井戸は泥水でした。地われした所から、水がふきだしてい いううわさがおこり、落ちつかない日々でした。

竹薮での生活をするために、小屋をつくりました。

戸があかなかったりするので大変でした。幸い、野崎では火事 保する仕事をし、野良仕事はしなかったと思う。夜などは落ち に入りました。余震などが続くなかで、生活に必要なものを確 がなかったので、家がこわれたり、たおれても必要なものは手 ました。必要なものは家から持って来ましたが、家に入るにも うのは、戸でかとい、むしろをひき、屋根も戸をあてたもので、 ついてねていられなかったようでしたので、仕事などはできる 食事をつくるために瓦でかまどをつくり、火がたけるようにし 小屋とい

伊勢の大工さんにたのむ家が多く、どの家もつぎつぎになおし ていきました。村にある寺の本堂は、そのときに建てたもので 地震がおさまり、家を建てたり、直したりするようになると、 状態ではなかった。

屋根瓦が落ちた家が多かった。ひさしがおれたりした。 野崎で死んだ人はいなかったが、けがをした人は多かった。 す。

三、昼間は竹薮の中で生活し、夜は安心してねていられなかっ た。

濃尾地震の体験談

村 3

洄

宮 市)

ず、畳の上でお茶碗と箸を両手に持ったまま、立っては転び、 したが、母の後を追ってあわてて逃げ出そうとしたが、歩かれ へ飛び出した。私は母と向い合って二人で朝御飯を食べていま って居た養母は、「あっ、地震だ。」と大声で叫びながら、 「世なおし、世なおし」と、急に立って二言三言独り言を云 かど

いた時には、 た。間を見て母は怖る怖る傾いた家にはいり、戸外へ連れ出し ました。私はあまりの事に驚き、唯ふるえるばかり……気がつ 前の寺のお御堂もおくりも全部倒れ、東の家もす

っかり倒れていました。私の家は北側にあった何本かの大きな

家の中につないでいた犬は、大声でキャンキャンないていまし してくれました。かど先の大きな椋の木の根元へ避難しました。 立っては転んでいる所へ、母が家にはいり、引きずって外へ出

雑木が支えになって傾きました。これだけの大きな出来事も音 は全然きこえませんでした。

で判りませぬ ので怖くて怖くて、でも合い間を見て傾いた家にはいり、 屋を立てて過しました。チョコチョコ小さな地震がゆすります は倒れた家に押し潰されて、たくさん死亡されたと話していま 水を使用したと思います。小学校は通学させて貰えなかったの で話し合っていた所が、それからどれ程立ったかは忘れたが、 な品を取り出して、小屋で暮しました。井戸は地震直後ドンド に出かけて留守でした。父の帰りを待って、椋の木の下に藁小 した。たしかお天気は良かったと思います。父は法定寺へ仕事 ン水が吹き出したので、この辺は湖になってしまうだろうと皆 た事を記憶して居ります。母は、良くあの時朝寝坊していた人 一辺に砂が吹き出して水が止ってしまいましたので、用水の川 丁度その日は母が外出する予定で、ふだんより朝食が早かっ

した。 れて、屋根の上を歩いたと申して居りました。 後になって亡夫の話によると、萩原の町並は西側から家が倒 地震のあった時、 私は五才で、まだ学校にいっていませんで

があかなくなるので、まず先に戸をあけること。二重戸は締め さは一日たりとも忘れた事はございませぬ。 八年目になりますが、夢のように思います。でも地震の恐ろし 当時は今の稲沢市丼堀に住んでいました。あれからもう八十 地震が起きたら戸

> が聞えたので、その深さは計り知れないと思います。 あと地割れの中へ瓦のかけを落して見たら、暫らくしてから音 があいたり、すぼんだりするので、落ちたら大変です。地震の ずに何時も出易く心掛ける事は毎日実行して居ります。兎に角 大きな木の根方に避難するがよいと思います。地震中は地割れ 田舎では初期の中に外へ出て、地割れが出来るから、やぶとか

濃尾地震の体験談

森

WQ.

(名古屋市東区) 7

家は農家で、広い場所でしたので、逃げる事には苦労しません した。いつまでも余震が続き、大変恐ろしく思いました。 した。家の者全部が茶わんと箸を持ったまま、表へ飛び出しま 朝、 家で、家中で朝食をとっていたとき、突然地震がおきま

でした。

した。兄がその小屋から学校へ通っていました。家内一同は裏の竹籔の前に小屋を作って、そこで寝泊りしまていました。その跡はつい最近まで残っていました。村の中の道路には大きな地割れが出来、処々に水が吹きだし

ただ毎日こわかった事を、いつまでもいつまでも憶えておりまなにしろ幼ない時の事であって、余り記憶しておりません。しました。

濃尾地震の驚怖

成田増次

(豊 明 市)

場所、愛知県愛知郡沓掛村字上高根(現在の豊明市)。地震にあったのは、年令学年よばり八才、尋常小学校一年生。

実兄が布団を頭から被ぶり、よろよろとして出て来た。私は早朝起きたばかりだ。天気は雨はなく、曇っていたように思う。

鳥も低い空に、とまどったような羽ばたきをしていた。始めく起きたが足がもつれ、 もたもたあるきより出来ない。

地震と知った。 は何が何んだか判らなかったが、しばらくして人の話しなので

で、屋敷内に仮小屋を建てて、地震の被害より逃がれるため一はあったが無事だった。そとで親達と子供で木と竹を縄で結ん家の屋根も波打つようにゆれていたように思う。少しは痛み

た。父母、兄弟、姉妹、皆無事。時計も止っていた。震源地はって、そとで生活していた。火を出さないように火元に注意し

週間位と思うが、仮小屋生活がつづいた。隣の家では竹薮があ

美濃の方だと聞いた。

った。 おが上高根は、名の示すように高地にあり、地質も固くて、我が上高根は、名の示すように高地にあり、地質も固くて、

当地では、是れに比較する地震はその後ない。

濃尾地震の体験談

市川斧二

(名古屋市瑞穂区)

物心ついた位の年でした。明治二十四年十月、濃尾地震があった。当時、私は五歳で、

地震にあった場所は、愛知郡日進町大字野方でした。居間で

うでした。野方の家は北に竹やぶがあって、その北を天白川が字があった。今では日進町になっています。大字野方は二十五、大軒の人家があったが、瓦がとんだり、屋根がとんだりした様大軒の人家があったが、瓦がとんだり、屋根がとんだりした様大軒のの野方は日進村大字野方と大字高上と大字新田の三つの当時の野方は日進村大字野方と大字高上と大字新田の三つの当時の野方は日進村大字野方と大字高上と大字新田の三つの当時の野方は日進村大字野方と大字高上と大字新田の三つの

表でブルブル震えていた。

んで来て、私を抱いて表へ出られた。佘震が来そうだったので、遊んでいたらグラグラときた。それ、地震だといって、父が飛

が通るようになった。

中で暮していた覚えがあります。

電車はまだ敷設されていなかった。最近になって、名鉄豊田線らは川が豪雨になっても、家へ水のはいる心配はなくなった。地震のため戸障子の開け方がやや悪くなった。地震や豪雨に地震のため戸障子の開け方がやや悪くなった。地震や豪雨に地震のため戸障子の開け方がやや悪くなった。地震や豪雨に当時野方の家は農業をしていましたから、父母は佘震を心配当時野方の家は農業をしていましたから、父母は佘震を心配

二つは、はっきり覚えていましたが、外の事は覚えていませぬ。を理された。お墓の墓石も二、三ケ所で倒れたと聞いた。年か経ったが、濃尾地震ほどの大きかった地震は無かった。たが、濃尾地震はどの大きかった地震は無かった。との地震のため道路の陥没(地割れ)が各所にあったが、追々と地震のため道路の陥没(地割れ)が各所にあったが、追々と



間余りつづいたので、家の中でこわくて住めず、うらの竹薮の中を流れ、家の中は水びたしになる。濃尾地震では余震が一週流れていた。豪雨に見舞われたら天白川の水があふれて竹薮の

濃尾地震について

長 江 かのふ

(瀬戸市)

えていません。その中から思い起とすままに、申し述べたいと私が九才の頃のお話ですので、不確かなことが多く、よく覚

思います。

周囲の家は少なく昔づくりのがガッチリとした家ばかりでした。私が住んでおりましたのは、日進町の三本木の田舎家です。

最初の地震の時、外に飛び出しましたが、歩けるような状態

うに気味の悪いことといったらありませんでした。小さな余震、本震など、一時間ごとにゆれる感じで、ほんとではなく、やっとのことで田んぼまではっていきました。

な被害はなく、屋根瓦が落ちたり、戸があがなくなったり、ゆぼで過ごしておりました。幸い、村の家にも、村の人にも大きー週間も、この地震は続いたでしょうか。その間ずっと田んに簡単な小屋がけをして、一家中避難をしておりました。

がんだりした程度だったと思います。

地では大変な被害がでたと聞いただけでした。

その後、このような大きな地震はありませんでしたが、震源

濃尾地震について

野 ふ さ

L

(西春日井郡 西枇杷島町)

小さいながらも余りの恐ろしさの思い出は、九十年をすぎた今小さいながらも余りの恐ろしさの思い出は、九十年をすぎた今私は西枇杷島町字松原町に住んでいて、当時は五才でしたが、

も去りません。

態でなく地に倒されました。近が黒くなり、どんと振動が起きて、とても立って居られる状もう早くから起されていました。空が急に暗くなって、一瞬付

震災は午前五時頃でした。私はこの朝、妹が生れるとの事で、

大火となり、警察署、二松小学校も燃えました。私の家はその並の家は殆んど全滅で、しばらくして材木屋から火の手が上り、震動は七、八分続いたかと思われます。この瞬時の間に、町

燃えて来ましたが、神社内にある樹齢何百年と言われますいち

風下の松原神社の二、三軒東隣にありましたが、火は神社まで

ょうの木の大木で火が止まりました。

ら、このによう。青ヶに気をということ。 ますが、お蔭で私の家は火災よりまぬがれました。 よく大火の時、大樹が水を吹いて防火の一助になると言われ

りました。
助かったことになり、私も其の日に限り早起きをしていて助かいました。時間が早かったので、早起きしていた人がようやくいました。時間が早かったので、早起きしていた人がようやくいました。

た。

なともなれば電灯がない行燈時代のことであり、真暗の中、現類より持って来た梅干、味噌で過し、水は庄内川のそばより出ている井戸の泥水のようなわずかな水ですごしました。半年親類より持って来た梅干、味噌で過し、水は庄内川のそばより張灯の灯で裏の畑の野外で二、三日過すことであり、真暗の中、極ともなれば電灯がない行燈時代のことであり、真暗の中、

学校は全部倒れ、なかなか復旧の見込も立ちませんので、姉間を体では大勢の死亡者、けが人は名古屋市より多勢積んで火葬が行われました。また、けが人は名古屋市より多勢でお医者さんの来援で、同じ場所で手当がおこなわれました。山に



西枇杷島町では、第三師団兵が死体の掘索を行った

濃尾 地震体験談

凙 B <

古

(小牧 市

才でした。学校はありませんでした。 地震にあった時、私は明治十五年八月十五日生れで、当時九

地震にあった場所は、西春日井郡師勝町大字片場字天王森で

あり、繁った中に社がありました。堤防は名古屋から通行の道 した。その当時は、今の合瀬川のほとりで松の大木が五、六本

で、人力車が常に休む所でした。 地震は、北の方からドドンと地鳴りがしてきたので、父や母

かった。兄姉は私が死亡したと思って大さわぎしましたが、声 柱で組立ててあるので、家が倒れても其の中にいて負傷はせな でいたので、急に出る事が出来なかった。台がらは四寸角位の 前へ出たので助った。私は子供で、米を搗く台がらの中で遊ん ひざ皿を負傷し、母は戸口を出るとたんに家が後に倒れたので、 は無茶苦茶逃げ出した。父は立って行けないから這って逃げ、

> がするので家を破って出してくれました。こわかった事は、突 然の出来事にて、何が何だかわからない。おそろしい一ぱいで

月位いつづいたと思います。気の付いた事は裏に梅の木があっ けない程、急激にゆすりました。地震の後は、小さいのが一ケ た。それを父母や姉達が見て、梅は寒に咲くのに、今九月二十 たそうです。ゆれた事は、口でどれ程と言えないが、立って歩 ったようです。また隣の水車屋の人は、突然大水がきたと思っ 何が起きたと思ったかと言うと、大人の人は大風が来たと思

かも知れないぞと話をしていた矢先の出来事です。 六日に咲いているので目新らしい事だ。何事か大変な事がある

前震はなかったが、後震は度々あって、毎日仮小屋のほっ立

て小屋の中で寝起して居りました。

にて死亡の憂き目を見たとききました。また足や手を折って、 るので、あわてて両端を一度に切り落し、体の上に落て、目前 人があったので、付近から人々がきて見ると、大きな木下にい あまりきいて居りませんが、倒れた家の中で助けを求めている 死者、けが人は少なく、朝早く起るので、朝食すんだ頃にて

浅井の林平さんへかつぎ込まれた人もありました。隣り村の農

もよかったようです。

はほとんどありません。山くづれ、地すべり、大水等、私の処幸いの事に、朝食後のため火はたいていないので、火事はあり幸いの事に、朝食後のため火はたいていないので、火事はあり家が倒れた事では、師勝町一帯は砂質土のため地盤が弱く、家が倒れた事では、師勝町一帯は砂質土のため地盤が弱く、

数とても土質が弱いため引割れて、地下水が噴出し青い砂が流が引割れて、麦俵が下の方へ落ち込んだ事などありました。竹ぶ当出たり、膵戸水が濁り、ふき出したり、隣りの水車屋の庭路が凹み、庭が引さけ、一メートル位のみぞが出来、地下水がた。而し古木津用水の今合瀬川堤防が沈下し、断層が出来、道

れ出すので、こわくて逃げ込む事も出来ません。

では濃尾平野の真中ですから、そのような事はありませんでし

れる代用教員でした。

流火を防ぐため間引こわしをするのに早いから都合のよいよう一間おきに柱を入れての建方です。東京では火災が多いので、に建てる事にしました。ところが尾張の建築の仕方と異なり、その人が東京から友達の大工さんを呼び寄せて、私の家を最初をの人が東京から友達の大工さんが尾張の建築の仕方と異なり、

を入れて下さるようにと話が付いたとの事です。

にとの事です。それでは私の方では家が弱いから、三尺間に柱

生と言っても木綿着物にコロンコロ下駄をはいて、学校へ行か兄さんや其の他の人より、いろはを習い覚えた位です。当時先よとの事でしたが、十五才で一年生とは恥しくて行けないので、学校の事に付いては、その当時は学校はありませんでした。

六銭でした。買ったたまりはうまいけど高価に付きます。見舞に行く(一千二、三百メートル位の所)。たまり一升買うと金一日働いて、大人で十五銭から二十銭位です。私が豊場へ買物会社も工場もありません。父が堤防直しの人夫に行く位で、

品は役場から古着の配給がありました。

とで襦まではずしてねていて、急に地震で真裸体で飛び出し、る時、着物や紐を身に付けていると、かゆくてねむれない。それにある物は何でも持って出よ、手ばなしで出るなといいま枕元にある物は何でも持って出よ、手ばなしで出るなといいま地震の後できいた事では、父母の言葉に、いざと言う時には、地震の後できいた事では、父母の言葉に、いざと言う時には、

家が倒れて着物がない恥かしい思いをされた実話があり、非常

時には何でもよいから持って出よと教えられました。

ろん消毒などする由もない。農村の場合の事である。
対き、莚を敷いて台所としていたため、蚤の発生が多い。もち敷き、莚を敷いて台所としていたため、蚤の発生が多い。もちの文章で、不潔で蚤が多いと書きましたが、昔は十軒に二

震源地の点に付いては、今日のように確たる報道がないから 知らないが、北の方から村人のぎわめく声がきこえて来ました。 知っている。北の方から村人のぎわめく声がきこえて来ました。 なた寺や神社の様子は知りませんが、家が倒れたから石灯籠や るで電柱、電車、鉄道など半径一里位にはありませんでした。 たや鳥など鳴いたでしょうが、自身の体に恐怖を感じている次 等で、そこ迄気が付きませんでした。

二人共不幸になった人があったからです。 はいけないと言いました。其の当時、子供を取り出しに行って人共やられるから、しばらく震動が止むまで家の中へはいってに震動がある時は、子供を忘れてきても、取りにもどっては二

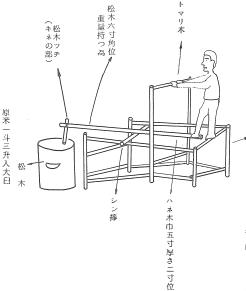
濃尾地震以後今日までには、小さい地震に度々あいましたが、

には何も置かない事。火元に注意する事。昔と今とは火事の出には何も置かない事。火元に注意する事。昔と今とは火事の出場合でも持ち出す事の出来るよう注意が必要と思います。一日分確保していれば二、三日後には救援が来る事でしょう。それまで引延し、空腹ながら保てましょう。濃尾地震の時は今の十まで引延し、空腹ながら保てましょう。濃尾地震の時は今の十分の一程の住家であり、農家は宅地が広いから、仮小屋も宅地分の一程の住家であり、農家は宅地が広いから、仮小屋も宅地

) 米搗機(台ガラ略図)

昔の

絵又は杉四寸角位(全体の骨組)巾ーメートル五○位



倒れた家を破って食糧や着物など取り出す事が出来て、極端なまた必要もありませんでした。幸いに火事が出なかったため、内に作る事が出来たので、避難場所など決定した所ありもせず、

不自由など少なかったようです。

れ位しか覚えて居りません。常な強味がある事がよくわかります。濃尾地震については、と常な強味がある事がよくわかります。濃尾地震については、盤が堅いので、寺の境内にある秋葉堂が一軒倒れただけときい盤が堅いので、寺の境内にある秋葉堂が一軒倒れただけときい私が後に嫁いだ小牧市多気南では、当時の話をきく処、地

濃尾地震について

高 間 善右エ門

(西春日井郡清洲町)

永安寺で濃尾地震にあった。 私は明治十八年十二月三十一日に生まれた。そして清洲町字

して仕事はこわれた個所を修理することだった。

震でした。二、三軒西で婆さんが地震だと叫び、表へとびだし、い、出て行けと追い出され、二、三軒西へ逃げた。それが大地五、六軒東に親類があり、朝遊びに行っていて、それあかな

へ帰りました。大地震で全町家が倒れ、表の道は大きくくづれ、体験しました。父親が私をさがしにきて、婆さんにお礼して家私の体を衣服を包んで助かった。死は免がれ、地震の恐しさを婆さんが道の真中へとび出し、大地震だと私を道の真中へ出し、

道は大ひびわれして、地震の恐しさに身が震えた。

一軒もなし。地震の恐しさは初めて体験しました。地震の日のでやぐらをくんで過ごした。付近の家は全部とわれ、建ち家は西春日井郡清洲町字永安寺近所の家屋は全部倒れ、屋根の上

天気は晴天で、当地の家は全部こわれ、皆野宿。どうなるか心

た。また堤防も無事だった。しかし地破れ、地下水が出た。そた。時計も全部止り、こわれてしまった。家は二階が安全だった。地震の恐しさを体験しました。震れがひどく全家屋倒れた。配して、家はこわれ、明地野で、地震ということは知らなかっ



濃尾地震の思い出

伊藤受一

うか。

(犬山市)

明治十八年、丹羽郡扶葉町に生まれ、六才の時に同地にて濃

った途端家がゆれはじめ、父の「地震」という声とともに、父当日の天候は晴のようであった。家族一同朝食のため箸を持

尾地震に遭遇する。

に手を取られ家族一同、家の裏にある竹薮の中に避難する。と

今後余震のあることを考え、その日のうちに竹薮の中にムシの時の怖さは、家の中にある物が落ちることであった。

が、危険を予想し許されず、臨時小屋の近くで遊んだ。は記憶にない。この間子どもとして近所へ遊びに行きたかった口を敷き、まわりに板をはって生活したが、何日間過ごしたか

られず、大変に残念です。

傾むきによる建具の開閉の出来なくなったものが多かった。ったのが何よりであった。只家具類の倒れての破損と、家屋の家屋は平屋であり、わらぶきのため倒壊はなく、火災のなか

するものは予測することが出来ない。よって「備えあれば憂い当地方は幸いにも被害は軽微であってよかったが、今後発生

地域ぐるみの防災計画及び、それの徹底が大切ではないでしょなし 」の格言のように、各家庭、各地域において、住民一同、

濃尾地震の記憶

木 栄 寿

沢

丹羽郡扶桑町)

五才とは、文明の各段の相違で、記憶体験に、確たるものが得私 は、 当時 五才 で、 今か ら、 八十八年も昔のこと、現在の聞紙上で明らかでどざいますが、今回の濃尾地震の関係ですが、

近年地震についてはいろいろとで配意を賜わり、重大性は新

ころがって歩けなかった。余震は二年程続き、家族は、父母、五才の時、家で遊んでいた。子供であったので、地震の時は、明治二十四年十月、午前九時か、十時頃、天候は晴、年令は

わらぶき屋根で倒れなかった。現在の家は昭和二年に新築し、いる。地震により死亡した人は、組にはいなかった。私の家は

兄姉は二人で、六人家族。祖父がこの年の地震の前に死亡して

前の家は他人に売り、現在も当時の姿で残っている。付近には

火事はなかったようです。畑にはかなり強い地割れが出来、農

作業に困難を生じた。

震時は竹薮の中で、生け込み柱の小屋を作り生活した。電灯は井戸水はもらい水。くずれた井戸もあり、水がにごった。余

震源地は、尾張、美濃界と聞いた。お寺やお宮は、地震で倒なかった。学校は倒れ、生徒数は五十人程、新聞はなかった。

れ、以後修理された。名鉄犬山線はまだなかった。大正元年八

いたので、記憶はあり、前に音響がしてきた。記憶ない。濃尾地震の後は関東大震災。この時は年令も達して月開通。タヌキやキツネ、川には魚が生存していた。地鳴りは

ブロックべい、ガス、石油、電気による火災の発生、道路によ生活様式は全く違う。瓦ぶき屋根、建具はサッシ、ガラスで、閏いている。現在との程度の地震が起きたならば、住居構造、は軽量なわらぶき屋根で、地震による人身事故は少なかったとは軽量なわらぶき屋根で、地震による人身事故は少なかったと

した。

濃尾地震の体験について

坂 竹十郎

津

一宮市)

した。当日は晴天。 明治二十四年、中島郡祖父江町上丸渕にて、朝地震に合いま

した事を書き出しましたのであしからず。私は当時八才のためあまり記憶がなく、ただ漠然と、思い出

家を建て直してくれました。地震の震源地は美濃尾張と聞きま畑にカヤをつって一週間過しました。そして大工さんがきて、まい随分と困りました。

る自動車の事故、避難場所の確保等、諸問題が山積している。

した。お寺の門がたおれました。

濃尾地震の体験からの思い出

服 部 かまを

(名古屋市東区)

がおこらなかったのが何より。

び、立つ事も出来ず、兄は使用人と共に表にとび出す。かいと共に、横ゆれのはげしさ。思わず表にとびだし、でも立カンと共に、横ゆれのはげしさ。思わず表にとびだし、でも立かと共に、横ゆれのはげしさ。思わず表にとびだし、でも立れと、表入口にある風呂釜のたき口に頭を突き込むようにころんと、表入口にある風呂釜のたき口に頭を突き込むようにとび出す。私の生家は、愛知県中島

中に物を取りに入るのもやっと。時々ゆり返しがあるので、と月ほどつづいたとの事。幸い家は倒れずにすんだものの、家の一旦は納まったものの、それからは竹やぶの中の生活が三ケー

わくてとても入れなかった。

こがわからない。それに川より堤防がひくくなり、とてもこわ竹やぶでも地割が出来て、のぞいても根がはりめぐり、全くそ家もあり、地割が出来、中をのぞいても、そこがわからなく、をなり村(八開村)のお寺が倒れ、朝おまいりにいっていた

それに岐阜の方はとてもひどかったようです。私の村で火事ゆれて、それから久しく何もおこらなかったとの事です。くて、三ヶ月ほどゆれ通し。その後、三年後に一寸大きいのが

尾地震の体験

濃

本みさ

森

(西尾市)

私は当時七才でしたが、濃尾地震については今でもハッキリ

と覚えています。

当日、私が母と兄のあいだで寝ていると、ドンドンと大きな

当時私は中島郡祖父江町に住んでいました。

音がして、突然家が大きくゆれました。

私は母に抱きかかえられて表に飛び出し、みかんの木の下に

避難しました。

まり竹薮の中に、むしろで小屋を造り生活しました。その後も数日、何回となく余震がありましたので、四十日あ

私の家は平屋建てで、かなり大きな家でしたが倒壊してしま

い、付近の家も建っている家がなく、全滅状態でした。

たが、となりのはす池村は早起きの人が多かったので、朝食の私たちの村の人は、朝寝坊が多かったので火事は起きなかっ

| 文度をしており、火事が数件起きました。

石垣がくずれ、道路の地割れ、もくの木が倒れたことなど、私たちの学校も全壊したので、他の学校へ皆んな行きました。

今でも忘れることが出来ません。

濃尾地震の思い出

山内はま

(稲沢市)

中島郡祖父江町大字祖父江字居中という所に住んでいました。

地震の時、私は六才でありました。地震に合った時の住所は、

日は、父は名古屋に行って留守でありました。家族は、祖母と両親と私と妹の五人でありましたが、地震の当

な音がしました。

のお寺に朝詣りに行っていました。祖母が朝食の用意をし、お母は四才の妹を負ぶって、朝食前に近く(五〇〇メートル)

仏壇にお供えをしていた時、ドドドド……と物凄い大きな音が

母もお寺詣りから帰って、二人の無事な姿を見て、よかったよい私は只驚いていたら、祖母が私の体を引づって外に出してない私は只驚いていたら、祖母が私の体を引づって外に出してない私は只驚いていたら、祖母が私の体を引づって外に出して立つ事も歩く事も出来ず、そのままじっと揺れのおさまるのを立つ事も歩く事も出来ず、そのままじっと揺れのおさまるのをが、上れだので、立って見ると、家が倒れて居り驚きました。

かったと喜こんでいました。

議に思っています。二日目の昼頃、隣の家が倒れた時には大きたが、家の倒れる大きな音が殆んど耳に入らなかった事を不思大半以上倒れたと記憶しています。地震の時、大半の家が倒れるなく、ランプ生活をしていましたが、地震のため付近の家は

ら、体がぐらぐらと揺れ、立っていられない程であったが、丁りドドドド……と物凄い地なりというか音がして来たと思った地震当日の母の話によると、お寺詣りの帰る途中、西の方よ

度道路端の杉の木があったので、木に両手でつかまって、揺れ

幼少の時の事で、詳しい事は覚えていませんが、当時は電気

の終るのを待っていたら、足元の地面が割れて、土水が吹上が って来た。また目の前の家が二、三回揺れて倒れたが、ぜんぜ ん音が聴えなかった。ほんとにあんな恐しかった事はなかっ たと話してくれました。 地震当日は、はっきり覚えていませんが、天気は良かったと

思っています。また井戸水は変化がなかったと記憶しています。 せん。何といっても六才の時でありますので、記憶をたどって 書きました。 救援物資はあったと思いますが、はっきりした記憶はありま 意して置く事が大切であるので、家族にその事を実施するよう 地震は何時起きるか解らないので、日常より非常特出しを用



すること、殆ど既人べからず、

| 国本日本日本・一日本本本大学日と地でたっし 版記よ。(可認者信識) 雑言 可能 このなべ 間点をなれ、地震とは し震災 心の変形での大変大 方方形の英

> 書信を 90%

飛の間に聴く、宛然なる叫喚の地獄なり、源車通死處と知らかるものわり、悲鳴哭泣の意、鬼石鏤い。 もの幾千百、見を失び、妻を山し、父母兄弟をの 電、覆々般々、山を紙し御を振し。神怪術れ、地皮 の、ことでは、山を紙し御を振し、神怪術れ、地皮 の、ことでは、一道地底の火 の、ことでは、から、ことでは、から、ことでは、から、ことでは、から、ことで 維持明治二十四年、十月二十八日、聴天全く晴れ ば、我日本の火山帯中、その中央の横斜断帯に鷹一門万季 はりまかは、水だ研究とるに暇なしと難とも、整一午後一 此地震線は「何れの所より始まり、何れの所に終 者なり点と、 十七年前"安政度の大地散よりも"更に猛烈なる 屋側鉄 の意本地震よりも幾倍の話しなるのにえて。三人猿としての意本地震よりも幾倍の話しなるのにえて。三人猿とし 生前未が答で知らるる所なり、人皆な四く、先年 界を現はし寒れり、斯くの如き大地記は、我々の 通八選の名古屋市城、一朝にまて胸中暗黒の世 せず、電線全く絶ぬ、道途崩壊し、擂樂資落し、四 製け、火起り、水漬き、家屋慣問し、人害死場もる し西北より起て東南に役したる者の如しと云へ 号外

しと縦

意見は

に不取 前尺九 なく同 サ水平 の物体 とも交 ●其後

水平動

物質し

海 部 地 域

五才の 思い 出

藤 弘

伊

(津 島 市

場に、大人四、五人位でなければ抱えられない程の、大よの木 がそびえて居た。其の木の根元まで連れ出された。 アッ、地震だっと、親に引き抱えられ向い側の水ガメの置き

井戸は砂がふき出し、使用出来なくなり、隣家から貰い水で過 を、行ったり来たりの生活で、食料には不自由しなかったと思 して居たと思う。 日毎、夜毎に起きる一ヶ月も続いたと思う余震、余震、 四畳位の小屋を建て、幸にも座敷半分だけこわれた我が家 どうもさつま芋ばかりを喰べさせられて居た様に思う。

程も続いて居て、私達子供等は皆よろこんで飛んで歩いたもの

南北の道路は、一寸五分巾位の割れがずっと二丁半

親は十四、五人の御婦人方を頼んで、ハンカチーフの仕事

家の前、

をしていたが、此の期間中、余り仕事に手が出ず、ぶらぶらし

津島市民は、天王川の堤に避難した

て居た様だ。其の后方々の家の修理されている姿が夢の様に眼

に うか ぶ。

念です。

何せ五才位の私の思い出は、こんな事位しか語れないのが残

濃尾地震について

黒 宮 繁右エ門

(海部郡十四山村)

ましたの。あとで、すすがおちて、すすくさくて食べられず、 食を供へと云って、釜の蓋をするのをわすれて、、カドへにげ していました。家内中が、とても鳴っていました。母が仏前に仏 私は七才、子供の事ゆえ何も気おくない。かどで、ごろごろ

次に、氏神様の拝殿が、たおれて居りました。とうろうがた

困りました。

おれたり、かたむいていました。 以上、子供の記おくです。

岐阜や大垣、 大地震

山 田 ゑつの

(海部郡飛島村)

月か九月の小雨降る、朝六時頃である。 母は朝どはんの用意で、クロ(かまど)で飯たき中であった。

あれは、六才の頃であると思う。幼げに記憶をたどれば、八

地震というものを幼げに、体で初めて感じた時でもあった。家 が今でもわすれられない。余震はあったかどうかわからないが、 父の火を消せと、クロに飛び込み、大声で母をまくしたてる声

無心に拝んでいた。幸にて、くず屋根の当家は倒れはしなかっ 兄は庭先の柳の木にすがっていた。父は「世無し、世無し」と はギシギシとゆれ、小雨降るため、戸口にうずくまっていた。

は記憶にない。

たが、おばの家は屋根が落ちた様である。火災、死者は近辺で

戸外にて、ず(すだれ)にて屋根をふき二、三日(記憶不明 小さなゆれがつづいたのか、父が地震の再来を思ったのか、

は寝た記憶がある。

道路等キレツは無かったが、巾二米程、深さ一・五米程の川

の底があらわれ、水が道路にあふれ出て、道の上の魚を拾い集

ર્દ્

ゆれが大きいので、歩くことができませんでした。

わたし

め食べた記憶があります。

る)の水を使用していたため、あまり水に対する不安はなかったかに思う。また、当時は水道もなく「いけす」(池の様であ幸にして当地は被害も少なく、見舞等も受ける程ではなかっ

阜や大垣、大地震」が当時を思い出させる。後に、子供等がはやり歌風に歌った「朝の六時の大地震、岐

た

濃尾地震、私の体験

横 井 米三郎

(海部郡十四山村)

んが、朝七時か七時半ごろであったと思います。ります。時計がありませんでしたので、正確な時はわかりませた。日付は記憶しておりませんが、秋であったことを憶えておた。日付は記憶しておりませんが、秋であったことを憶えてお

ゆれましたので、あわてて外に出ようとしましたが、あまりに家族そろって朝ごはんをたべておりますと、突然大きく横に

たちは茶わんを持ったまま、はいずって外に出ました。

私は当日の朝、近くのお寺で読み書きを習っておりましたの

ば、 らぶ よっっこ に思い たた。 震で倒れてしまいましたので、もう少し早く出かけていたならで、朝食後出かけるつもりでおりました。お寺の本堂がこの地

ば、命がなかったと思います。

た。しかし余震が三日か四日続いておりましたので、庭先に丸

私の家は木造草葺平家建の家でありましたが倒れませんでし

てしてのんでおりましたのでこまりませんでした。地震の後でで一週間ほど過しました。飲料水は庭に堀ってある井戸の水を太で作った農作業用(天火で乾燥させたもみをしまう)の小屋

も井戸水の状態は変わりありませんでした。

堤防がきれたり、地割れがしたりはしませんでしたが、川の

が経験した地震の中では、この地震が一番大きいものであり、し、けがをした人や、亡くなられた方もありませんでした。私魚が地面にとび上がっておりました。火事もありませんでした

「番印象に強いことは、これから出かけようとしていたお寺の一番印象に強いことは、これから出かけようとしていたお寺の

本堂が倒れたことであります。

当時は県厅の大砲が昼になると鳴り、その音を聞いて昼を知

のような大きな地震がおきれば、大変なことになるのではないしたので、日常生活はそんなにも困りませんでしたが、今日あった、そんな時代でありました。自給自足の生活をしておりま

美濃·尾張地震

かと思います。

大島せっ

(海部郡弥富町)

た。

海部郡市江村大字本部田という所に住んでおり、当時私は七才でした。地震が起きた時は夜明けで、みな床についていました。天候は晴天でした。その夜からは、とても家では眠れませんので、外にわら小屋を造り、一ヶ月ほどそこで暮らしました。

たけれども、ゆれるのがこわくてとりにいく人がいませんでしたけれども、ゆれるのがこわくてとは、火の元です。その時は、歩り、まともに立っていた家はありませんでした。田に大きな波り、まともに立っていた家はありませんでした。田に大きな波り、まともに立っていた家はありませんでした。その時は、歩の弘法さんは畑のススキの中にみえました。

はんをたき、またゆれてくるとではんにお水をかけて外に出る切れませんでした。今から思えば、ではんを外でたけばよかっ日間もえつづけました。お墓は幸いに倒れませんでした。堤も出間をえつづけました。だ墓は幸いに倒れませんでした。堤も

れましたが、市江村東条の弘法堂だけが倒れませんでした。そ

の高さの波がいったりきたりし、

一里四方の寺々がすべてこわ

ぬき(井戸か)から水があふれ出ました。川の水が二間ぐらい

一時間に七、

八回ゆれるたびにドンドンと音を立てて、

ほん

という生活をしていました。

知多地域

のおさまるのを待っていたので、とても怖かった。

小雨がしとしと降って居たため、道路に出れず、軒下で地震

濃尾地震の思い出

合 る い

洄

(半 田 市)

数え年九才、後数日で満八才に成ろうという年令でしたが、思い出はさだかでありませんが、思い出した事だけを書きます。た記憶は有りますが、今では昭和十九年の南海道地震と重って、濃尾の大地震からもう八十八年の才月が経ちました。恐かっ

出生したので家事手伝いのため、長期欠席中で有ったと思いま地震当時の学校の記憶がないのは、地震より三ケ月前、末妹がしましたのは、長女であったから弟妹の子守等をしていたからで、

小学校は当時義務教育は四年でしたが、私は七年かかって卒業致

住いは現在の半田市南本町二丁目で、直接道路(現在国道247

す。

号)に面した家でした

をしていたか覚えていません。早朝のことで、弟と妹は床の中、私は起きていましたが、何

母は朝食の仕度をしていたので、地震と同時に、こんろに掛母は朝食の仕度をしていためい弟妹三人を両脇にかかえ、私の火を消してから、寝ていた幼い弟妹三人を両脇にかかえ、私の火を消してから、寝ていた幼い弟妹三人を両脇にかかえ、私の火を消してから、寝ていたので、地震と同時に、こんろに掛母は朝食の仕度をしていたので、地震と同時に、こんろに掛けてあった薬罐の湯を火に懸けて消した。

はらはらした。 来なくて這っていたが、右に左に体が倒れてなかなか進まず、来なくて這っていたが、右に左に体が倒れてなかなか進まず、母と私は早く逃げる様に呼んでも、ゆれがひどく歩くことが出

日過ぎた頃、大きな余震があったと聞いているが、母から濃尾私は余震の記憶もないが、後年母より余震はあり、中でも一

地震の思出はこれ以外聞いた記憶がない。

一瞬地震の恐さを忘れ、その姿におかしさを感じた事をおぼえ合わせて念仏を唱えながら、行ったり来たりしていたのを見て、はだしに着物の前をはだけて、雨の中を狙った人のように手をはだしに着物の前をはだけて、雨の中を狙った人のように手をはいるがでいてい側に酒造家の塀が、蛇ののたうつ様にうね

ている。でも後 大人になってから、おばさんの狂った様な姿

地震の烈しさを物語って居たのだなと思いました。

内に有った中島航空機に学徒勤労動員中死んだため、 私は十九年の南海道地震で、当時女学校四年生の孫娘が、市 そのおど

ろきに濃尾地震の記憶は消されてしまいました。

私の濃尾地震の思い出は、強烈に脳裏にしみこんでいたわず

かな部分のみです。

祈るのみです。 地震は恐ろしい。生存中に大きな地震のないことをひたすら

濃 尾 地 震

新 美 宗 治

半 田 市

年令は八才、生浜小学校一年生。朝起きて遊んでいた。

空、こわかった。

大変ゆれたので、身が思う様に歩けなかった。余震は五、六

回位あった。

父母、兄、姉、弟たちと一諸に表へ出た。

ちて、こわれたり、牛小屋が傾いた。火事はなかった。 友達は三人あったが、ケガをした者はなかった。屋根瓦が落

障子や戸は開かない。勝手場の水瓶が、ころんでわれたり、

手桶がこわれたりした。

つけて暮らしていた。昼間は、父母は農作業していた。学校は 割はあったが、電燈は末だなかったので、どこの家もランプを 郷中に二ツ池があったが、堤防が切れてしまった。津波や地 真黒い柱時計は落ちて止った。

二日位休みだった。

井戸は水は少し濁ったが水は出た。 ドンと不思議な音がして、すぐゆれ出したのでビックリした。

は、小さい時だったので他の地震の方がこわいと思った。

地震の時は先づ火を消すこと、表へ出ること。濃尾地震の時

濃尾地震の体験談

藤 ち ょ

加

(名古屋市昭和区)

朝八時でろ、家の中で遊んでいたら、両親が大声で、地震だ

とてもこわかった印象が強くのこっています。 薮に入ってからも余震があり、畠の肥溜があふれでるのを見て、 わからず、親が地震だといったので、これが地震かと思った。 と叫ぶので、家の裏にある竹薮に逃げた。最初は何が起きたか

地震の恐しさ

下 谷 ž h

知 多 市

自宅より一丁程の竹内佐一宅にて、子供同志遊んで居た。 当時十才にして、無学。

居た。 れ、四つん這になって家まで帰った。家の物皆ひっくり返って 突然、屋根瓦が落ちて来たので、何かと思って居る折、近所の 人々が、地震だ、地震だと叫んだ。すると母親が迎えに来てく

くりかえっていた。 前の墓場の石塔も皆ひっくり返り、裏の寺の燈籠も三つもひっ

程寝た。カンテラ生活で、恐しかったのみ。 週間位い前後、余震が続いたので、前の山の竹薮で、三日

電燈など無く、ことぼし(注・小灯。火をともした蝋燭を立て

聞くところ、名古屋南区道徳柴田辺、一番被害の多かったと

濃尾地震の体 験 聞いた。

田 は る

Щ

宮 市

当時、山田はるの住居は知多郡阿久比村。年令は満六才頃の

私ら姉妹を母親が両脇へ抱え、戸外へ脱出。其の間、二、三回 え、つまびらかな事はわかり兼ねます。 田舎にて藁を焚き、朝食を準備中、突然地震発生。

事するなど、こうえにて一週間くらい寝食する。 粘土地質にて、私宅は山間の底地に居住。地割れ、山崩れ、湧 震が再度有り。住宅に入らず、粘土にて戸外にかまどを築き炊 ちた程度。井戸水も正常。食料は百姓ゆえ事欠かず。しかし余 水等の被害全然皆無。唯、こうえ(農作業等する室)の壁が落 た梯子に当らずホッとしたと、父母が話し合って居た。当地は 有り、父親がかまどの火の仕末後、屋外へ出る折、上から落ち 転びながら逃れ出た。昔は戸口(今の玄関)の上に梯子が上げて 其の頃は勿論

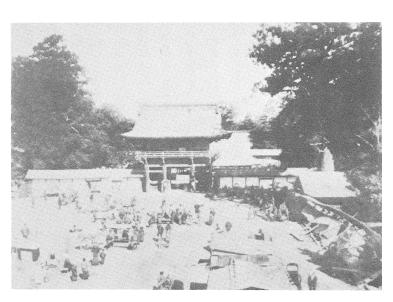
熟睡中の

て手にたずさえる具)のあかりでした。

を を有りました。 は、井戸水が途中から崩壊。泥水が入り使用不能の所 を有りました。

地震が済むと雉子が鳴くとの事。当時、前の山に沢山雉子が地震が済むと雉子が鳴くとの事。当時、前の山に沢山雉子が地震が済むと雉子が鳴くとの事。当時、前の山に沢山雉子が地震が済むと雉子が鳴くとの事。当時、前の山に沢山雉子が

を漂よい、幾日も消えなかったとも伺った。 東西から真清田神社まで全家屋崩壊。地下水湧出。砂塵濛々。 関在地区に居住。其の頃、土地の老人より伺った話。現住所、 現在地区に居住。其の頃、土地の老人より伺った話。現住所、 現在地区に居住。其の頃、土地の老人より伺った話。現住所、 現在地区に居住。其の頃、土地の老人より伺った話。現住所、



一宮市の真清田神社の山門前に避難した人々

(西三河地域)

濃尾地震

杉村なみ

(小 牧 市)

てくれたものです。

ました。岡崎連尺小学校の二年の時でした。くはおぼえていませんが、当時、私は岡崎市八幡町に住んでいくはおぼえていませんが、当時、私は岡崎市八幡町に住んでいくから八十八年前、私が八才の時の出来事です。余りくわし

まいました。それでも必至で起き上って走ったおぼえが有りま言われると、あわてて追し合いながら逃げたので、ころんでしどくゆれたので、皆な、びっくりして、先生が外へ出なさいとら、突然、ゴーと言う音がしたかと思うと共に、ぐらぐらとひら、現在の図工の時間で、一生懸命、画を書いていました

たでしようか。たしかなおぼえはありませんが、十日間位いは、何回も何回も飛び出しました。日数で言ったら、どの位いだっ毎日毎日、何回となく余震がつづくので、こわくてこわくて、

つづいたと思います。

す。

目をさまして、怒って、むつかっては父がかばって、一緒に寝何時の間にかすみにして、姉達二人で話しばかりして居るので、真中に入れて、両はしに姉と友達が寝ましたが、私が寝付くと、と、姉の友達と三人ならんで寝ましたが、私がこわがるので、

家の前の広場に小屋を建てて、夜はそこに寝ました。

私と姉

す暗い様な中で、母達は地震の相間相間を見て、食事の仕度当時は電灯など全然なかったので、行灯、カンテラなど、う

をしてくれた事と思います。

私の家は平家で、広くてわりにしっかりしていましたから、 様に残っています。また教会の牧師さんが、庭に三寸四角位い では全滅だからと言われましたが、幸いに、それはころびませ 中は全滅だからと言われましたが、空に三寸四角位い の木の上に、石を三ツ四ツのせて、これがころぶ様なら、岡崎 の木の上に、石を三ツ四ツのせて、これがころぶ様なら、岡崎 の木の上に、石を三か四ツのせて、これがころぶ様なら、岡崎 の木の上に、石を三か四ツのせて、これがころぶ様なら、岡崎 の木の上に、石を三か四ツのせて、これがころぶ様なら、岡崎 の木の上に、石を三か四ツのせて、これがころぶ様なら、岡崎 の木の上に、石を三か四ツのせて、これがころぶ様なら、岡崎

何しろ、小さい子供の時ですから色々な事は、わかりませんが、でも現在までの数々の地震の中では一番大きかったと思います。さしもの大地震も岡崎は、わりに被害も軽くすんだ様ですが、

と言う記憶は忘れません。 八十八年も過ぎた現在でも、濃尾地震と聞くとこわかったなー

地震と舟に居た家族

服部里っ

(碧南市)

でいた私を引ずるようにして外へ出て、庭の大きな桃の木の根はんを炊いていたが、ぐらぐらゆれ出したので火をけやし、ね父と二人でさみしく暮していました。地震の時、父は、ワラでご父母、兄、姉、私の五人と工女さんが三人の、みんなで八人で父母、兄、姉、私は碧南市伏見屋に住んでいました。家族は濃尾地震の時、私は碧南市伏見屋に住んでいました。家族は

して見にゆこうとして、父にあぶないと言ってひどくしかられ二階立のあまり大きな家ではなかったと思います。私がとび出二階立のあまり大きな家ではなかったと思います。私がとび出

元にうずくまってしまいました。

たちる、竹やぶなどへ小屋を作ってねていたようです。した。庭に作った小屋で十日ぐらいねたと思います。よその人ています。道には十センチくらいの地割がたくさんできていま

乗り物もありませんでした。ほかにも家がたおれたようにきい

たには太いつなでとめてありました。を何本も川の中にうちこんでしっかりととめてあり、岡と橋げして、糸を作る仕事をしていました。舟の右と左には太いくいして、糸を作る仕事をしていました。舟の右と左には太いくい

本のつなでやっと舟が流れずにたすかったと言いました。て、とめてあった太いくいはぬけて、ぜんぶ流れてしまい、二たここちはなかったと言っていました。舟は木葉のようにゆれ地震の時、舟にいた母と兄、姉、三人の工女さんたちは生き

その時のこわさで、兄もぢきに舟の仕事はやめてしまいましってふるえて居る時、大きな、たらいほどある太いへびが丸くなって泣きだしたと姉が言っていました。 地震のあと、急に水がふえてきて、六人でひとかたまりにな

た。私は小いさくてはっきりは、

わからないけれど、三河地震

そのころ伏見屋は南北に細長い六十戸くらいの村で、電気も

幼き頃の思い出

加藤うめ

(刈 谷 市)

くせないにがい体験者でございます。もうすらぐ此の頃で、関東の大震災には言葉にも筆にも書きつらこれを書とうとしている明治生れの私も、種々と記憶の方

ですが、折に振れては語る幼い頃、九才であったときの記憶

いた私を抱いて、裏庭の所へほっぽり出され、立っている事が其の時、大きな声で「アッ、地震だ」と云って、びっくりしての時、丁度家の蔵の修理に来ていた大工さんが食事をしていて、に残る話は、当時、碧海郡刈谷新町、只今刈谷市新栄町で、地震

たが、庭がよいと真中に小屋を作って一週間位小屋で過した。そこへ父が、兄達も飛んで来て、丁度母がトイレに入っていないが、題へ出るわきに竹やぶがあって、父が早く出ておいでとどなっていたが、出ようとすれば戸て、父が早く出ておいでとどなっていたが、出ようとすれば戸はが、庭がよいと真中に小屋を作って一週間位小屋で過した。

外へ運んでくれた御飯がおいしかった。

ゆれる柳の木のように、もっとそれ以上に、ぐらぐらと、ゆれ

地獄の起る事のありません様に祈ります。

こんなことしかわかっておりませんが、再びあの恐しい地震

濃尾地震の時の私の記憶

(刈谷市

長谷川

あ

Ė

は、余り覚えていませんが、少い記憶をたどって、ここに、御まだ、私が七つの時のことであり、正直云って、こまかい事

家庭の私達は、庭で、しいな(悪米)の粉をかいて、食べていあれは、ある晴れた日の朝の事でした。昔の事とて、貧しい

る時でした。

報告致します。

顔を上げて、みてみると、前のお寺の松の木が、まるで大風にな、前の土手に行って、はっとれ。」と大声でどなりました。な、前の土手に行ったか、大きくゆれだし、どうして前の土手に行ったか(はって行ったか、歩いて行ったか)覚えがありませんが、気がついてみると、私は土手にしがみついておりました。 みん突然、父が、「やい。これはどえらい大きな地震だぞ。みん突然、父が、「やい。これはどえらい大きな地震だぞ。みん

ておりました。

家も、今にも倒れそうに、ガタガタと音をたてて、大きく、ゆあたりをみまわすと、私の住んでいる大きな家も、となりの

れておりました。

足がひょろひょろになってしまって、仲々立上れませんでした。やっとゆれが少しおさまり、土手から立上ろうとしましたが、ものすごく恐ろしかった事が、今でもよみがえってきます。いつまでたっても、ゆれがとまらず、体がガタガタとふるえ、

り覚えておりません。

それからも余震はあったと思いますが、余りに本震の恐ろし

当分、その小屋で泊った事を記憶しております。の広場に小屋を作ってくれ、どのくらいか記憶がありませんが、の広場に小屋を作ってくれ、どのくらいか記憶がありませんが、地震が大部分おさまってから、父が近所の人たちと一諸に前

なった時に、あんな大きな地震がゆすったらと、思うだけでも今のように、家が沢山建ちならび、色々と火種を使うようにでした。

ぞっとする気持です。

濃尾地震の体験談

山口おり

(刈谷市)

にちはいく日だかおぼえはありません。
で寝ておりました。びっくりして家の外へとび出しました。日は小垣江村字犬ケ坪(現在刈谷市)でした。朝、夜明でしたのは小垣江村字犬ケ坪(現在刈谷市)でした。地震にあった場所は一生入学しませんで今日にいたりました。地震にあった場所は一生入学しませんで今日にいたりません。

てゆれているようでして、歩けませんでした。 んとなにか落ちたり、ころんだりして、ほんとうにおそろしか なとなにか落ちたり、ころんだりして、ほんとうにおそろしか です。最初なんがおきてきたかと思いました。 か たんより

家が倒れ、過まちが出ました。死んだ方はありませんでした。く出る時に、かもいが落ちたり、柱がころんだりして三げん程、へ出る時に、かもいが落ちたり、柱がころんだりして三げん程、の出る時に、かもいが落ちたり、柱がころんだりしておりました。だから一週間位いときどき大小つづいて地震がいっていました。だか一日位いときどき大小つづいて地震がいっていました。だか

計は皆とまりました。当時、二階建の家は一階が腰をつき倒れ、 した。その当時は、がらす障子等は全然ありませんでした。時 ほとんどが被害をうけました。屋根の瓦は皆がたがたとなりま また火事もありませんでした。戸障子があかなくなった家は、

二階はそのままで、二階の家の方が安全です。

住の状態といいますと、着るものは家で木綿のはた織して、い んでした 食料は皆自給自食ですから、粗食ではありますが、心配ありませ くらでも自家用として、綿から加工して生産しておりますし、 地すべり、大火、高津波、地割等はありませんでした。衣食

うような危険が少いといっておりました。その頃は電燈はまっ 自分の小便で消毒して、松の花緑粉をかけて傷の手当をしてな 者様と云うような病院はありませんでした。だから負傷しても たくありません。皆ろうそくでした。またその頃、村にはお医 さいとよくいわれました。根がよくはっているから、地割とい れ以外は用法なく、無常の風にさそわれていくより道はなかっ て飲み、また昔からある、だらすけ薬を飲んで治す程度で、そ おしたものです。傷はよいとしても、病気の場合は草木を煎じ その頃、父母あたりから、地震の時はすぐ竹薮の中へ入りな

たのです。

発生の場合は火元に注意すること。また現在では電気、 ものはありませんでした。また見舞品等も何もありません。 と、安心して寝られました。家を建てなおすとか、その他の事 小屋の中で、まあころんでもかるいから死ぬようなことはない くしらなかった。まあこの地震は朝が早かったから、朝食準備 の方がもとだったそうだぐらいです。だから外の被害などは全 は考える余地はありませんでした。当時工場会社と云うような の元栓に注意が必要です。何しろ八十八年も前の出来でとです にかからない前だから、火事がなかったと思うが、特に地震の その頃、新聞も何も取っておりません。おそくなって、美濃 昼間は野良仕事にて、また地震が入るかと思案。夜は夜で、 ガス等

濃尾地震の体験談

ので、充分に記憶はないのです。

田 志 次

太

(豊 田 市

地震にあった場所は、南古瀬間(現在豊田市志賀町)で、夜

地震のゆれは丸一日続き、やぶで生活していました。歩きにく が来た時、すぐそれと分ったので、こわくてやぶへ逃げました。 明けだったので寝ていました。天気は晴れていた。地震のゆれ

い状態と思います。

ましたが、丼戸は何ともなく水はのめました。 多く、復旧には手間がかかったようです。大水や地鳴りはあり にはなかったと記憶しています。草屋ばかりなので倒れた家が 仕事は手につかず心配していました。死者やけが人は古瀬間

震と同じ位です。 の対策は見当がつかないといった感想です。 地震は、 各々により状態が異なるため、

地震の震源地は岐阜です。濃尾地震の大きさは、

戦時中の地

濃 尾 地震の記

憶

井 つ

古

私が地震に遇ったのは、旧西加茂郡高橋村(現豊田市扶桑町) 五才の時でした。 早朝、 突然座敷の帳箪笥が大揺れに揺れ 一豊 田 市

みました。すると五才年長の兄が「地震だから」と表に連れ出

出したので、

風が吹いていると思って、

思わず蒲団にもぐり込

してくれました。

á

憶えがあります。今で思うと余震か、何度も地面が揺れていて、 庭に敷物を置き、六枚屛風を立て廻し、何日か過ごした様な

乗り物に乗っている様で気持が悪かった。

に思います。 側で寝てみようか。」と云った憶えがあります。特に家が倒れた 鳴いたので、大人が「もう安心だ」と云い、父親も「今夜は縁 こととて蔵に入っていたので、持ち出したこともなかったよう とか、傷人が出たことは記憶にありません。大切な物は当時の 何日目頃だったかわかりませんが、早朝に近くの山で雉子が

濃尾地震について

 \equiv 宅 半四郎

一豊 田 市

当に幼い子供で、地震の事ども確かな記憶もありませんが、当 た は 私の出生地は、現在の豊田市高橋町で、地震発生当時の名称 地震発生の当時は、私は満五才と十三日目で、まだまだ本 西加茂郡寺部村字新屋町で、ほんの寂しい一僻村であっ

時の事ども、 知る範囲で、左に記載します。

され、 所の屋根の毛は、ストンストンと落ち、一部の弱い壁は、 連続で、本宅始め、 から、ドドド……、 或は割れ目が出来、古い木を持ち寄って造った小さい仮 地震が起きたか、記憶はありません。何でも朝早く お蔵や物置小屋、 メキメキ………、と激震ないし強震の 灰部屋等。一部の弱い個 剥が

りの灰部屋は、激震のため、

遂に倒壊した。

子供心に泣き出した。この様な事が一日中或は、時を隔てて、 阿修羅の如き世界で、これが世の中の終りかと疑われ、本当に、 どうしても歩く事が出来なかった。これでも、娑婆かと疑われ、 或は連続的に、 時に押し寄せるが如く、揺り動かし、歩くにも足をとられ、 背戸の花畠や、野菜物等作ってあった地面は、 或は強く或は弱く、何時止むか、想像もつかな 大波小波等の

父の体に巻き付いて避難した。 具等を持ち運んでおられた。それを見て、一時に無我夢中に、 険を冒して安全地帯に蓆を敷き、重要な物品を持ち出し、 て、忘れる事は出来ません。 時に父は、朝早くから起き、地震の合間合間を見計らい、 こんなに嬉しかった事は、今以 危 い程だった。

次第であった。 は菰を吊るし、そこへ夜具等を持ち出して一夜を漸く明かした であるから、野外の安全地帯に、或は薮の中に、蓆を敷き、或 を敷き菰を吊し、そこに避難して居った。夜は、家の中は危険 で、朝早くから五人の家族を引き連れ、家の裏の竹薮の中に蓆むしる。 族は七人で祖父母、父母、兄弟三人(兄、私、妹)。祖父の指揮 此の様な激震が昼間は勿論、夜までも続きに続いた。私の家

ર્દ્ 外の建物は倒壊を免れた。なお火災もなく、人畜にも被害がな 次第であった。当時、此の村では古い小屋が数軒倒壊したが、 蓆を敷き、夜具始め、必要品等準備して、漸く一夜を明かした かったのは、不幸中の幸であった。今も当時の事とも、考えて 他の村の人々は、それぞれ薮の中に、 本当に身の毛の弥立つ思いがする。 或は適当な安全地帯に

濃 尾 地 震体験 談

森

そ 0

(曹 田 市

静かなものでした。それからしばらく西進しますと有松町。こ 父のひざの中に入り、人力車に乗って喜こんで出掛けました。 ておりました。幸い天気もよく、早起きして仕たくしてもらい、 が熱田の伯父のところへお客につれていってくれることになっ ものがふき出ておりました。父がよく見ておけと教えてくれま がさけて、黒いような紫色のような毒々しい色のどろどろした それがなかなかおろせませんといって、難儀してやっとおろし 震に出逢いました。松並木の松は、皆枝が地につきそうになり、 もこちらからも道路へ流れ出ておりました。これは大変だへ家 こまで来ますと、アイガメ(藍瓶)のアイ(藍)があちらから 何もわかりません。道路ぞいの家の人も道路を歩く人もなく、 ましたが、地震の体験も初てだし、車にゆられておりますので てくれました。しばらく休んで、三人で近所を見ますと、道路 した。父が車夫に、早く楫棒をおろしてくれと言いましても、 ものすどい様子になりました。初めて地震の恐ろしさを知りま 心配してすぐ引き返すことにしました。途中で今までにない強 は隣りが祭礼の時、車だし車を仕組んでかざって置く空地)と ったでしよう。そのうち父と車夫とが同時に、あっ地震と言い 父と車夫との話を聞きながら、ぼんやりとあたりを眺めてお

してありまして無難でした。その日のうちに、お隣三軒でわら家の方も近所の方々の親切によってしっかりしたつっかい棒がようようにして帰宅しました。家の人達もみな無事だったし、した。あれから今日まで、あんなところは一度も見ません。

小屋を建て三、四日ほど一所に泊りました。

翌日夜山町東のはずれで火事があり、小屋から火の手がよくのれる地震だったら一変にくしゃっとなったでしょうが、左右にたがついに倒れませんでした。といます。幸い類焼もなくすみまたがついに倒れませんでした。

なお震源地にも遠いので被害もなかったのでしよう。

立町は地盤がかたいのか、一軒も倒れなかったように聞いてお

ります。



竹やぶに逃げこんだ

伊与田 ま

(安 城 市

なかったようです。何にしても、子どもの頃のことで、はっき ろびそうになったが走っていった。天気はよかったようです。 子ども心にこわくて、ふるえていた。わたしが一番妹のせいも ない。近所の人たちも、うちの竹やぶへ逃げこんでこられた。 り覚えていないが、はだかで、竹やぶへ逃げこんだことは忘れ 何度か地震があって竹やぶへ逃げた。ずいぶんゆれるので、こ だ。家族は、おじいさん、母、姉二人、兄。私は一番下の妹 だと思うがはだかでとび出て、家のすぐ裏の竹やぶへ逃げこん この辺 (尾崎町)は、死者、けが人もなかった。倒れた家も 地震のあった時は七才で、今の安城市尾崎町である。夜明け



濃 尾 地 震 0) 記 憶

築 Щ Ė

会安 城 市

いが、親達が外へ藁小屋を作り、その中へお仏壇から仏様を出 平家建の家が殆で、二階建の家は見た事もないので、 たので、倒れたり傾いたり、柱が折れたり、 萱茸の家で、土間が多く、お仏壇の前だけ低い縁が張ってあっ 人は家族にはなかった。隣近所でも聞かなかった。家は屋根が 覚えがあるから、余震は十日以上であったと思う。死者やけが か覚えがないが、天気は雨は降っていなかった。 外へ出よと云われて外へ出た。その時歩いたか、さげ出された 初の時は、自宅(現在安城市安城町宮地)で、親が地震だから あった筈ですが、はっきりした記憶はありませんが、地震の最 わからない。平地なので地割れや地すべりや大水の話は聞かな た事はなかったと思う。ガラスは全然なく、時計も無かった。 して来て、木に掛け、お供をして毎日拝んで、小屋の中で寝た 地震のゆれはどの位ゆれたか、どの位長く続いたか覚えがな 私は明治十七年八月二十日生れと云いますから、当時六才で 戸があかなくなっ 安全性は

かった。

電柱、道路、鉄道、電車等の事も全然知らない。 電柱、道路、鉄道、電車等の事も全然知らない。 電柱、道路、鉄道、電車等の事も全然知らない。 電柱、道路、鉄道、電車等の事も全然知らない。 電柱、道路、鉄道、電車等の事も全然知らない。 お寺や神 での様子は知らない。 世事の様子や地震の話、見舞の事や新聞 での様子は知らない。 での様子や地震の話、見舞の事や新聞 での様子は知らない。 での様子や地震の話、見舞の事や新聞

いない。 物を見た覚えがない。親達が何を話していたか、これも覚えて物を見た覚えがない。親達が何を話していたか、これも覚えては出たが、濁ったかどうか覚えがない。空の様子、地鳴り、光る動物や鳥、魚、川や池、海の様子も何も記憶がない。井戸水

思える。 子供の頃の濃尾地震より、三河地震の方が被害が多いように



れたと思う。

今でも忘れていない濃尾地震

森

1

よう

(豊田市

事です。裏山から大きな岩が、ごろごろころがって来て、家の地震でこわかった思い出は、ゆれがいちばんひどかった時のと思われる所である。私が地震にあったのは七才の時であった。私が生れ、地震にあった山ケ谷という村は、足助町より東方

私は歩けなかった。その場にうずくまってしまった。子戸が外れるかと思うほどであった。またゆれが最高の時には、発はじめぐらっときた時ずぐ地震だと思った。ゆれかたは、障柱で岩はとまっていた。

私が住んでいた村は三十軒、家があったが、五軒位の家が倒ゆれがひいてきた時でも、はうのがやっとであった。

わてていたため、おそろしく長く続いたと思われた。ゆれはどのくらい続いたかということは、急にきたのと、あ

時計は私の家にはなく、まだ村に一、二軒しかもっていなかっ

前震は小さなのが少しきたが、このような大きな地震がくる

とは、少しも思わなかった。

にいたのは父と母と私の三人で、父母は私を守ろうと必死にな余霞も少し来たが、大きくはなかったと思っている。当時家

子や雨戸などの動きが少し悪くなった程度であった。家具などかった。私の家は、柱に岩があたったが倒れはしなかったが、障かった。怪我をした人は二、三人いたと思う。大きな怪我ではなれる子もほとんどいなかった。村では死者は出な

また外にいた馬がびっくりし、大あばれしていたのが一番印外にあった尿入桶の尿がゆれ、ごぼごほとゆれていた。

も倒れなかった。

った。 火事は村で一、二軒出たが、すぐ消し、大きな被害は出なか

象に残っている。

た。また地割れも少し出来たが、そこから地下水がふきだして山くずれは、土や岩が落ちた位で、大きな山くずれはなかっ

料は米や野菜などは作っているためあまり気にはならなかった来たり、井戸が使用出来る家もあったので苦労はなかった。食はこなかったような気がする。飲用水などは川へ行って汲んで

- 着る物は別に不自由はしなかった。電灯はまだなくカンテラ

が、町から乞食が多数きた。

昼間は親の言う事を聞いて、いろいろと跡始末などの手伝いで生活をしていた。学校は全くなく、いまだ字は書けません。

をし、夜は早く眠った。

ないものもあった。お墓のようすですが、多数墓石が倒れたが、びくともしてい

地震の時はおちついて、避難する場所を決めてそこへ行った地鳴りなどは聞かなかったし、また光る物も見なかった。

らよいと思う。

いままでで濃尾地震がもっとも大きな地震だと思います。



東三河地域

濃尾地震について

浦常

大

(豊橋市)

十四年の秋と思います。朝七時頃と思いますが、私の家は貧乏でした故に、濃尾地震は少し記憶が有る丈で有ります。明治二た時は、数え年六才なので、未だ学校へあがっては居りません私の知っている事、また親父に聞いた事を申します。

なので、時計は有りませんでした

茶と言って、これは商人が来て買って呉れた。農家では、前に九月頃、柴茶を摘み、これを蒸して莚に広げ、乾して、水が五九月頃、柴茶を摘み、これを蒸して莚に広げ、乾して、水が五九月頃、柴茶を摘み、これを蒸して莚に広げ、乾して、水が五九月頃、柴茶を摘み、これを蒸して莚に広げ、乾して、水が五九月頃、柴茶を摘み、これを蒸して莚に広げ、乾して、水が五九月頃、柴茶を摘み、これを蒸して蓮に広げ、乾して、水が五九月頃、柴茶を摘み、これは商人が来て買って呉れた。農家では、前に茶と言って、これは商人が来て買って呉れた。農家では、前に茶と言って、これは商人が来て買って呉れた。農家では、前に茶と言って、これは商人が来て買って呉れた。農家では、前に茶と言って、これは商人が来て買って呉れた。農家では、前に茶と言って、これは商人が来て買って呉れた。農家では、前に茶と言って、これは商人が来で買って呉れた。

飼料にするものを、石臼で粉にして食した。それは一膳位で、茶が沸くと、お茶の粉と言って、蕎麦粉や屑米の、今では鶏の

申した通り、八、九月頃柴茶を摘んで、それを飲んだ。

そのお

一時間位後に朝食を取った。

持ったまま、おもてへ飛び出たのを覚えている。無論私もまた、その地震の時、私の祖母が、お茶の粉を食べて、茶碗と箸を

父母も飛び出たと思います。

記憶は有りません。 その後余震は有ったでしょうが、飛び出たのは一回丈で、後は

この豊橋付近は、

昔しから大きな地震はない所で有ります。

はなかったと思う。はなかったと思う。

が、立って居れないので、座って居りました。夕方家へ帰って大きかったと思う。その時は、私は麦蒔時で、畑に居りました私が覚えてからは、昭和十九年の地震が、この近所では一番

で、 が二軒倒れました。農家では、今でも三棟も四棟も家は有るの 見たら、紙障子は皆破れて居りました。その時は、野依でも家 一棟ばかり倒れても、生活に何不自由も致しません。

濃 尾 地 震 7 ついて

玉 越 開 治

豊 橋 市

いました。 だくかなにかして居りました。地しん、私をおこしにくるのに、 かった様なきがしました。地しんの時、母は裏の井戸で、せん 地ゆれがひどくて、あるけなくて、四ツばいにはってきたと言 て、着物をきせてもらいました。まだゆれており、すこし恐し 私は、 その時五才位。まだねて居りました。母がおこしにき

至り。まだねて居たのかもわかりません。何としてもおかしな て置ばよかったにと、今更くやんでも、 地しんの朝、父や兄の顔を見たおぼえのないこと、不しぎの 私がわすれたのかも知れません。この点、生前の母にきい 思うのに、当地方大災害、火さいがおきるとか、 せんなし残念 家がつ

> ろんとして、この方面には、大災害はなかったと思います。私 正かくに解明してくれるでしょう。たのしみにして居ります。 が忘れたかも分りません。この点、私より前に出生した方が、 ぶれるとの、さいがいがあれば、少しはおぼえて居る筈。けつ

濃尾地震の記憶

島 Ė

中

Z

豊

橋 市

抱いて出た。途中軒端で転んだ。上を向いたら、軒が撓んで落 兄をつれ、食事中ぼんやりして居た弟を抱き、屋外に退避した のですが、軽い病気で寝ている私を思い出して、家の中に入り ちて来そうで怖かった。母は、末っ子を抱いて出た。 当日は晴れだったと思うが、表が湿っていてすべって転んだ 私が七才の十月二十八日の就寝中でありました。地震で父は

のでしょう。 姉と女中が夢中で、一丁程離れた空地まで走ったから歩けた ので雨後ではないかとも思われる。

父母の話しだと、石燈籠や石塔が倒れたとのことでした。ま

様にうねうねしたそうだ。 た薬の行商人の話しに、豊川の堤防を歩いて居たら、堤が蛇の

りであった。
りであった。
当日、姉を嫁にもらいに来た人が、度々の余震に「また揺れ当日、姉を嫁にもらいに来た人が、度々の余震に「また揺れ

濃尾地震について

島
ち
ゑ

中

(豊橋市)

と思います。

ばで手をあぶって、あたたまっておりました。すると、突然グ

その夜も表に寝た記憶もありませんので、普通に家の中で寝たと見えます。すごくゆれておりました。そして、その時家の中に、おじいさんが病に飛び出しました。そして、その時家の中に、おじいさんが病に飛び出しました。そして、その時家の中に、おじいさんが病に飛び出しました。そして、その時家の中に、おじいさんが病と見えます。すごくゆれておりました。あまり長い時間では、と見えます。すごくゆれておりました。あまり長い時間では、と見えます。すごくゆれておりました。あまり長い時間では、と見えます。すごくゆれておりました。これが地震だったのでしっっとし、ガタガタゆれ出しました。これが地震だったのでしっっとし、ガタガタゆれ出しました。これが地震だったのでしっっとし、ガタガタゆれ出しました。これが地震だったのでしっっとし、ガタガタゆれ出しました。これが地震だったのでしっっとし、ガタガタゆれ出しました。

思い出せません。私は、こんな程度しかわかりません。近所の建物の倒れたことや、他の近所の様子なども、あまり



濃 尾 地 震 の 思 () 出

島 登 わ

中

橋 市

豊

にわすれません。 時に、柱に強く頭を打ち付けて、非常にいたかった事は、今だ ませんが、唯一つおぼえて居る事は、母につれられてとびだす 濃尾地震の時は五才でしたので、あまり記おくは御座い

か 面に付いたと言う話は聞いて居ります。その外、家が倒れたと 左右にゆれ、風を切ってゆれるので、大きな音を立て、枝が地 唯あとから聞いた話ですが、地震の最中には氏神様の大松が 竹やぶや外にねたと言う様なおぼえは御座いません。

濃 尾 地 震 の 体 . 験

した。

城 福治郎

藤

一豊 橋 市

たテレビ、ラジオなど今と違って情報活動のまったくない時代 明治二十四年の濃尾地震は、未だ七才にみたない年令で、ま

> あり、カメを土中に入れたものでした。 町)に、住んでおりました。農家でしたので便所は、家の外に その朝、いつものように便所に入りますと、カメに留った小 私は、 当時豊橋市の豊川の河口に近い田舎(今の豊橋市新栄

自分の身の廻りのほんのわずかな事位しか記憶して居りません。

便が、ダバン、ダバンと、大きく波を打ち出し、カメからあふ

れ出した事。 ことは覚えて居ります。以上かんたんですが参考までに書きま 災に気をつけることは、余震があった場合でも必ず火を消した 長い期間、余震が続いた事位しか記憶いたして居りません。火 ケを持って、家の中のカマドに水をかけた事。それ以後かなり その時、庭に居た父親が、地震だ、と言いながら井戸の水オ



濃尾地震について

山本古ま

(豊橋市)

震災に逢ったのは、豊橋市岩田町字田尻で、その頃は全くの明治十三年六月二日生れ、九才。

男も毎年の様に参拝したものだ。

この頃は記憶もうすれて全くないが、一様に言えることは、

田園都市で、田尻の金比羅様と言えば有名なもので、息子の一

屋外に寝たと言う事だ。

りう、長男丈作、妻だい、三次郎夫婦、長男夫婦、共に現在はた話を聞かされた。 屋外 で寝た話を聞かされたものだ。妻お隣家の杉浦三次郎氏の話では、子供の頃、よく薮の 中で寝

故人。

濃尾地震の想い出

森下清人

(豊川市)

当時、小学校へ入って間もない頃、その頃私は病弱な子供で事とて、記憶も薄く心細いものです。

私は九十四才の老令で、遠い昔の濃尾地震の頃は年少の頃の

私の育ったのは、現在は豊川市長草町ですが、当時は宝飯郡

した。

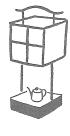
長草村と言った農村でした。

れて漸く外へ出ました。 飛び起きましたが、ゆれていて歩けません。母や姉達に助けらったと思います。父の大声で「地震だ起きよ」その声に驚いて

ました。のですが、馬は動きません。父は馬の尻を叩いて漸く追い出し

父は馬を放そうと、馬小屋の″ませ″を外して出そうとする

しがみついて居ました。十分以上ゆれていたと思いますが、その間、私は母や姉達に、



と思います。当時の農村は草葺屋根ばかりで、瓦が飛んだ事もました。幸い、火事は一件もなく、村には倒れた家もなかったわいからと言って水をどんどんかけたので、食べられなくなりわいからと言って水をどんどんかけたので、食べられなくなりた。をの頃、農家の朝食時間で"かまど"の残り火に"さつまい

聞いた覚えはありません。

では大きい『かめ』をいくつか地中に埋めて、肥料用の人糞をでは大きい『かめ』をいくつか地中に埋めて、肥料用の人糞をでは大きい『かめ』をいくつか地中に埋めて、肥料用の人糞をがなる』と思った事は忘れません。

根を張っていて安全だから、竹藪へ行く様にと聞かされました。かありましたので、学校でも家でも、いぎと言う時には、竹が余震で飛び出した覚えはありませんが、村には竹藪がいくつ

津波で床上まで浸水し、その後仏壇の引出しに魚が居たと言う、後になって父母達に聞いた話では、今の小坂井町の親戚で、

笑い話の様な事があったと聞きました。

思い出すのも実に恐ろしいとの事でした。
思い出すのも実に恐ろしいとの事では、用水の溝などで小魚をとって生活して居た人ですが、事では、用水の溝などで小魚をとって生活して居た人ですが、中で、持っていた物何もかもなげ出して、あわてて逃げ帰ったがで、持っていた物何もかもなげ出して、あわてて逃げ帰ったが、で、持っていた物何もかもなげ出して、あわてて逃げ帰ったが、思い出すのも実に恐ろしいとの事でした。

私のお話出来るのはこれ丈で、何もお役に立つ事もなく残念

です。

濃尾地震

瀬り

È

成

ì

(蒲郡市)

つれだしました。其の他の事は覚えありません。親からの話も自分は走り出ましたが、妹は何だかわかりませんので、親が

濃尾地震について

三浦つま

(蒲郡市)

私は濃尾大地震の起った時は八才でしたのですが、記憶に残

って居る事を申します。

地震の起きた時刻は、はっきり覚えて居りませんが、大きく私の生れた処は、宝飯郡静里村清田、現在蒲郡市清田町です。

のれた事は覚えて居ります。

今でも思っています。

を出して、いつでも逃げる用意をして居りましたが、地震は起此の付近にも、大地震が来ると言って大さわぎでした。仏様此の付近は被害が無くて結構だと、家中喜んで居りました。はたくさんつぶれ、墓石等は全部駄目になったと言う事だが、はたくさんつぶれ、墓石等は全部駄目になったと言う事だが、はたくさんの話によれば、尾張や美濃では地震の被害の大きく、家

りませんでした。

濃尾地震のおもいで

松 まつの

村

(北設楽郡津具村)

祖母があわてるからだと言いましたが、そればかりではないとが、家の出口で二人共倒れた事が一番の想い出となっています。母が居て早く表に飛出せと言いました。弟と二人走ったのですよい天気の朝食中と記憶しています。 急に家がゆれました。祖私しの生家は津具村の字松山で、地震のあったのは、晴れた私しの生家は津具村の字松山で、地震のあったのは、晴れた

雨戸を置き、むしろを敷いて、その上で生活しました。夜になめなかったことを考えますと、屋根石が落ちたかも知れません。 が、家の中の生活は出来ず、戸外で稲刈りの済んだ田の中に、が、家の中の生活は出来ず、戸外で稲刈りの済んだ田の中に住いますし、屋根石も落ちたとは思いません。しかし家の中に住いますし、屋根石も落ちたとは思いません。しかし家の中に住います。

っても時折りゆれて来ましたので、家の中には入らず、ふとん

を持出し、屛風で風を防ぎ、夜露はケットをかむり寝ました。

父は家の中に寝たか軒端に寝たか思いだしません。夜になる

ソク(小型の置きランプ)をともしました。私しの家は、 当時電燈はないので、松根(アカシ)をたいたり、ヒョウ 町は

ずれの高台にありましたので、 がえってきます。 で暮したか、あかりが点々と見えたのが、子供心の記憶によみ 町の方面をみると、皆んな戸外

家の中に入りました。 田の中の生活は三日程でした。それからあまりゆれなくなり、

地震がはじまると、キジかケタタマシクなきましたが、

地震

が小さくなるにしたがって、鳴声も少なくなり、隣りのおばあ さんがキジの声がおさまったから、地震も終ると言った言葉が

非常にうれしかった。 近くで畑仕事をしていまして、山林や遠くの仕事には行かなか 父母は稲刈りも済んで一休みと言った時節でしたから、 家の

ったと思います。

濃尾地震の記憶を思い起して

藤 く B

佐

豊

橋 市

だかあたりが変だと、何げなく立って歩くつもりだが立てない。 だしたのも、しっかりと記憶もない。あたりに人もいない。

冬の寒い朝であった。火鉢にあたっていた。ぐらぐらとゆれ

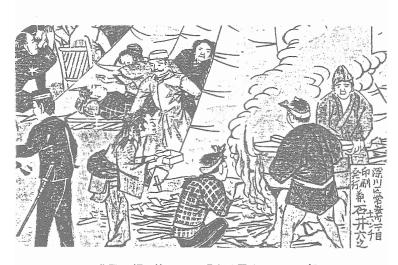
仕方なく、また元の処で座る。そこへ体の大きい女中のおいわ かかえるように、屋敷の中の竹薮へとつれられた。そこには両 さんが、大きな声を出しながら走って来た。いきなり私を抱き

親も、倉の者、近じょの人々が大ぜいいた。余り地震が大きい ので、親も我子を忘れて避難したことに気付く。よくぞ気が付 とか。後日女中さんの婚姻がきまって嫁入りのとき婚礼道具 き連れ出して呉れたと、その女中おいわさんに厚い感謝をした

式を贈ったと言う。

思われる。生家は、家造りも一般の家よりも特別がん丈であっ の生活も数日続いたと想像される。家数少い山村に於も、 さて余震も続き、村人達も安心して眠ることも出来ず、 傾いた家、屋根瓦の落ちた家も可成りあったものと 竹薮

たかとも想われる。被害は全くなかった。竹薮生活もしなかった。山崩れ、地すべり全くない。呑み水不足もなかった。でむき、石とうろうを建直す等、修理していることを記憶してたむき、石とうろうを建直す等、修理していることを記憶してたむき、石とうろうを建直す等、修理していることを記憶しているが、地震後の何日たるやは明らかでない。竹薮生活もしなかったと想像される。



豊原国輝の筆による「大地震後図」の一部

「愛知県以外の地域」

濃尾地震の体験

安藤をわ

一宮 市)

ます。

いました。わたしはどこ一つ怪我はありませんでした。 ちょうど朝食前で、わたしは未だ寝床の中で寝ていましてしかかっている大きな木を切り取ってくれました。兄と二人出しかかっている大きな木を切り取ってくれました。兄と二人出しかかっている大きな木を切り取ってくれました。兄と二人出してもらったのですが、兄は細い材木で頭に二ケ所怪我をしていました。わたしはどこ一つ怪我はありませんでした。

す。

整里式を貰ってきてくれました。二番礼だったことを覚えていない、 は、はたを織っていましたが、赤ん坊だった妹を寝床に連 母は、はたを織っていましたが、赤ん坊だった妹を寝床に連 母は、はたを織っていましたが、赤ん坊だった妹を寝床に連 等を持ったまま飛び出して行ったそうです。

十四、五糎の傷あとでした。その時は二十針近く縫ったそうでまで傷は残っていましたが、三ケ月型で大人になってからは、ます。母は医者へ行くとき、赤ん坊をだいて渡しを渡るとき、ます。母は医者へ行くとき、赤ん坊をだいて渡しを渡るとき、整理札を貰ってきてくれました。二番札だったことを覚えてい整理札を貰ってきてくれました。二番札だったことを覚えてい

三人亡くなったことを聞きましたが、わたしの近くでは怪我人で火事は一つも起きませんでした。少し離れた家の人が、二、で火事は一つも起きませんでした。少し離れた家の人が、二、それまで健在でした。

表の方へ飛び出して行き、祖母は炊事をしていましたので、火

だけで、亡くなった人はいませんでした。

との時、姉は箒で家の中をはいていたので、箒を持ったまま

何と言っても昔のことで、こんなことしか記憶していませんやらや竹で造った小屋の中から、何度も飛び出したものです。わらや竹で造った小屋の中から、何度も飛び出したものです。や置もこわれ、中にあった味噌がめがかたむき、中につけてあったなすが流れ出し、それを竹ではさんで取り出し、おかずあったなすが流れ出し、それを竹ではさんで取り出し、おかずあったなすが流れ出し、それを竹ではさんで取り出したものです。

のとき下からくずれ易いと言うことです。

のとき下からくずれ易いと言うことです。

のとき下からくずれ易いと言うことです。

のとき下からくずれ易いと言うことです。

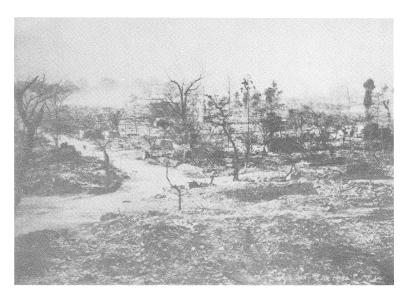
のとき下からくずれ易いと言うことです。

が、地震がきたら先ず火に注意すること。それから、す早く外

考になることがあればうれしいと思います。

る次第です。またこんなわたしの昔の体験の中で、少しでも参

最近しきりに言われる地震ですが、何とか起きない様にと祈



岐阜市は震災によって崩壊、焼失した

濃尾 地 震

石 川 志ゅん

(刈谷市)

家庭の事情で、当時六才の私は、伯父の家に世話に成って居私の出生地は、岐阜県揖斐郡春日川村字オサイ。

りました。

子供の頃で記憶が有りませんが、思いだし思いだして書きま

ヨシンスようとなる。このとう、そうコニューす。

た。奉公人も五人程おりました様に思います。伯父夫婦と子供て居りました。農業と山林の仕事をして居り、当時の庄屋でして居り家は大きな家で、土間も広く、家の中に牛や馬をかっ

その都度、牛や馬がさわぎました。伯父はきっと大地震の前ぶ地震の起る前一ケ月位時折ド、ド、ドと地鳴りが有りました。

三人、私と十何人の家族でした。

火を気をつけよと、注意しました。れだと言って、家族の者に地震が起きてもあわてるな、第一に

「火を消せ、外へ出よ」の大きな声に、私は歩く事も出来ず、朝食をして居る時、地鳴と共にぐらぐら、と伯父の大きな声

が次ぎ次ぎと来ましたが、其の合い間合い間に近くの竹やぶに呼ぶ声で、地でくとは、当時の姿ではないかと思います。余震は傾いた。所々の家は倒れ火災が発生、地割、山崩れ、助けをはう様にして戸外へ出て、柿の木の根元にしがみついていた。

竹やぶは大ぜいの人でした。皆な、わけのわからぬ事をわめ

にげました。

いて居りました。

しばらくは竹やぶの中で皆な暮した記憶がします。竹やぶの中にむしろをしいたり、ふとんを持って来たりして、

子供が見た濃尾地震

加藤はる

(尾張旭市)

であるが、当時の加藤はるは陶町水上の庄屋の家に生れ、五才現在の瑞浪市は、いくつかの町村が合併して出来上ったもの

その日はるは、父親が干した柿を一ぱい背負って家に運ぶ途

の秋であった。

った。近所の家が倒れていた。それでも別におそろしいと思わけないし、変だなあと思ったけれど泣きたい気もちは起きなか、行き、母と妹が家に居たが、道がゆれて進めないので、変な中、この濃尾地震にあった。父は鳥屋(つぐみをとる山小屋)

なかった。

家に着いたら、私の家は頑じょうだから倒れないと母が言った。妹を連れて竹やぶへ行けと母が言った。妹がいやだと言った。妹を連れて竹やぶへ行けと母が言った。妹がいやだと言った。妹を連れて竹やぶへいまだまだゆれるぞ。お前ら子供は神様と馬を連れて竹やぶへいまだまだゆれるぞ。お前ら子供は神様と馬を連れて竹やぶへいまだまだゆれる。父がむしろを持って来て、竹を利用しなゆれた。夕方になり、父がむしろを持って来て、竹を利用しながら小さな小屋を作ってくれた。

火を遠く見たら、美しい景色だなと思った。翌日見たらはるの燃え移り、山火事が起きた。はるはその夜、竹やぶの小屋から作られていた。その釜が地震でこわれた。中の火が吹いて山にた。当時の陶町は瀬戸物を焼く登りがまが山の斜面を利用していつもより、父母がよく面到を見てくれるし、もっと居たかっいつもより、父母がよく面到を見てくれるし、もっと居たかっ

そうして一週間、毎日の様に地震が起きた。

竹やぶの生活は

さない家が焼けたのだと言っていた。村は五、六軒焼失していた。父に聞いたら″いろり″の火を消

と言う。 出て金持ちになった人が、乞食みたいになって村へ帰って来た出て金持ちになった人が、乞食みたいになって村へ帰って来た

を買い、そのランプが落ちてガラスがわれ、母親が泣いていた。電気も水道も無い時代であり、はるの家は、村で始めてランプ電気を水道も無い時代であり、はるの家は、村で始めてランプ

濃尾地震の体験

納つね

加

(大府市)

った時の年令は九才です。 地震のあった場所は岐阜県養老郡上石津町一之瀬で地震のあ

やぶが、さわがしくゆれているので、風が吹いてきたかと思っ朝、他家の子供をもうりに家を出たとたんに、すぐそばの竹

家の家族は食事中であった。地震だ、外へ出よ、と言われた。

て、家の中へ込った。

どこか他所では、

その日に子供をもうりに行った家が、一軒たおれたのを見た。 家がたおれて救をもとめていると言うことを

濃尾地震の体験について

П 鉱 次

Ш

(名古屋市東区)

田畑に出掛けて、家には年老いた祖父と幼い弟妹だけ留守番を 当日は丁度朝食をとっていた。田舎の事で、朝早く、父母は 岐阜県武儀郡芸川町八幡でした。

Į

六才のため記憶ははっきりないが、地震を体験したのは、

グラーと来たときは、歩いて外に出る事も出来ず、ハラばい

していた。

位い続いたので、竹ヤブの中で暮した。 になって、ようやく戸外に逃げ出した。それから余震が一週間

作ってあるので、壊れなかつたが、押入の天上が落ちてきて、 上等の着物を着て震えていた。家は田舎の家で、大きく頑丈に あまり長く続いたので、何時死ぬかわからないから、 皆一番

> タンスが倒れた程度で被害はあまりなかった。 平野なので、海もなく、津波の心配もなく、この程度です。

濃尾地震について

池 田 ち え

(名古屋市天白区)

すが、世にいう大地震にはあった事はございません。 近の様子も子供心に被害の状態を覚えていない事は、たいした こともなかったと思われます。後にも度々地震の体験はありま 分それ位の期間、余震が続いていたのではないでしょうか。付 年生れ、只今満九十五才、当時七才の子供の頃のこととて、た を行った様です。日中も夜間も家の中で生活が出来たので、多 しかな記憶もありませんが、当日は晴天の様でした。 当時、 桶の水がゆれてとばれた程度の震動で七日間位は屋外で炊事 震源地より遠く離れた敦賀市在住のためと、明治十七

濃 尾 地震について

部 舜

磯

(名古屋市昭和区)

地震当時は浜松市に住んでいました。 当時私の年令は数え年八才、学校は尋常小学校二年生でした。

米位先に槙の生垣があったから、それに取り付くために走り出 名家族で、食事中の地震で、吃驚して、屋外へ飛び出し、二十 したが、地震で足を取られて、ヨロヨロし走りにくかった事を 地震の時は、丁度朝食の最中で、父母と兄二名、 弟一名の六

おばえて居ます。

み、生徒はそのまま腰掛に腰掛けて居りました。 ったが、その最中に地震があった時は、 机の下に、入る様な事は致しません。またそれまでの必要も それから三百米位先の小学校へ行って、普通の通り授業はあ 治まるまでは授業は止

のが一番良いと言って居りました。私の宅でも敷地が九百坪 大人どうしの話に、 余震も時々あったが、大した事はありませんでした。 地震がひどい時は竹薮の中で、夜は寝る

なかったと思います。

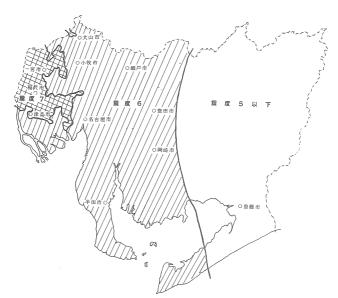
子供心に思って居ったが、その必要もありませんでした。 名古屋に住む様になってからの、関東の大震災の時

その内竹薮が百坪位あったから、今夜は薮の中で寝るのかと、

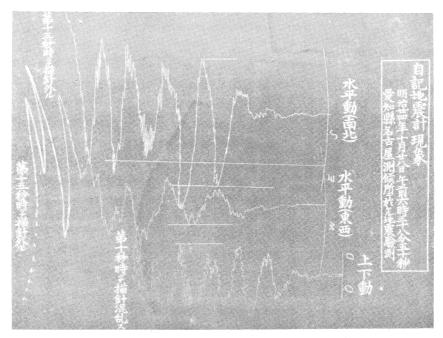
の名古屋での感じと同じ位ではなかったと思いました。



濃尾地震の時のようす



名古屋測候所における地震計記録



濃尾地震の愛知県における震度分布

濃 尾 地震 体 験 問 答集

験者に、次のような質問に答えていただき、回答のあったもの

この「濃尾地震体験問答集」におきましては、濃尾地震の体

(質問事項)

のみ載せました。

2 1 地震にあった時の年齢、 地震にあった場所 地震の時していた事

(5) こわかった思い出 4 3

地震の日の天気

- 最初何が起きたと思いましたか 地震の時、どのくらいゆれましたか
- 9 地震の時、どんな点に気をつけましたか

8 7 6

地震のゆれは、どのくらい長く続きましたか

- (11) 10 前震、余震のようす(小さな地震がいくつかありましたか) 地震の時、 歩けましたか
- (13) (12) 家族 友だちのようす (父、母、兄弟、姉妹等) のようす

(14)

死者、

けが人のようす

- (16) (15) 火事のようす 家が倒れたり、

傾い たりしましたか

- (18) 17) 戸があかなくなりましたか 柱がおれましたか
- 19 障子が倒れましたか
- 20 家具が倒れましたか
- (21) 屋根瓦のようす
- (22) 窓ガラスはわれましたか

(23)

時計のようす

山くずれ、地すべり、大水のようす 一階と二階では、どちらが安全でしたか

25) 24)

- 27) 26 堤防がきれましたか 津波、高潮はありましたか
- 30 着る物はどうしましたか

29 28

水や食料はどうしましたか

地割れがあり、地下水がふきだしましたか

- (31) どこかに避難しましたか
- (33) (32) 家の外で生活しましたか 宿所のようす

- 34) 竹やぶの中で暮らしましたか
- 35) 電灯はつきましたか

けがや病気になって、どこで手当てを受けましたか

39 38 家を建て直したようす 夜の生活のようす 37) 36

昼間の生活のようす

- 41 40 学校のようす
- 仕事のようす(会社のようす)
- 44) 地震のあとで聞いたこと

43 42

見舞(品)のこと 工場のようす

地震の震源地はどこだと聞きましたか 新聞のようす

46 45)

- 47) お寺や神社のようす
- (48)
- 石とうろうや、お墓のようす
- 49 電柱のようす
- (51) (50) 車、 道路、鉄道のようす 電車のようす

(52)

動物や鳥や魚のようす

(54) 53

井戸のようす(水が出なくなったり、

にごったりしました

川や池や海のようす

- (56) **(55)** 地鳴りを聞きましたか 空のようす
- **57**) 光る物を見ましたか
- 親が話していたこと
- 地震の体験から、こんなふうにしたらよいと言うこと 濃尾地震とほかの地震を比べてみるとどうですか

60 **5**9 (58)



⑧ 戸があかなくなりました	⑪ 柱がおれましたか	⑯ 火事のようす	しましたか	⑤家が倒れたり、傾いたり	⑭ 死者、けが人のようす	⑩ 地震の時、歩けましたか	い長く続きましたか	⑧ 地震のゆれは、どのくら	れましたか	⑦ 地震の時、どのくらいゆ	④ 地震の日の天気	③ 地震の時していた事	② 地震にあった場所	学年	① 地震にあった時の年齢、			
あかない。	なし。	なし。	傾いた。	\ •	なし。	歩けない。		五十日ぐらいゆれた。		歩く事も出来ない。	晴。	遊んで居た。	名古屋市千種区上野町。		六才。 (租口	、名古屋与下重など	竜
郷 石とうろうや、お墓のよ	49 見舞のこと	∞ 家を建て直したようす	⊗ 夜の生活のようす	∞ 昼間の生活のようす	たか	一 竹やぶの中で暮らしまし	◎ 家の外で生活しましたか	∞ 宿所のようす	③ どこかに避難しましたか	<i>Ď</i> >	29 水や食料はどうしました	ふきだしましたか。	∞ 地割れがあり、地下水が	∞ 堤防がきれましたか	② 屋根瓦のようす	② 家具が倒れましたか	⑩ 障子が倒れましたか	かゝ
お墓のよ一かたむく。	なし。	直した。	アンドンで生活。	外へ出れないので、内職。		した。	した。	- 小屋たてた。	ヤブ。		つるべで水の心配なし。		大きな地割。	きれた。	ワラ葺。ヒサシの瓦がおちた。	倒れた。	一一倒れた。	

		したか	⑥ 最初何が起きたと思いま		⑤ こわかった思い出	④ 地震の時の天気	③ 地震の時していた事		② 地震にあった場所	学年	① 地震にあった時の年齢、					比べてみるとどうですか	⑩ 濃尾地震とほかの地震を	うす
おし」と言った。	「それは違う、世なおし、世な	クワバラ」と言ったら、祖母が	かみなりだと思い、「クワバラ、	つ だ。	何も食べられない程、恐ろしか	一晴天。	祖母と遊んでいた。	すみだ町。	西区江川線入り裏じお町ぬけ、		八才、学校なし。		(宮宮屋市比玄)	}			一番ひどかった。	
かゝ	∞ 水や食料はどうしました	ふきだしましたか	∞ 地割れがあり、地下水が	かゝ	⑱ 戸があかなくなりました	⑯ 火事のようす	⑭ 死者、けが人のようす		⑫ 家族のようす				⑪ 前震、余震のようす	⑩ 地震の時、歩けましたか	い長く続きましたか	⑧ 地震のゆれは、どのくら	れましたか	⑦ 地震の時、どのくらいゆ
	- 割当てで、くばられた。		地割れは、あったらしい。		あかない。	火事はなし。	なし。	になり、大変でした。	祖母と私は、隣のかべの下じき	余震は、当分続いた。	かけ、だんだんと大きくなった。	頃にゴーとすごい音がしてゆれ	- 前のばんに少しゆれ、朝の七時	- 歩けない。はって歩いた。		解らないが、三十分くらい。		解らないが、大分ゆれた。

⑧ 地震のゆれは、どのくら、子供の時とて充分判明せず。	ましたかとてわからなかった。	⑦ 地震の時どのくらいゆれ まだ少年で、	したか出してくれた。	⑥ 最初何が起きたと思いま 姉さんが私の	7. 7.	⑤ こわかった思い出 地震は始めての事故、	④ 地震の日の天気 - 晴天。	③ 地震の時していた事 朝の食事中。	② 地震にあった場所 本県名古屋	学年	① 地震にあった時の年齢、一八才、小学一年生。		_	Ш		∞ 地鳴りを聞きましたか ̄ゴーウと聞いた。	∞ 家の外で生活しましたか 外でした。	③ どこかに避難しましたか」かり小屋で皆と暮した。
て充分判明せず。	なかった。 ② 屋根瓦のようす	、地震は始めての事 ② 家具が倒れましたか	た。 ⑲ 障子が倒れましたか	姉さんが私の手を持って、引きか	⑱ 戸があかなくなりました	ての事故、こわかっ ⑰ 柱がおれましたか	⑯ 火事のようす	ましたか	本県名古屋市港区南陽町川原。 ⑮ 家が倒れたり傾いたりし		一年生。 ⑭ 死者、けが人のようす	「型」で ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	屋 有千重	山 養 争 ⑪ 前震、余震のようす	⑩ 地震の時、歩けましたか	いた。をつけましたか	⑨ 地震の時、どんな点に気	皆と暮した。 い長く続きましたか。
なかったと思います。	それまでは気がつかなかったが、	少しの事でした。	一三、四本位と思う。	 した。	その様な事は、二、三本の事で	そのような事はなかった。	子供の時にて判明せず。		しました。	ません。	少年の時で、更にきおくにあり	更にわからないでした。	皆おどろいていた。	あった。	あるけた。		一物のとび来らん所を選らぶ事。	

③ 電灯はつきましたか	だ こかゝ	③ 竹やぶの中で暮らしまし	③ 家の外で生活しましたか	③ 宿所のようす	③)どこかに避難しましたか:自宅で異状なし。	③ 着る物はどうしましたか	かゝ	29 水や食料はどうしました	ふきだしましたか	∞ 地割れがあり、地下水が	カ>.	② 津波、高潮はありました	⑩ 堤防がきれましたか	水のようす	② 山くずれ、地すべり、大	が安全でしたか	∞ 一階と二階では、どちら	❷ 時計のようす
ついた。		暮らさない。	家の外でしない。	宿所におらず。		異状なし。	し。	水は井戸水あり、食料は異状な(なかった。		なかった。	なかった。		なかった。		一階が安全だった。	時計はとまった。
60	ځ	ዹ	59	56	54)	50	49	43		42)	41)	40	39	38)	37)		ح	36
濃尾地震とほかの地震を		ふうにしたらよいと言うこ	地震の体験から、こんな	地鳴りを聞きましたか	井戸のようす	道路、鉄道のようす	電柱のようす	見舞のこと		工場のようす	仕事のようす	学校のようす	家を建て直したようす	夜の生活のようす	昼間の生活のようす		とで手当てを受けましたか	けがや病気になって、ど
始めての地震故、不明なるが、		る事。	地震、すべての事に充分注意す	聞かなかった。	井戸は異状なし、変りなし。	- 異状なし。	- 異状なし。	更になし。	 からない。	工場に勤めておらないから、わ	平日と変わり、休業中でした。	学校は休校。	家の建て直しはしない。	かわらず。	異状なし。			けがや病気になって、ど「病気にはかからないでした。

伊 藤 藤 三 郎

(西春日井郡師勝町)

八才。二年生。

1

地震にあった時の年齢、

朝六時であったので、寝ていた。 中島郡馬寄(当時は中島郡とい い、現在は一宮市という)。

2

地震にあった場所

地震。

6 (5) 4 3

最初何が起きたと思いま

こわかった思い出

家が倒れた。

地震の日の天気 地震の時していた事

晴天。

れましたか。 地震の時、どのくらいゆ一体がひどくゆれずめであった。

い長く続きましたか 地震のゆれは、どのくら一急にきて、すぐ家が倒れた。

9

地震の時、どんな点に気一母が朝の御飯をたいていた時な

8

7

したか



宮市の震災の様子

② 家具が倒れましたか	⑲ 障子が倒れましたか	かゝ	⑱ 戸があかなくなりました	⑰ 柱がおれましたか		⑯ 火事のようす	しましたか	⑤ 家が倒れたり、傾いたり		⑭ 死者、けが人のようす	⑬ 友だちのようす	⑫ 家族のようす		⑪ 前震、余震のようす		⑩ 地震の時、歩けましたか		をつけましたか	
全部倒れたり、こわれた。	倒れる位でなく、全部折れた。		あからない、殆んど折れた。	柱は全部折れる。	村は幸い、火事はなかった。	皆が火を消して出たので、私の		全倒。	て、お寺が倒れて二人死亡。	お寺で朝四十人位お詣りしてい	友達は近所に二人、無事。	全部無事で逃げた。	倒れた。	大きな地震で、家が四割位すぐ	めでした。	歩く事は出来たが、体はゆれず	消して出た。	ので、薪を灰の中に入れて火を	
② 宿所のようす		③ どこかに避難しましたか		③ 着る物はどうしましたか	がゝ	29 水や食料はどうしました	ふきだしましたか。	∞ 地割れがあり、地下水が	カゝ	② 津波、高潮はありました	∞ 堤防がきれましたか	水のようす	窓 山くずれ、地すべり、大		② 時計のようす	22 窓ガラスはわれましたか		② 屋根瓦のようす	
近所の方と一箇所に集っていた。		屋敷が広かったので、屋敷にい	出来た。	家は倒れたが、着物を出す事は	し。井戸のいたんだ所もあった。	家は倒れたが、井戸は不自由な		地割あり。		なし。	切れない。		なし。	わからない。	時計は学校か役場以外はなく、	硝子はなく、全部障子で折れた。	草葺。	庇の瓦は殆んど割れる。屋根は	

∞ 地震のあとで聞いたこと 八才で小さかったから何もきか	缈 見舞のこと 古着を	⑩ 工場のようす 工場はなし。	人足。	④ 仕事のようす 会社なし。	⑩ 学校のようす 南向の	 る。	頼母子	∞ 家を建て直したようす │ 殆んど	◎ 夜の生活のようす − 板の上	かゆを	③ 昼間の生活のようす 親切な	こで手当てを受けましたか!	∞ けがや病気になって、ど 私の家	③ 電灯はつきましたか 電灯はない。	たか	∞ 竹やぶの中で暮らしまし 竹やぶ	ないた。	☞ 家の外で生活しましたか 天気がよかったので、外にみん
小さかったから何もきか	古着をもらい、籤で分けた。	なし。		し。殆んど百姓、または	南向のコの字形全倒。		頼母子講が出来て皆が家をつく	殆んど小屋住。しばらくして、	板の上などでねた。	かゆをいただいてたべたりした。	親切な家から、三升鍋に一杯お		私の家は幸いに無事であった。	ない。		竹やぶには暮さない。	, 00	よかったので、外にみん
	60 地鳴りを聞きましたか	⑤ 空のようす	٠		録 井戸のようす	◎ 川や池や海のようす	⑩ 電柱のようす	うす	⑱ 石とうろうや、お墓のよ		⑩ お寺や、神社のようす		,		⑤ 新聞のようす			
がおきた。	うなる音が急にきこえて、地震	晴天。	別状なし。	くさんあったけれど、私の家は	井戸は青どろがかぶった所もた	別状なし。	昔で電柱はない。		石燈籠は全倒。お墓も倒れた。	れた。お宮様は新築で無事。	お寺は二ヶ所あって、一ヶ所倒	あった。	った。役場が新金城をとる位で	出ていた。後に新愛知新聞とい	小さい形で、新金城というのが	いた。	一人が焼ける臭がして昼夜燃え続	ないが、岐阜県笠松町の大火で

⑤ こわかった思い出	④ 地震の日の天気	② 地震にあった場所	学年	① 地震にあった時の年齢、								比べてみるとどうですか	⑩ 濃尾地震とほかの地震を	٤	ふうにしたらよいと言うこ	⑩ 地震の体験から、こんな		፡ 懇が話していたこと
びっくり仰天。	良天。	一宮市今伊勢町本神戸目久井。		七才。小学二年生。		⇒			います。	みんながこまったことをきいて	泥棒が地震の時とても入って、	様に思う。	濃尾地震より大きな地震はない	た火の元に特に注意する。	えたり、逃げる場所をきめ、ま	平素から、地震時の必需品を揃	話していた。	家が倒れて、とてもこまったと
∞ 窓ガラスはわれましたか	② 屋根瓦のようす	⑩ 家具が倒れましたか	⑲ 障子が倒れましたか	カゝ	⑱ 戸があかなくなりました	⑰ 柱がおれましたか		⑯ 火事のようす	しましたか	⑤ 家が倒れたり、傾いたり	⑭ 死者、けが人のようす	⑫ 家族のようす	⑪ 前震、余震のようす	⑩ 地震の時、歩けましたか	れましたか	⑦ 地震の時、どのくらいゆ	したか	⑥ 最初何が起きたと思いま
ガラス戸はなく、戸は倒れた。	瓦は七割方落ちた。	家具は全部倒れた。	全部折れた。		一殆どの戸は開かなかった。	柱が五本程折れた。	近所で火事はなかった。	- 近所へは危なくて出なかった。		北側へ四割程傾く。	近所で三人、家の下敷で死亡。	立って歩けなく四つんばい。	十日前後まで余震(十五回程)	立って歩けない。		立って居られない。		最初何が起きたと思いましものすどく音をたててゆれる。

④ 地震のあとで聞いたこと	43 見舞のこと	☞ 家を建て直したようす	◎ 夜の生活のようす	③ 昼間の生活のようす	こで手当てを受けましたか!	36 けがや病気になって、ど	③ 電灯はつきましたか	たか	剱 竹やぶの中で暮らしまし	③ 家の外で生活しましたか	③ 宿所のようす	③ どこかに避難しましたか	③の 着る物はどうしましたか	か	∞ 水や食料はどうしました	ふきだしましたか	∞ 地割れがあり、地下水が	◎ 時計のようす
地震のあとで聞いたこと一あちら、こちらで誰が死んだと	何も来なかったと思う。	六十日程後に建て直した。	暗闇で恐ろしかった。	不自由。		けがや病気はなかった。	電灯はつかない。		竹やぶ生活をした。	竹小屋で十五日間住んだ。	危くて住めない。	竹小屋を作って住んだ。	着る物はあった。		食料はあったが、水は濁り水。	上げた。	地割れは多数あり、砂水をふき	時計は落ちた。
			比	60	58	<u>\$7</u>	56	<u>55</u>)	54)	<u>(51)</u>	50	49	うす	48		47)	45)	
			比べてみるとどうですか	濃尾地震とほかの地震を	親が話していたこと	光る物を見ましたか	地鳴りを聞きましたか	空のようす	井戸のようす	車、電車のようす	道路、鉄道のようす	電柱のようす	र्षे	石とうろうや、お墓のよ		お寺や神社のようす	新聞のようす	
				問題にならない程ひどかった。	毎日生きている気がしない。	見ない。	一何度も聞いた。	地震の後は曇空であった。	濁り水。	不通。	不通。	倒れたり、七割方傾むいた。		一石とうろうや、墓石が倒れた。	<i>1</i> 5	お寺、神社の鳥居、駒犬が倒れ	とってなかった。	聞いた。

れましたか	⑦ 地震の時、どのくらいゆ							⑤ こわかった思い出	④ 地震の日の天気		③ 地震の時していた事		② 地震にあった場所	学年	① 地震にあった時の年齢、			
がひどくて、長い時間、表の柿	とび出してからは、ゆれ(地鳴)	てもらい、けがもなく助かった。	り、幸にも近所の人達に手伝っ	家は倒れて、母と妹が下敷にな	何が何だかわからなかった。	うにして表に出たのがやっとで、	の灯明を消して、抱れてはうよ	地鳴がして家がゆれ、父が仏様	一天気は晴天。	- るのを見ていた。	父と一緒に仏様の掃除をしてい	番地	江南市大字後飛保字出島五十五		五才七ケ月。	§ F	有	易
		⑯ 火事のようす						しましたか	⑮ 家が倒れたり、傾いたり				⑭ 死者、けが人のようす				⑪ 前震、余震のようす	
一ます。	事が大きくてよく焼けたと言い	火事も近くではなし。笠松が火	入る様になった。	の家も修理をしてから家の中に	一軒もなく、倒れ無くとも、ど	出島区では修理を要し無い家は	は小屋に寝た。	下に父が小屋を作り、一ヶ月位	家が倒れたため、表の桃の木の	います。	かやぶきの家ばかりの為かと思	一人とては無かった様です。家が	死者は出島では一人あり、けが	わからぬ。でも長かった様です)	当分入れなかった(期間は一寸	の倒れていない人も家の中へは	地鳴と余震は毎日毎日続き、家	の木にとまっていた。

38) けがや病気になって、	③ 電灯はつきましたか		たか	図 竹やぶの中で暮らしまし	③ 家の外で生活しましたか	③ どこかに避難しましたか		③ 着る物はどうしましたか	か	29 水や食料はどうしました					ふきだしましたか	図 地割れがあり、地下水が		∞ 時計のようす
けがや病気になって、ど 医者も近くには無く、余程重く	電灯はまだ無し。	暮した。	竹やぶの中に小屋を作り、長く	60 竹やぶのある人の近くの人は、	たか 約一ヶ月位。	たか一田舎の為、避難はなし。	から衣類を出して過す。	たか、火災がなかった為、こわれた家	たき出しなどは無い。	こた 最初は親せきの家で食事をした。	て死んだ人も有ると聞いている。	割に入って、地震にゆさぶられ	一砂が吹出して居た。他所では地	とで、こわくてこわくて、中は	(二尺) 位。飛びこすのがやっ	小が 地割は大きいのは幅六十五cm	で二軒か三軒の時でした。	時計はまだ有る家は後飛保の中
	比べてみるとどうですか	⑩ 濃尾地震とほかの地震を				٤	ふうにしたらよいと言うこ	匈 地震の体験から、こんな	5	⑩ お寺や神社のようす	聞きましたか	⑩ 地震の震源地はどこだと		⑤ 新聞のようす		⑩ 学校のようす	③ 家を建て直したようす	こで手当てを受けましたか ならなければ、
鳴と余震が続いて、生きた心地	無い。また後いついつ迄も、地	濃尾地震よりおそろしい地震は	ため助かったと言います。	ても、衣類は出せば使用できた	に火を消して出た為、家は倒れ	て火事に成ったのを、父が最初	灯明の火を消さずにいたら倒れ	一番大切な事は火。家も仏様の	れた。	近くでは、前飛保の上官寺が倒	方と聞いた。	震源地は当時は大垣の山の中の	の頃らしい。	新聞も後飛保中で、一軒か二軒	えがない。	全部、長期間休校。はっきり覚	自力で建てる。	- ならなければ、かかれ無い。

をつけましたか	⑨ 地震の時、どんな点に気 〒	い長く続きましたか	⑧ 地震のゆれは、どのくらし	れましたか	⑦ 地震の時、どのくらいゆー	し. だ か	⑥ 最初何が起きたと思いまし	⑤ こわかった思い出	④ 地震の日の天気 1	③ 地震の時していた事 一	② 地震にあった場所	学年	① 地震にあった時の年齢、					
	頭に物が当たらないようにした。		分からない。		ひどくゆれた。		何があったか分からなかった。	田から水や砂が吹き出したこと。	晴天。	寝ていた。	尾西市西中野。		五才。	(14) 「田田」「「「北田」	(名号霍打比区	吉田せつ		はしなかった。
図 時計のようす	∞ 窓ガラスはわれましたか	② 屋根瓦のようす	② 家具が倒れましたか	⑩ 障子が倒れましたか	カゝ	⑱ 戸があかなくなりました	⑰ 柱がおれましたか	⑯ 火事のようす	しましたか	⑤ 家が倒れたり、傾いたり	⑭ 死者、けが人のようす	⑬ 友だちのようす				⑫ 家族のようす	⑪ 前震、余震のようす	⑩ 地震の時、歩けましたか
なかった。	なかった。	いっしょにたおれた。	瞬間につぶれた。	右に同じ。	Î,	家がたおれてしまった。つぶれ	おれた。	 なかった。		たおれた。	けが人は竹やぶへ運ばれた。	みんなこわがっていた。	お寺まいりに行った。	た。おじいさんとおばあさんは	姉、妹自分といっしょにい	父畑仕事。母めしたき。	時々ゆすった。	歩けなかった。



(現在の尾西市) で負傷者の治療を行った

35) たか 電灯はつきましたか

30 27 29 28) カゝ かゝ ふきだしましたか 地割れがあり、地下水が

っていた。

(31) どこかに避難しましたか 着る物はどうしましたか一家は焼けてないので、男が家を 竹やぶ。

おこしてもってきた。

竹やぶの中で暮らしまし 家の外で生活しましたか 竹やぶの中で生活した。

34)

(32) (33)

宿所のようす

むしろを敷いたりしていた。

生活した。

⑤ 山くずれ、地すべり、大 木曽川の堤防にひびが入って出 が安全でしたか。 水のようす 堤防がきれましたか 津波、高潮はありました一ありませんでした。 水した。

24)

一階と二階では、どちら一一階しかなかった。

水や食料はどうしました | 水は村の庄屋の倉の井戸でもら 吹き出した。 ひびがわれただけ。

つかない。

۵	59	58	(55)	53)	(51)		50	49	う	48)	47)	45)		44)	42	41)	40	38)
ふうにしたらよいと言うこ	地震の体験がら、こんな	親が話していたこと	空のようす	川や池や海のようす	車、電車のようす	•===	道路、鉄道のようす	電柱のようす	うす	石とうろうや、お墓のよ	お寺や神社のようす	新聞のようす		地震のあとで聞いたこと	工場のようす	仕事のようす	学校のようす	夜の生活のようす
	竹やぶの中がよい。	村の事や家の事。	くもっていた。	水が増した。	なかった。	していた。	ひびが割れて、どろ水が吹き出	なかった。		たおれた。	全部つぶれた。	なかった。	たおれて倉が一つ残ったこと。	村の人が死んだ事や、村が全部た	近所にはなかった。	なかった。	行ってない。	竹やぶの中でうずくまっていた。
⑧ 地震のゆれは、どのくら 二分位。	れましたか。	⑦ 地震の時、どのくらいゆ	したか	⑥ 最初何が起きたと思いま		⑤ こわかった思い出	④ 地震の日の天気	③ 地震の時していた事	② 地震にあった場所	学年	① 地震にあった時の年齢、					比べてみるとどうですか	⑩ 濃尾地震とほかの地震を	٤
二分位。	込んだ。	隣家の四才の子供が床下に転げ		わからない。	かと思った。	まだ小さいので、どうなること	啃。	朝食直後。	屋内。		· 方才。	(人) 性 計	女 三 n			750	濃尾地震はものすごくこわかっ	

ふきだしましたか	⑧ 地割れがあり、地下水が	か	② 津波、高朝はありました	∞ 堤防がきれましたか	水のようす	② 山くずれ、地すべり、大	が安全でしたか	❷ 一階と二階では、どちら	図 時計のようす	∞ 窓ガラスはわれましたか -	② 屋根瓦のようす	⑯ 火事のようす	しましたか	⑤ 家が倒れたり、傾いたり	⑭ 死者、けが人のようす	⑪ 前震、余震のようす	⑩ 地震の時、歩けましたか	い長く続きましたか
	一戸だけ井戸水がふき出た。		平野部だからない。	きれない。		ない。		二階はなかった。	ない。	ガラスはない。	瓦は殆んどなかった。	ない。		二百五十戸中、約十戸。	ない。	余震が二日位続いた。	やっと歩けた。	
◎ 動物や鳥や魚のようす	⑩ 道路、鉄道のようす	うす	⑱ 石とうろうや、お墓のよ	聞きましたか	⑩ 地震の震源地はどこだと	④ 工場のようす		⑩ 学校のようす	こで手当てを受けましたか	36 けがや病気になって、ど	窓 電灯はつきましたか	たか	❷ 竹やぶの中で暮らしまし		③ どこかに避難しましたか	⑩ 着る物はどうしましたか	か	29 水や食料はどうしました
鶏が驚いてさわいだ。	道路支障なし、鉄道なし。		一始んど倒れた。		木曽川流域。	付近に工場なし。	からない。	学校はまだ行っていないのでわ		けが人なし。	まだ電灯はなく、カンテラ。		竹やぶで暮らした人もあった。	二日位寝た。	屋外の木の下に仮小屋を造って	支障なし。		水や食料はどうしました 自給自足だから困まらない。

い長く続きましたか	⑧ 地震のゆれは、どのくら		れましたか	⑦ 地震の時、どのくらいゆ	したか	⑥ 最初何が起きたと思いま		⑤ こわかった思い出	④ 地震の日の天気	③ 地震の時していた事	② 地震にあった場所	学年	① 地震にあった時の年齢、				٠	鰯 井戸のようす
五日位。	毎日三回~四回位ゆすった。約	程逃げ出した。(二回ころんだ)	起こされて、私をだいて三十米	朝、餅を母親がやいていたので、	起てされた。	母親が朝御飯を用意していて、	つた。	ゆすりづめだったので、こわか	晴天。	ねていた(朝六時三十七分頃)	稻沢市。		四才。	ď	番えこ	大 火		支障なし。
カゝ	⑱ 戸があかなくなりました −あかなくなった。		⑪ 柱がおれましたか	⑯ 火事のようす		しましたか。	⑮ 家が倒れたり、傾いたり	⑭ 死者、けが人のようす		⑬ 友だちのようす	⑫ 家族のようす			⑪ 前震、余震のようす	⑩ 地震の時、歩けましたか		をつけましたか	⑨ 地震の時、どんな点に気
	あかなくなった。	林にもたれた。	本屋の柱は折れた。離れはまき	なかった。	にまき林があって半壊した。	のひさしのみ残った。離れは裏	本屋(草屋)全部こわれた。裏	別になかった。	こで食事を共にした。	となりにやぶがあったので、そ	異状はなかった。	があった。	四回。どんどん、ぎしぎしの音	前震はなし。余震は一日、三~	歩けた。	入ってねていた。	いが、昔の麦のなぐり台の中へ	地震の時、どんな点に気 年も小さかったのでおぼえはな

	カゝ	∞ 水や食料はどうしました	ふきだしましたか	∞ 地割れがあり、地下水が	カン	② 津波、高潮はありました	20 堤防がきれましたか			水のようす	② 山くずれ、地すべり、大	が安全でしたか	∞ 一階と二階では、どちら	23 時計のようす	20 窓ガラスはわれましたか	② 屋根瓦のようす	② 家具が倒れましたか	⑲ 障子が倒れましたか
共に持ちより助け合って食べた。	はなかった。食料については、	水は、砂をさらえたので不自由	きは五十間程(南北)あった。	地割は、裏の畑に巾一間位で長		土地柄関係なし。	堤防はない。	流れた。	埋った。道はまるで川のように	(泥水)が噴き上げて、井戸が	地すべりはないが、地下から水		草屋根のためなかった。	時計はない。	ガラスは、昔のことでなかった。	こわれた。	倒れた。	倒れた。
		∞ 家を建て直したようす			≫ 夜の生活のようす	③ 昼間のようす	こで手当てを受けましたか	36 けがや病気になって、ど			⑧ 電灯はつきましたか	たか	∞ 竹やぶの中で暮らしまし	፡◎ 家の外で生活しましたか	32 宿所のようす		③ どこかに避難しましたか	③ 着る物はどうしましたか-
離は、半壊なのでおこした。	て建てなおした。	本家は倒れたので、古木を使っ	12°	男はないので、話をして暮らし	女ははたおり仕事。	異状なく働いていた。		けが等なかった。	というで	燈火のようなもので油でつけて	電灯はなかったので、仏だんの		食料のにたきのみした。	小屋の中で生活した。	庭先に小屋を建てて寝起した。	へひなんした。	近くにやぶがあったので、そこ	不自由はなかった。

- **4**5 46 (44) 43 40 42 41) 聞きましたか 学校のようす 新聞のようす 地震のあとで聞いたこと一特にない。 見舞のこと 工場のようす 仕事のようす 地震の震源地はどこだと「どことも聞いていない。 なかった。 異状はなかった。 小さいのでわからない。 新聞はなかった。 近くになくわからない。 (53) (54) (52) 井戸のようす 川や池や海のようす 動物や鳥や魚のようす した。 馬がいた。にわとりは一匹~二 า ใ 川や池は別に異状なし、 匹いたが異状はなかった。 なかった。
- 石とうろうや、 お墓のよ 異状はないおぼえです。 れた。 神社は、 異状なく、鳥居がこわ (58) **5**7 (56) 親が話していたこと 光る物を見ましたか 地鳴りを聞きましたか 見なかった。
- (59) 地震の体験から、こんな (1) 瓦だと重いので草屋根のほ こわい話をしていた。
- 道路、鉄道のようす 電柱のようす 電車のようす 電車は、 人力車、馬車はあったが異状は 小車は使っていた(農家用)。 鉄道は異状はない。 道路は泥水が流れていた。 電気もないので関係なし。 この付近はなかった。 比べてみるとどうですか ふうにしたらよいと言うこ | うが軽いのでよいと云っていた。 濃尾地震とほかの地震を 一たことが感ぜられた。 (2)比べてみると、如何に大きかっ のでよいと云っていた。 が、 草屋根の方がけがをしない 地震のときは外へ飛び出る

(51)

車

(50) 49

48

うす

47)

お寺や神社のようす

お寺は、

あみだ堂がこわれた。

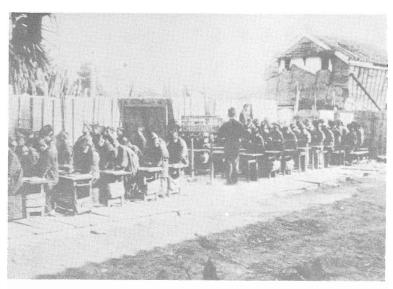
(55)

空のようす

⑭ 死者、けが人のようす	⑬ 友だちのようす	⑫ 家族のようす	⑪ 前震、余震のようす	⑩ 地震の時、歩けましたか	い長く続きましたか	⑧ 地震のゆれは、どのくら	れましたか	⑦ 地震の時、どのくらいゆ	したか	⑥ 最初何が起きたと思いま	④ 地震の日の天気	③ 地震の時していた事	② 地震にあった場所	学年	① 地震にあった時の年齢、			
住んでいた村ではない。	一同じ薮の中で生活した。	夜は薮の中で寝た。	余震が多くあった。	歩けた。		長く続いた。		長く感じた。		親が地震だと大声で叫ぶ。	晴。	家の中で遊んでいた。	- 現在の豊明市後前。		七才。	(名古屋市昭和区)		旧泰
だ こかゝ	❷ 竹やぶの中で暮らしまし	፡፡ 家の外で生活しましたか	③ どこかに避難しましたか	か>	29 水や食料はどうしました	ふきだしましたか	28 地割れがあり、地下水が	図 時計のようす		② 屋根瓦のようす	⑩ 家具が倒れましたか	⑩ 障子が倒れましたか	Źν	⑱ 戸があかなくなりました	⑰ 柱がおれましたか	⑯ 火事のようす	しましたか	⑮ 家が倒れたり、傾いたり
3	一竹薮で生活した。	一竹薮で生活した。	一竹薮に避難した。		井戸水がにごり砂でこしていた。		地割は多く出来た。	柱から落ち、こわれた。	 な い。	自分の家は草屋根のため記憶に	倒れた。	きしんで障子がやぶれた。		あかなくなった。	自分の家の柱はおれない。	一人事は記憶ない。		傾いたり一となり村で家が倒れた。

	② 地震にあった場所 家の中にねて居ました。	学年	① 地震にあった時の年齢、一十三才。六年生。	- (中島君祉父江町)		古川富三郎		が強い。	比べてみるとどうですか。一記憶があたらしいだけに、印象	◎ 濃尾地震とほかの地震を │関東大地震の方が大きくこわい	→ 出が悪くなり、にごった。 出が悪くなり、にごった。	卿 電柱のようす 電線が切れ電柱はかたむく。	うすれた。	❸ 石とうろうや、お墓のよ お墓や石灯ろうは、ほとんど倒	∞ 家を建て直したようす 柱(すじ棒)で補修した。	れた家の応援に。	③ 昼間の生活のようす 親や大人の人は、地割直しや倒	③ 電灯はつきましたか つかない。
-		⑬ 友だちのようす		⑫ 家族のようす		⑪ 前震、余震のようす	⑩ 地震の時、歩けましたか	⑨ 地震の時、どんな点に気	象 い長く続きましたか	い ⑧ 地震のゆれは、どのくら		れましたか	⑦ 地震の時、どのくらいゆ	倒したか	⑥ 最初何が起きたと思いま	⑤ こわかった思い出	倒 ④ 地震の日の天気	
	うしたのかと思って心配して居	ぼくは元気で居るが、友達はど、	族そろってせいかつしました。	竹やぶの中に小屋を出かし、家	න්	夜明けより~夕方までいすりず	2 歩けなく、四ツばいではい出た。	(自分の身を安全な所に行った。	<i>†</i> ?	- 一日中ゆれて、びくびくして居	した。	ことも出きず、ころがって居ま	, 立って居ることも、座って居る		り、地震がおきたと思った。	地割れがし、家が倒れました。	- 天気は曇り。	ろがって居ました。

20 堤防がきれましたか	水のようす	② 山くずれ、地すべり、大	が安全でしたか。	29 一階と二階では、どちら	28 時計のようす	22 窓ガラスはわれましたか	② 屋根瓦のようす	⑩ 家具は倒れましたか	⑲ 障子が倒れましたか	かゝ	⑱ 戸があかなくなりました	⑰ 柱がおれましたか		⑯ 火事のようす	しましたか	⑤ 家が倒れたり、傾いたり		⑭ 死者、けが人のようす
堤防がくずれた。		地割れより水がふき出た。		二階の方が安全。	時計はおち、ふたは割れた。	窓ガラスはめちゃくちゃ。	屋根瓦はすべりおちた。	家具は倒れました。	障子はメチャメチャ。		戸は明きません。	柱がおれた。	村にはあった。	大牧にはなかったが、となりの	かった。	家はどの家も立って居る家はな	いて居なかった。	弟は死亡したが、何のきずもつ
∞ 夜の生活のようす		③ 昼間のようす	とで手当てを受けましたか	38 けがや病気になって、ど	③ 電灯はつきましたか	だ か	∞ 竹やぶの中で暮らしまし	33 家の外で生活しましたか		32 宿所のようす	③ どこかに避難しましたか	③の 着る物はどうしましたか	かゝ	29 水や食料はどうしました	ふきだしましたか	∞ 地割れがあり、地下水が	かゝ	② 津波、高潮はありました
夜はろうそく、又はかんてらを	750	昼間の生活は家の中をかたづけ		- 病気にはならなかった。	電灯はつきません。		竹やぶの中で暮しました。	家の外で生活した。	ました。	竹やぶにむしろをひいて生活し	竹やぶの中に避難した。	倒れた家の中からさがし、着た。	 炊いた。	倒れた家の中からさがし出して		地が割れたし、水がふき出た。		一津波、高潮はなかった。



清洲小学校の震災後の授業の様子

46 (45)

地震の震源地はどこだと

新聞のようす

聞きましたか

お寺や神社のようす

- (51) (50)
- 49 道路、鉄道のようす 電柱のようす
- 動物や鳥や魚のようす 車、電車のようす

(52)

動物は居なかった。

倒れました。 道路は地割がし、鉄道は止まっ

車、電車もなかった。

た

おれた。

石とうろうや、お墓のよ一石とうろう、お墓も何もかもた お寺も神社もこわれた。

らった。 学校はわら小屋を建て教えても 家はみな建て直した。 とばした。

40 39

学校のようす

家を建て直したようす

農業。 畑に行って仕事をした。

見舞品はもらいました。

地震のあとで聞いたこと 聞かなかった。

(44)

42 (41)

43

見舞のこと 工場のようす 仕事のようす

新聞はなかった。

地震の震源地は地もと、大牧。

—134**—**

③ 地震の時していた事	② 地震にあった場所	学年	① 地震にあった時の年齢、	_				比べてみるとどうですか	⑩ 濃尾地震とほかの地震を	٤	ふうにしたらよいと言うと	⑨ 地震の体験から、こんな	◎ 親が話していたこと	劒 光る物を見ましたか	⑩ 地鳴りを聞きましたか	⑤ 空のようす	❸ 井戸のようす	፡፡ 川や池や海のようす
ねて居た。	津島市片町ニー一〇。		五才。	() 是 (1)	3 B	泰		600	濃尾地震ほどこわかった事はな	-		家の中から早く出る事。	親が話して居た事はこわかった。	見ない。	地鳴りは聞かなかった。	曇り。	井戸水はにごった。	川や、池は近くにはなかった。
29 一階と二階では、どちら		② 屋根瓦のようす	カ>	⑱ 戸があかなくなりました	⑰ 柱がおれましたか	しましたか	⑤ 家が倒れたり、傾いたり	⑭ 死者、けが人のようす		⑫ 家族のようす	い長く続きましたか	⑧ 地震のゆれは、どのくら	れましたか	⑦ 地震の時、どのくらいゆ	したか	⑥ 最初何が起きたと思いま	⑤ こわかった思い出	④ 地震の日の天気
どちら一平家の為わからね。	々の家で修理して居た。	一町内では変わらぬ。地震後、方		あいた。	おれない。		家の屋敷、半分倒れた。	近所ではない。	と小屋を出たり入ったりした。	広場に四畳位の小屋を立て、家	一ケ月も続いた様に思う。	一時の長さはわからぬが時々、	一角どこわれた。	程度はわからぬが、東西の家は		一親に云われ地震と思った。	親に抱えられて出た。	一晴れの記憶。

卿 電柱のようす	聞きましたか	⑩ 地震の震源地はどこだとし	⊗ 夜の生活のようす	とで手当てを受けましたか	30 けがや病気になって、ど	③ 電灯はつきましたか	たか	❷ 竹やぶの中で暮らしまし	③ 家の外で生活しましたか -	③ どこかに避難しましたか .	③の 着る物はどうしましたか に	⊅>	29 水や食料はどうしました		ふきだしましたか 	∞ 地割れがあり、地下水が一	20 堤防がきれましたか 1	が安全でしたか
電柱なし。		近かくだと。	変りなし。		がい当者なし。	此の頃では電灯はなし。		しない。	小屋でした。	向え側の広場。	関係ない。	らい水をした。	不自由した覚えはない、水はも	らない。	十m位、地割れし、水の事は知	家の前道南北五㎝幅位、二百五	切れない。	
	⑪ 前震、余震のようす	れましたか	⑦ 地震の時、どのくらいゆ	④ 地震の日の天気	③ 地震の時していた事	② 地震にあった場所	学年	① 地震にあった時の年齢、					比べてみるとどうですか	⑩ 濃尾地震とほかの地震を	⑤ 空のようす		❸ 井戸のようす	፡፡ 川や池や海のようす
は一日に何回となくゆれていた。	前震はおばえていないが、余震		東西に大きくゆれた。	天気はよかったように思う。	朝食の準備をしている頃。	海部郡十四山村大字鳥ケ地新田。		私は当時九才。	(浴音君升层木)		*		大きかった様に思う。	他の地震は比べ物にならない程、	一変りない様に思う。	== इ	一砂が一杯ふき出して、使用出来	天王川変りなかったと思う。

		⑭ 地震のあとで聞いたこと											③ 昼間の生活のようす		しましたか	⑤ 家が倒れたり、傾いたり		⑫ 家族のようす
様なうたがうたわれた。	は十月二十八日明けの空」この	「お耳々にびっくり大地震、頃	かったようなおぼえはない。	- 戸、障子が倒れたり、うごかな	ていたので、あまり家が傾いて、	の上にむしろ等を引いて生活し	んどで、籾がらを下に引き、そ	した。昔の家は土間の家がほと	き、その中で何日か寝たもので	て、かこい、よしづで屋根をふ	たので、松の木の下に積み上げ	早生の稲わらが取り入れてあっ	何日間かはおばえていないが、	うだ。	近くでは倒れた家はなかったよ	当時はカヤぶきの屋根ばかりで、	一 人。	家族は父母と祖母、弟と姉の六
学年	① 地震にあった時の年齢、									比べてみるとどうですか	⑩ 濃尾地震とほかの地震を		∞ 動物や鳥や魚のようす					④ お寺や神社のようす
	 十四才。	(消音君十四日本)	人 功 夫 · 。 * .	豆牛		った様に思う。	でこわかったので一ばん大きか	でよくわからないが、子供の頃	は今のように計るものがないの	一の大地震、三回の大地震の中で	大正の関東大地震、昭和十九年	に打ち上げられてはねていた。	小川のなまずやふなが田圃の上	れて火災が起きたそうだ。	いが、津島市では多くの家が倒	らい。まだ子供で見たわけでな	わら屋根であったので倒れたぐ	みろく寺と云うお寺の本堂がか

⑰ 柱がおれましたか 倒れた	⑯ 火事のようす 火事は	しましたか	⑤ 家が倒れたり、傾いたり一小さな	⑭ 死者、けが人のようす 多数の	⑫ 家族のようす 一家族へ	⑩ 地震の時、歩けましたか 多分、	をつけましたか	⑨ 地震の時、どんな点に気一表の立	い長く続きましたか	⑧ 地震のゆれは、どのくらしわから	れましたか	⑦ 地震の時、どのくらいゆ一手ばな	し だ か	⑥ 最初何が起きたと思いま 地震だ	⑤ こわかった思い出 一隣、近	④ 地震の日の天気 多分、	③ 地震の時していた事 朝、起	② 地震にあった場所 海部郡
なかったが、柱はおれた。	火事は出なかった。		小さな家は殆んど倒れた。	多数の人が死に、けがをした。	家族全員表に飛び出た。	歩けない。		表の立木につかまっていた。		わからないが、長かったと思う。		手ばなしで立っておれなかった。		地震だと思った。	近所の家がこわれた事。	多分、晴天だったと思う。	起きた処。	海部郡飛島村福岡新田。
,	かゝ	29 水や食料はどうしました	ふきだしましたか	∞ 地割れがあり、地下水が		∞ 堤防がきれましたか	・が安全でしたか	❷ 一階と二階では、どちら	図 時計のようす			22 窓ガラスはわれましたか	② 屋根瓦のようす	② 家具が倒れましたか		⑩ 障子が倒れましたか	Źλ	⑱ 戸があかなくなりました
15	一止んだ時、家の中に取りに行っ	水は川水を使い、食物は地震の	出した。	いたる所、地割れ。地下水が噴	TZ,	堤防はこわれたが、きれなかっ		二二階が無かったからわからない。	とまった。	と思う。	が、有ったなら多分全部われた	一当時窓ガラスはなく、紙障子だ	屋根瓦はずれてしまった。	箪笥等は全部倒れた。	てしまった。	障子は殆んど倒れるよりも折れ		戸があかなくなりました「雨戸は全部動かなくなった。

郷 見舞のこと	④ 工場のようす	④ 仕事のようす	⑩ 学校のようす		∞ 家を建て直したようす ☆		◎ 夜の生活のようす □		③ 昼間の生活のようす ~~	こで手当てを受けましたか	30 けがや病気になって、ど	⑧ 電灯はつきましたか ニ	だ か [,]	図 竹やぶの中で暮らしまし	③ 宿所のようす	③ どこかに避難しましたか		③ 着る物はどうしましたか
親戚全部やられたので、見舞品	分らない。	たしかな事は覚えていない。	地震をさかいにやめた。	後に新築した。	覚えはさだかでないが、何年か	15	藁小屋、ランプ生活が長く続い	なかった。	後片づけ等で仕事まで手が廻ら		村の医者。	電灯は無かった。		しない。	空地に藁小屋を建て生活した。	空地に避難した。	に取りに行った。	着物も地震のやんだ時に家の中
	③ 川や池や海のようす			◎ 動物や鳥や魚のようす			⑤ 車、電車のようす		⑩ 道路、鉄道のようす	卿 電柱のようす	うす	⑱ 石とうろうや、お墓のよ		④ お寺や神社のようす	⑤ 新聞のようす		地震のあとで聞いたことずいぶん広い地域で、	
った(田圃に打上げられた)。	川や池の水は一時殆んどなくな	げられた。	れ、魚も一緒に田圃の中	川の水が一時田圃に打ち上げら	通れなかった。	大八車(板車)は道がこわれて	電車、自動車はない。	で三尺位ずれた。	鉄道はないが、道路もい	電柱はないのでわからない。	13	お墓のよ。石とうろう、お墓も殆んど倒れ	15	お寺や神社の拝殿は殆んど倒れ	新聞はなかった。	た事を知った。	ずいぶん広い地域で、	等は殆んどない。

② 地震にあった場所	① 地震にあった時の年齢、		比べてみるとどうですか 濃尾地震とほかの地震を	ようにしたらよいと言うと	邸 光る物を見ましたか	劒 地鳴りを聞きましたか	∞ 空のようす
嘉江口二十五番地。	七才。 (海部郡佐屋町)		逢ったが、濃尾地震が一番大き今迄にいくつかの大きい地震に	を頭に乗せて外に出るとよい。瓦から頭を守る為に、座布圃等	外に出る時、棚の上の物や屋根見ない。	小さい地震は相等長い間続いた。聞かないが、大きい地震の後、	覚えていない。
② 家族のようす③ 前震、余震のようす	⑩ 地震の時、歩けましたか砂 地震の時、どんな点に気をつけましたか	地震のゆれ	⑦ 地震の時、どのくらいゆしたか	⑥ 最初何が起きたと思いま	⑤ こわかった思い出	④ 地震の日の天気	③ 地震の時していた事
みんないっしょに井戸ごにとま後よりあった。	家の内から十歩位の所にひなん子供だからわからない。	一ヶ月位続いたと思う。わからない。	(井戸ご)にとまっていたからがじしんかと思った。		にいたので、そんなにかんじなとわかっただろうが、親のそば	睛。これにいた。	りつなぎをしている、そのそば朝食の後、母のハタオリのかざ・

100

が安全でしたか	❷ 一階と二階では、どちら 当時二階のある家はない。	w			②時計のようす	② 窓ガラスはわれましたか		② 屋根瓦のようす	② 家具が倒れましたか	⑩ 障子が倒れましたか	⊅ >	⑱ 戸があかなくなりました	⑰ 柱がおれましたか	⑩ 火事のようす	しましたか	⑤ 家が倒れたり、傾いたり	⑭ 死者、けが人のようす	
	当時二階のある家はない。	(その時計も止まった様子)。	せたので、各家には時計はない	十一時にお寺の鐘をついて知ら	東となりが寺なので(ハチブ)	当時はガラス窓はなかった。	瓦がおちた。	北東へ かたむい た方のひきしの	戸棚がたおれた。	おれた。		あかなかった。	おれない。	ない。		自分の家は傾いた。	ない。	っていた。
	③ 昼間の生活のようす		⑧ 電灯はつきましたか	たか	∞ 竹やぶの中で暮らしまし	図 家の外で生活しましたか	∞ 宿所のようす		③ どこかに避難しましたか	③ 着る物はどうしましたか	かゝ	29 水や食料はどうしました	ふきだしましたか	∞ 地割れがあり、地下水が	⊅>	② 津波、高潮はありました	水のようす	② 山くずれ、地すべり、大
んでいた。	一両親はハタケ仕事、自分はあそ	すごした。	当時電灯はない(あんどん)で		行かなかった。	家の外に小屋を作り生活をした。	各家々に小屋を作った。	をした。	屋敷内の西北に小屋を作り生活	自分の家のものでまに合った。		水も食料も自家でまにあった。	ない。	沈下はあったようだが東条には		ない。		大一ない。

		<i>(</i> 2)					œ.										_	
	50	49	うす	48			47	聞	46	43	42	41)	40				39	38
	道路、鉄道のようす	電柱のようす	す	石とうろうや、お墓のよ			お寺や神社のようす	聞きましたか	地震の震源地はどこだと	見舞のこと	工場のようす	仕事のようす	学校のようす				家を建て直したようす	夜の生活のようす
とおれた。	鉄道は当時はない。道は普通に	電気はない。	ない。	その当時は、そのようなものは	のおみどは全部こわれた。	東保一、本部日一、五本のお寺	お寺、本願寺、西条二、東条一、		ぎふときいた。	木綿のでんちを一枚もらった。	東条には工場はない。	普通に出来た。	こわれなかった。	たおぼえがある。	の前日大雪にあい、雪よけをし	さんに手伝ってもらった。建前	自分の家はかたむいたので、皆	小屋でねた。
し た か	⑥ 最初何が起きたと思いま	⑤ こわかった思い出	④ 地震の日の天気	③ 地震の時していた事	② 地震にあった場所	学年	① 地震にあった時の年齢、					比べてみるとどうですか	⑩ 濃尾地震とほかの地震を	⑤ 空のようす	厨 井戸のようす	◎ 川や池や海のようす		⑤ 車、電車のようす
	地震が起きたと思った。	こわかった。	晴天。	朝ネテイテ目ガサメタ。	常滑市金山字菖蒲池。		十二才。	· (常) (清	身 引 オ	ケ 勺 か つ		尾地震の方がえらかったと思う。	- その後三、四回あっているが濃	一晴、くわしい事は知らない。	水が増えた。	一川の水が飛び出て魚を取った。	(当時関西線の有無は知らない)	名古屋までみな歩いていった。

⑳ 家具が倒れましたか	⑲ 障子が倒れましたか	Ď>	⑱ 戸があかなくなりました	⑰ 柱がおれましたか	⑯ 火事のようす	しましたか	⑤ 家が倒れたり、傾いたり	⑭ 死者、けが人のようす	③・友だちのようす	⑩ 家族のようす	⑪ 前震、余震のようす	⑩ 地震の時、歩けましたか	をつけましたか	⑨ 地震の時、どんな点に気	い長く続きましたか	⑧ 地震のゆれは、どのくら	れましたか	⑦ 地震の時、どのくらいゆ
家具倒れない。	倒れない。		サラン。	柱おれない。	火事なし。		倒れた、傾いた、無し。	無し。	変った事ない。	変った事ない。	数十回有った。	歩けた。		家内皆が火に注意した。		一後から一ケ月位余震。		どのくらいゆ一歩んで家の前に出れた。
	≫ 夜の生活のようす		こで手当てを受けましたか	38) けがや病気になって、ど	だ か	∞ 竹やぶの中で暮らしまし	③ 家の外で生活しましたか	③ どこかに避難しましたか	Źγ	∞ 水や食料はどうしました	ふきだしましたか	∞ 地割れがあり、地下水が	Ź>	② 津波、高潮はありました	∞ 堤防がきれましたか	水のようす	25 山くずれ、地すべり、大	② 屋根瓦のようす
けていた。	何時でも庭まで出れる様、心掛	毎日通り。		けが病気しない。		しない。	しない。	地震の時、庭に出た。		毎日暮し変りなし。		なし。		なし。	なし。		なし	当時屋根瓦なし。

⑧ 地震のゆれは、どのくられましたか	⑦ 地震の時、どのくらいゆ	したか	⑥ 最初何が起きたと思いま	⑤ こわかった思い出	④ 地震の日の天気	③ 地震の時していた事	② 地震にあった場所	学年	① 地震にあった時の年齢、					比べてみるとどうですか	⑩ 濃尾地震とほかの地震を	⑩ 地鳴りを聞きましたか	∞ 家を建て直したようす
よく覚えて居りません。	大地震でした。	ちあけた。	地震と気付き、味噌汁の鍋をぶ	こわかったです。	好天気。	朝の炊事。	知多郡阿久比村字西坂		満九才。二学年	S E	自し	日泰・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・		は損害もあった。	三河地震の方が大きく、其の時	地鳴りを聞いた。	家は元通り建て直しなし。
д ⁵	1)	22	21)		19		<u>17</u>)	16	l	15)	<u>(14)</u>	12	11)	10	を	9	ζì
が安全でしたか		窓ガラスはわれましたか	屋根瓦のようす		障子が倒れましたか		柱がおれましたか	火事のようす	しましたか	家が倒れたり、傾いたり	死者、けが人のようす	家族のようす	前震、余震のようす	地震の時、歩けましたか	をつけましたか	地震の時、どんな点に気	い長く続きましたか
半りません。平著です		ガラスを使用する家があまりな	田舎で殆んど藁屋根でした。	います。	障子やら家具なども倒れたと思	の事は良く判りません。	色々被害は出たと思うが、個々	火事はなし。	はなし。	傾いた家はあったが、倒れた家	隣り近所では無いようでした。	家族に怪我、あやまちはなし。	余震は多くさんありました。	歩けず、はって動いた。		気を付ける余裕がない。	
							_	144	_								

8		地震のあとで聞いたこと「色々聞いた事も子供のことでわ	⊕ 地震のあとで聞いたこと	
		まだなし。		
		素人家にて教えられた。学校は	⑩ 学校のようす	
	比べてみるとどうですか	一昼夜間共折々に百姓作業あり。	③ 昼間の生活のようす	
関東大地震よりまだ強いと思った。	⑩ 濃尾地震とほかの地震を		とで手当てを受けましたか	
	٤	けがや病気になって、ど「手当の用はなくて済みました。	36 けがや病気になって、ど	
せん。	ふうにしたらよいと言うこ	石油ランプ使用して居りました。	③ 電灯はつきましたか	
まだ九才でしたので良く判りま	匈 地震の体験から、こんな	- は軒下などに寝起した。		
見ません。	劒 光る物を見ましたか	外に小屋を作って住居した。又	③ どこかに避難しましたか	
聞きません。	⑩ 地鳴りを聞きましたか	<i>†</i> C,		
気が付きませんでした。	多空のようす	これも不自由はありませんでし	③ 着る物はどうしましたか	
せん。			かゝ	
井戸の様子は別に変りはありま	₩ 井戸のようす	- 不自由はしませんでした。	29 水や食料はどうしました	
h		ん出来た。	ふきだしましたか	
電柱、鉄道、電車などありませ	卿 電柱のようす	村の河の堤防に地割れが多くさ	窓 地割れがあり、地下水が	
- 被害がない様でした。	郷 お寺や神社のようす		カゝ	
	聞きましたか、	高潮はありました 山手ですのでありませんでした。	② 津波、高潮はありました	
美濃北部の方だと思います。	⑩ 地震の震源地はどこだと	• • • •	水のようす	
すれた。		これも村ではありません。	25 山くずれ、地すべり、大	

⑯ 火事のようす 知らない。	しましたか	⑤ 家が倒れたり、傾いたり あまり	⑭ 死者、けが人のようす し近くで	⑩ 家族のようす 一家族は	⑪ 前震、余震のようす 一二回。	⑩ 地震の時、歩けましたか一家の中	い長く続きましたか	⑧ 地震のゆれは、どのくら 余震*	れましたか	⑦ 地震の時、どのくらいゆ」とにか	④ 地震の日の天気 晴れ。	③ 地震の時していた事 妹の守り。	② 地震にあった場所 知多歌	学年	① 地震にあった時の年齢、 十二才頃。		ſ	否
ፈ ነ`。		あまりなかった。	近くではなかった。	家族は無事だった。		家の中から出られなかった。		余震も含め三十分程。		とにかくひどかった。		र्च b °	知多郡東浦町生路門田。		才頃。	Ą	(蜀)	京 田 寅 乍
③ 着る物はどうしましたか	かゝ	∞ 水や食料はどうしました	ふきだしましたか	∞ 地割れがあり、地下水が	Ź	② 津波、高潮はありました	20 堤防がきれましたか	水のようす	② 山くずれ、地すべり、大	が安全でしたか	❷ 一階と二階では、どちら	② 時計のようす	22 窓ガラスはわれましたか	② 屋根瓦のようす	⑩ 家具が倒れましたか	۵۶	⑱ 戸があかなくなりました	⑰ 柱がおれましたか
あった。		たくさんあった。		地割れがあった。		なかった。	きれない。		なし。		二階家はなかった。	止った。	窓ガラスはなかった。	あまり落ちなかった。	一家具は倒れた。		あかなかった。	おれない。

			H	60		58		52	47)		44	43	40	35)		33)
			比べてみるとどうですか。	濃尾地震とほかの地震を		親が話していたこと		動物や鳥や魚のようす	お寺や神社のようす		地震のあとで聞いたこと	見舞のこと	学校のようす	電灯はつきましたか		家の外で生活しましたか
(刈 谷 市)	河目そう			一濃尾地震が一番ひどかった。	72	岐阜の方でお寺が沈んだと聞い	一て動ごけなかった。	ネコをかっていたがびっくりし	近くでは別に変りなかった。	<	地震のあとで聞いたこと 岐阜の方が大変ひどかったとき	なし。	一学校はひどかった。	電灯はなく、かんてらだった。	二晩程心配なので外で寝た。	家の外で生活しましたか。すすきであんだ小屋をつくり、
			8 親が話していたこと		⑩ 学校のようす		② 屋根瓦のようす					⑩ 家具が倒れましたか	⑩ 地震の時、歩けましたか	④ 地震の日の天気	③ 地震の時していた事	学年
	きました。	わいそうだと話して居るのをき	どこか一村沈んでしまった。か	学校へ行く。	何の異状もなく、いつもの通り	有りません。	屋根は瓦でなかったので異状は	母は火をけして居ました。	もそばに居ました。	其間に祖父が居ましたので、私	が倒れて戸棚が支えて居ました。	家の中へいそいで入りますと壁	歩けなくなっておどろきました。	クモリ。	外で遊んでいました。	

1

地震にあった時の年齢、「七才。一学年。

		たか	全部にげだした。	⑬ 友だちのようす
ない。	竹やぶけ	∞ 竹やぶの中で暮らしまし 竹やぶはない。	全部にげだした。	⑫ 家族のようす
表で三、四日寝起きした。	表で三、	32 宿所のようす	余震はなかった。	⑪ 前震、余震のようす
店た。	自宅に居た。	③ どこかに避難しましたか	にげだしたから、あるけた。	⑩ 地震の時、歩けましたか
とまらなかった。	こまらた	③の 着る物はどうしましたか		い長く続きましたか
15	らなかった。	⊅ >	五分位。	⑧ 地震のゆれは、どのくら
自宅は倒れなかったから、	自宅は倒	29 水や食料はどうしました		れましたか
		ふきだしましたか	わからない。	⑦ 地震の時、どのくらいゆ
	 な い。	図 地割れがあり、地下水が		したか
		Ďι	地震と思った。	⑥ 最初何が起きたと思いま
	ない。	② 津波、高潮はありました	こわかった。	⑤ こわかった思い出
	ない。	26 堤防がきれましたか	上天気。	④ 地震の日の天気
		水のようす	ねて居た。	③ 地震の時していた事
	 な い。	② 山くずれ、地すべり、大	現在地(西尾市半津町)。	② 地震にあった場所
家はどうもならなかった。	- 家はどら	⑰ 柱がおれましたか		学年
, jo	無かった。	⑯ 火事のようす	士士才。	① 地震にあった時の年齢、
		しましたか	E	
二、三件倒れた。		⑤ 家が倒れたり、傾いたり	(雪 1	
人。	けが人一人。	⑭ 死者、けが人のようす	古方、	

こ ま

- 35) 電灯はつきましたか
- 36 こで手当てを受けましたか けがや病気になって、ど
 - 電気はなかった。
 - 病気にはならなかった。
- 表で見て居るより仕方がなかっ

昼間の生活のようす

表でむしろをしいてフトンを着 な

38)

夜の生活のようす

地震のあとで聞いたこと | 尾張方面は家が一件も立ってい

なかった。

てねた。

44)

お墓は四、 村内は無事。

47)

お寺や神社のようす

うす

井戸のようす

かわりない。

五たおれた。

石とうろうや、お墓のよ

三河の地震から見れば非常にチ イサイ。三河の地震は村内の三

60 (54)

濃尾地震とほかの地震を

比べてみるとどうですか

人あった。三河の地震の様なの 分の一の家がたおれ、死者六十

んでしまってうごけない。 があれば、にげだす事も、ころ



野崎華年の筆による濃尾震災図の うちの枇杷島橋の図

れましたか - ませんが	⑦ 地震の時、どのくらいゆ 子供です	したか・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	⑥ 最初何が起きたと思いま 何うして	もあぶな	- 走って来	達が次々	- バラ落ち	⑤ こわかった思い出 前の家の	④ 地震の日の天気	で居りました。	て、家の	③ 地震の時していた事 早朝でし	② 地震にあった場所 高浜村字	学年	① 地震にあった時の年齢、 当時数え		花	HILL
ませんが割に長いと思いました。	子供ですので時間的な事は解り	来たか解らなかった。	何うして母がこんな所へ連れて	もあぶないと思いました。	走って来るのを見て、子供心に	達が次々と瓦の落ちて来る下を	バラ落ちて来て、前の家の子供	前の家の草屋根の屁の瓦がバラ		じた。	て、家の前の畑に兄妹母と四人	早朝でしたので、母が連れ出し	高浜村字県四四九番戸。		当時数え年四才でした。	高河	Ę Ę	Ę
❷ 一階と二階では、どちら		❷ 時計のようす			② 屋根瓦のようす	か	⑱ 戸があかなくなりました	⑰ 柱がおれましたか	⑯ 火事のようす			しましたか	⑮ 家が倒れたり、傾いたり	⑫ 家族のようす			⑪ 前震、余震のようす	⑩ 地震の時、歩けましたか
一階と二階では、どちら 二階はありましたが、家が壊れ	ません。	家の外へ出たなりですので解り	せんでした。	ましたが、自宅は何とも有りま	前の家の屁の瓦が落ちたのを見		なし。但し自宅のみ。	 なし。	なし。	て後で建て直したようでした。	- ましたが、前の家が傾いたかし	くっついたりはなれたりして居	地震の最中に家の母屋と工場と	何時も兄弟と一諸に居りました。	ました。	中へ地震小屋を作って当分居り	余震があって、裏のみかん畑の	母が手を引張って行った。

● 学校のようす	∞ 家を建て直したようす 一隣	∞ 夜の生活のようす 一四	③ 昼間の生活のようす 一畑	とで手当を受けましたか	③ けがや病気になって、ど一病		③ 電灯はつきましたか 一零	た か	③ 竹やぶの中で暮らしまし っ	③ 家の外で生活しましたか ぬ		③ 宿所のようす ー	③ どこかに避難しましたか 家		③ 着る物はどうしましたか. 知	カ> 	∞ 水や食料はどうしました 白	が安全でしたか
まだ行って居りませんでした。	隣家は建て直したようです。	畑の中。	畑の中。		病気にはなりません。	プでした。	電灯はありませんでした。ラン		みかん畑の中。	外でした。	て居りました。	みかん畑の中へ地震小屋を作っ	家のみかん畑。	せん。	親が面倒を見て居たので解りま	りませんでした。	自宅の井戸は使用出来たので困	なかったので解りません。
学年	① 地震のあった時の年齢、					比べてみるとどうですか	⑩ 濃尾地震とほかの地震を					٤	ふうにしたらよいと言うと	⑩ 地震の体験から、こんな	剱 井戸のようす	郷 お寺や神社のようす	④ 工場のようす	④ 仕事のようす
	七才。	E	(豊田 おお	命をかか			三河地震の方がひどかった。	ないと思います。	ので、屋敷は広くなければいけ	ないなあと子供心に思いました	中を道へ逃げるのを見て、あぶ	供達が瓦のばらばら落ちて来る	は感じませんでしたが、隣の子	家周囲が広かったので別に危険	井戸は使用出来ました。	何とも有りませんでした。	仕事はやれないようでした。	父も仕事はやれないようでした。

ましたか	⑮ 家が倒れたり傾いたりし	⑫家族のようす		⑪ 前震、余震のようす	⑩ 地震の時歩けましたか	1 1 1 1 X	・ 地震の時、どんな点に気		⑤ こわかった思い出	③ 地震の時して居た事	② 地震にあった場所
れた家に住んで居る人もあった。倒れないから、色々工夫して倒た家も多くあった。倒れた家は	私の家は倒れなかったが、倒れ りました。	茶碗を捨て、走り出たこともあ余震が度々あり、食事の時等は	月三ヶ月あり、なれてしまって	余震は毎日何度でもあり、二ケ	た。率ってしまった。地震の時は立って居られなかっ	られた。	- 室って居るとよいと父から教え- 余震の時あわてると危いから、	にだかれて逃げた時。	前の山から石が落ちて来て、父	表で遊んで居りました。	愛知県西加茂郡藤岡町大字木瀬。
	③) どこかに避難しましたか	か	29)水や食料はどうしました	7	ふきだしましたか 郷 地割れがあり、地下水が			水のようす	⑤ 山くずれ、地すべり、大		② 屋根瓦のようす
を忍いで夜を過しました。竹薮屋根を杉皮や板切で作り、雨露木の箱があり、それに工夫して	家の表に三米四方位の作業用の一に思う。	た食物の不自由はなかったよう部田舎生活の為め、此れと云っ	家内の者にけが人は無く、山間突込んで危いことが多かった。	を失った時等、ヒビ割れへ足を	あり、余震の場合、身本の中心地割れヒビ割れ箇所が多くさん		とを思い出します。また山くずの水が止まったことがあったこ	大小の石や土が落ちて来て、川	川の近くに家があって、山から	きの家が多かった。	山間部の事故え、草屋根かやぶ

38 夜の生活のようす

永い期間余震があったが、夜の

6

生活も寒かった憶えは無い。昼

したか

は家の中には成るべく居ない暮

9

をつけましたか

しをして居た。

う。

落ちる場所から逃げた秋だと思 の手で、私をかかえて石が転げ します。父がさんまを持ったそ

4

37) 昼間の生活のようす

時期的に良い気候でした記憶が

でない。 も八十八年も前、七つの時のこ

と、憶えて居ろうと思ったこと

の中で夜を過した人もあったこ

とを後で聞きました。何にして

1

地震にあった時の年齢、

四才。

井

上 豊 橋 ち

市 ょ

学年

2

地震にあった場所

八番戸。

愛知県八名郡牛川村字忠興一六

地震の日の天気

(現住所地より約五百米西方)

雨は降っていなかった。曇って

いたと思う。

最初何が起きたと思いま | 母親より地震を知らされて屋外

地震の時、どんな点に気 にでた。 母がかまどの火を直ぐ消した。

地震の時、歩けましたか 歩くことはできた。

は赤ちゃんで家族全員無事。 母は家事。父は山に茸狩り。弟

近隣には死者けが人なし。 変ったことなし。

13 友だちのようす

12

家族のようす

10

(14)

死者、けが人のようす

か	∞ 水や食料はどうしました	ふきだしましたか	∞ 地割れがあり、地下水が	カゝ	② 津波、高潮はありました	20 堤防がきれましたか	水のようす	25 山くずれ、地すべり、大	∞ 窓ガラスはわれましたか	② 屋根瓦のようす	② 家具が倒れましたか	⑩ 障子が倒れましたか	カゝ	⑱ 戸があかなくなりました	⑰ 柱がおれましたか	⑩ 火事のようす	しましたか	⑤ 家が倒れたり、傾いたり一なし。
	平常通り。		なし。		なし。	なし。		なし。	異常なし。	異常なし。	異常なし。	異常なし。		異常なし。	なし。	なし。		なし。
⑤ 空のようす	❸ 井戸のようす	③ 川や池や海のようす	⑩ 道路、鉄道のようす	うす	⑱ 石とうろうや、お墓のよ	⑪ お寺や神社のようす	⑭ 地震のあとで聞いたこと	④ 仕事のようす		39 家を建て直したようす	∞ 夜の生活のようす	③ 昼間の生活のようす	③ 電灯はつきましたか	たか	函 竹やぶの中で暮らしまし	❸ 家の外で生活しましたか	③ どこかに避難しましたか	∞ 着る物はどうしましたか 平常通り。
異常なし。	異常なし。	- 異常なし。	変ったことなし。		倒れた話は聞かない。	変ったことなし。	特別なことなし。	家族は平常通りの生活。	なし。	一近隣ともに地震による建	- 平常通り。	平常通り。	使用していなかった。		暮さない。	しない。	なし。	平常通り。

	ځ	ふうにしたらよいと言うと	∞ 地震の体験から、こんなー			~~~	• • • • • • •				~						∞ 親が話していたこと	劒 光る物を見ましたか
を出さないことだと思います。	ちつくこと。次に火を消す、火	度かの地震を体験して、先づ落	子供の時から教えられ、また幾	思います。	被害は大したことはなかったと	聞かされたこともその程度で、	記憶あり。成長後母よりの話に	かったと無事をよろこびあった	った。大したことがなかってよ	いた水がとぼれたなどと話し合	家では井戸端に手桶に汲みお	はかった。	によりかかってからだの安定を	ので地震を感じ、一寸の間立木	音が大きくざわざわとしてきた	後の話で、急に木々の葉ずれの	山仕事に行っていた父が、帰宅	地震後は何も見ない。
34)		28)	19	12	4	2	"	1									H	60
竹やぶの中で暮らしまし	ふきだしましたか	地割れがあり、地下水が	障子が倒れましたか	家族のようす	地震の日の天気	地震にあった場所	学年	地震にあった時の年齢、									比べてみるとどうですか	濃尾地震とほかの地震を
竹やぶの中で暮らしまし 竹籔にカヤを吊って生活した。		地割があったとのこと。	倒れたとのこと。	別に変りなし。	一普通と思う。	豊橋市花田町三十七の二。		当時五才。	i	豊	高準鯛	ては心配することはありません	家に居る限りでは、地震につい	ことができると思います。	- 地盤のしっかりした土地と言う	一た家などありましたが、一言で	地震が最も被害も大きく、倒れ	濃尾地震とほかの地震を 当地方では昭和十九年十二月の

⑤ こわかった思い出	④ 地震の日の天気	③ 地震の時していた事	② 地震にあった場所	学年	① 地震にあった時の年齢、						比べてみるとどうですか	⑩ 濃尾地震とほかの地震を	56 地鳴りを聞いたか	うす	⑧ 石とうろうや、お墓のよ	④ お寺や神社のようす	⑧ 夜の生活のようす	たか
子供心にこわかった。	晴天。	あそんでいた。	豊橋市前芝町。		六才。	ţ	(豊 喬 1	黄 里 重 欠		震と比べるととが出来ない。	うが、当時子供のため関東大地	記憶がないが他より大きいと思	聞いたとのこと。		倒れたとのこと。	倒れたとのこと。	灯なし、くらやみの夜。	
	③ 家の外で生活しましたか	ふきだしましたか	∞ 地割れがあり、地下水が	カゝ	② 津波、高潮はありました	20 堤防がきれましたか	水のようす	∞ 山くずれ、地すべり、大	図 時計のようす	② 屋根瓦のようす	⑩ 家具が倒れましたか	かゝ	⑱ 戸があかなくなりました	⑯ 火事のようす	しましたか	⑤ 家が倒れたり、傾いたり	⑪ 前震、余震のようす	⑩ 地震の時、歩けましたか
一海苔を干す為に、海苔ダコと言	した。当地は海苔の生産地にて		ない。		ない。	きれない。		ない。	とまった。	落ちてきた。	棚から物が落ちた。		なった。	火事はなかった。		傾いた家があった。	- 余震が何回もあった。	歩けなかった。

学年	① 地震にあった時の年齢、一六才の頃。					66 地鳴りを聞きましたか	うす	幽 石とうろうや、お墓のよ	⑧ 電灯はつきましたか	たか	※ 竹やぶの中で暮らしまし							
	六才の頃。	(豊 精 計)	雪 〈	泰		地鳴りはおぼえておる。		たおれた。	電気はまだなかった。	ありました。	そうしたはなしは聞いたことが	生活しました。	な仮家を造って、ながいあいだ	ダコで広場に家内全員入れる様	し五十位ありました。この海苔	尺横七尺が、海苔業者には四十	も言う)をかきつけたもの縦五	って竹の骨に麦藁(ムギガラと
② 家具が倒れましたか		⑩ 障子が倒れましたか	か	⑱ 戸があかなくなりました	⑰ 柱がおれましたか	⑯ 火事のようす	しましたか	⑤ 家が倒れたり、傾いたり	⑭ 死者、けが人のようす	⑩ 地震の時、歩けましたか	れましたか	⑦ 地震の時、どのくらいゆ	したか	⑥ 最初何が起きたと思いま	⑤ こわかった思い出	④ 地震の日の天気	③ 地震の時していた事	② 地震にあった場所
他の家ではあった。	ではあった。	自分の家はなかったが、他の家	ではあった。	自分の家はなかったが、他の家	なかった。	なかった。	傾いた家もあった。	家が倒れた。一軒あったと思う。		- あるくことが出来なかった。	とが出来なかった。	わからないが、立ってあるくこ		- - わからなかった。	ことわかった記憶はない。	上天気の晴れていた。	朝の七時頃で火に当っていた。	逢来町。

		③ 家の外で生活しましたか	③ どこかに避難しましたか	30 着る物はどうしましたか	カ>	∞ 水や食料はどうしました 不足したのはない。	か	② 津波、高潮はありました 関係ない処。	20 堤防がきれましたか	水のようす	◎ 山くずれ、地すべり、大 なかった。	が安全でしたか	∞ 一階と二階では、どちら		20 窓ガラスはわれましたか			② 屋根瓦のようす
一数日ねた事はあった様子。	なかったが、他家では竹薮中で	自分の家では屋外での生活はせ	- 竹薮に人に抱えられて避難した。	不足なし。		不足したのはない。		関係ない処。	ない。		なかった。	しかわからない。	一階と二階では、どちら 二階に住む事はないので、一階	えがない。	一窓ガラス等は余りないのでおぼ	- ばえている。	も終った後修理して居る事はお	向いのお寺の瓦が落ちて、地震
❸ 井戸のようす			⑩ 動物や鳥や魚のようす	うす	⑱ 石とうろうや、お墓のよ		郷 お寺や神社のようす			幽 地震のあとで聞いたこと			④ 仕事のようす	∞ 夜の生活のようす	③ 昼間の生活のようす	とで手当を受けましたか	30 けがや病気になって、ど	③ 電灯はつきましたか
呑水に不足する迄には至らない	って来た。	一が終って三日後に自分の巣に戻	鶏を三羽飼育していたが、地震	いることを知った。	石とうろうの建直しを後日して	がかたむいた。	一寺の本殿の瓦が落たり、寺の門	- 集ってお祈がされた。	お寺でごきとうが行われ、村中	地震のあとで聞いたこと。また大きな地震が起るからとて、	不自由はなかった様子である。	なく、製造又は販売等には別に	一酒造業であって、工場の被害も	変化はなかった。	何等の変化はなかった。		 なかった。	なかった。

8	ņ	7	L	6		(5)	4	3		2	学年	1						
地震のゆれは、どのくらこ	れましたか	地震の時、どのくらいゆ	したか	最初何が起きたと思いま		とわかった思い出	地震の日の天気	地震の時していた事		地震にあった場所	年	地震にあった時の年齢、						
地震のゆれは、どのくら一二分前後だったと思う。		歩くと、ころぶ位ゆれた。	だと思った。	家が左右にゆれ出したので地震	表へ出た。	ころぶ位ゆれて、家族全員家の	雨は降って居なかった。	朝食をして居た時。	来町)。	南設楽郡塩瀬村地幸部(現在鳳		数え年九才、小学校二年生。	. (著女)	东 成 污	高 卵 末 公		- ある。 - ある。	が、井戸水は少くなった様子で
23)	22	21)	16	1	15)	14)					12		<u>(11)</u>		10	た	9	13
時計のようす	窓ガラスはわれましたか	屋根瓦のようす	火事のようす	しましたか	家が倒れたり、傾いたり	死者、けが人のようす					家族のようす		前震、余震のようす		地震の時、歩けましたか	をつけましたか	地震の時、どんな点に気	い長く続きましたか
一止っただけで落ちなかった。	窓ガラスのある家はなかった。	草ぶき家屋ばかりであった。	なかった。	った。	草ぶき家根ばかりで被害はなか	なかった。	した。	ら皆夫々農業又は山仕事に従事	は皆な家の外に出た。止んでか	二人、自分とで八人。地震当日	家族は父母、兄、兄嫁、次兄姉	三回軽くゆれた。	五日間位、時をおいて一日に二、	一止むのを待った。歩けなかった。	あわてて家の前へ出て、ゆれの		先づ安全だと思う家の外へ出た。	

			③ 家の外で生活しましたか	③ どこかに避難しましたか	③ 着る物はどうしましたか	カゝ	29 水や食料はどうしました			ふきだしましたか	∞ 地割れがあり、地下水が				水のようす	25 山くずれ、地すべり、大	が安全でしたか	❷ 一階と二階では、どち
ことも聞いた。	家の外で生活した人もあったこ	- る状態にして家の中で生活した。	か一戸を開放し、何時でも飛び出せ	か一家の表へ出て避難した。	か、困らなかった。		た一因らなかった。	 た。	が地震があってから出なくなっ	の岩の間から湧出て居た飲料水	が 地割れはなかった。家の裏(西)	てて巴川に落下した。	大小の岩石ががらがらと音をた	一竣な山となって居り、中復より	百米位続き巴川あり。対岸は急	大 家の前(東)が田んぼで、約二		一階と二階では、どちら 二階建の家はなかった。
						44)	4 3		(41)		40	38)		37)	7	36	. -	34)
						地震のあとで聞いたこと	見舞のこと		仕事のようす	:	学校のようす	夜の生活のようす		昼間の生活のようす	とで手当てを受けましたか	けがや病気になって、ど	たか	竹やぶの中で暮らしまし
山村まで歌いつがれて来た。	の人がなき叫ぶ」と歌に作って	る火は燃え上る数多(あまた)	た。歌読みが岐阜で「家は倒れ	らい恐しいことであったと聞い	- 地割がひどく寺が落込んで、え	地震のあとで聞いたこと 岐阜のことで人から聞いた事。	ない。	社はない。	仕事は常時と変らなかった。会	を受けた。	お寺が学校で常時と変らず授業	変らなかった。	変らなかった。	余震程度だったので、何時もと				なかった。

⑩ 地震の時、歩けましたか一歩けなかった。		⑤ こわかった思い出	④ 地震の日の天気	③ 地震の時していた事	② 地震にあった場所	学年	① 地震にあった時の年齢、						比べてみるとどうですか	⑩ 濃尾地震とほかの地震を	劒 光る物を見ましたか	⑩ 地鳴りを聞きましたか	聞きましたか	⑩ 地震の震源地はどこだと
歩けなかった。	つた。	草葺屋根が東西にゆれてこわか	一天気は薄曇であった。	朝、顔を洗っていた。	一一愛知県宝飯郡小坂井町。		九才、小学校一年生。	J	(豊川市)	秦	-	一と思う。	べ濃尾地震が一番ひどく感じた	現在までのところ外の地震に比	見ない。			- 岐阜が一番ひどくて震源地だと
		⑲ 障子が倒れましたか	か	⑱ 戸があかなくなりました	⑰ 柱がおれましたか	(16) 火事のようす		しましたか	⑮ 家が倒れたり、傾いたり		⑭ 死者、けが人のようす		⑬ 友だちのようす		⑫ 家族のようす			⑪ 前震、余震のようす
		障子が倒れた話も聞かない。		た 戸があかなくなった家もあった。	一柱の折れた話は聞かない。	火事はなかった。	一話は聞かなかった。	傾いた家はあったが倒れた家の	ら 草屋根の家が多かった加減か、	た。	, 一死者、けが人の話はきかなかっ	事があったら困ると思った。	こわかった話をして二度こんな	- は竹薮の中で寝た。	父だけ家の中に寝て、母・兄弟	たが、回数は覚えて居ない。	な音がして、余震が数多くあっ	一余震が来る前、どかんと云う様

聞きましたか 「居ないので切らなかった。 をつ	働 地震の震源地はどとだと「現今の様に報道機関が発達して ⑨ 地	⑧ 電灯はつきましたか 電灯はなかった。 い長	たか 8 曲	∞ 竹やぶの中で暮らしまし 竹籔で暮した。 れず	◎ 家の外で生活しましたか 竹藪の中で生活した。 ⑦ 坤	② 宿所のようす	③) どこかに避難しましたか 竹薮に避難。 したか	∞ 着る物はどうしましたか 困らなかった。 ⑥ 暑	か (5) ア	② 水や食料はどうしました 異常ないので困らなかった。	きだしましたか ③ 曲	◎ 地割があり、地下水がふ 一地割れはなかった様に思う。 ② 地	28 堤防がきれましたか なし。 学年	水のようす・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	❷ 山くずれ、地すべり、大 なし。	❷ 一階と二階では、どちら │二階もなかったので分からない。
をつけましたか	地震の時、どんな点に気	い長く続きましたか	地震のゆれは、どのくら	れましたか	地震の時、どのくらいゆー		かか	最初何が起きたと思いま、母親に起されて、無我夢中で家	とわかった思い出	地震の日の天気	地震の時していた事	地震にあった場所	Ŧ	地震のあった時の年齢、		
生懸命だった。	建物のないところへ逃げるに一	一余り覚えていない。	あっと云うまに家が倒れたから		立っていられない位。	いっぱい。	のないところへ逃げることでせ	母親に起され	村中全壊。	晴。	就寝中。	岐阜県大垣市室村町。		十一才、小学四年。	(春日井市)	大橋

一で、静まっ	∞ 着る物はどうしましたか 着る物は火事にならなかったの	か	∞ 水や食料はどうしました 大垣城で飯	∞ 窓ガラスはわれましたか 障子戸ばかり。	② 屋根瓦のようす わら葺が殆ど。	⑩ 家具が倒れましたか 家具が家の	⑩ 障子が倒れましたか 全部倒れた。	か	⑱ 戸があかなくなりました一戸は明かない。	⑩ 柱がおれましたか 殆ど折れた。	⑥ 火事のようす 室村では火	しましたか	⑤ 家が倒れたり、傾いたり、家は全壊した。	⑭ 死者けが人のようす 付近の人はなかった。	から這い出して来た。	- ど、柱が一	⑫ 家族のようす 母と弟が家	⑪ 前震、余震のようす 時々あった
で、静まってから取出しに行っ	事にならなかったの	45	大垣城で飯き出しを貰いに行っ	b	رياه	家具が家の下敷になった。	ō	40	S.	ō	室村では火事は出なかった。	35)	た。(村中)	なかった。	して来た。	ど、柱が一本立っていたところ	母と弟が家の下敷になったけれる	時々あったように思う。
聞きましたか	地震の震源地はどこだと	新聞のようす		** 地震のあとで聞いたこと) 仕事のようす		⇒ 学校のようす			◎ 家を建て直したようす	② 電灯はつきましたか	たか	♡ 竹やぶの中で暮らしまし	⊗ 家の外で生活しましたか		* 宿所のようす	
	根尾谷方面。	新聞はなかった。	事)。	上下動だった(断層地震だった	ーけをする。	農事をやりながら家のあと片づ	街尋常小学校へ転校。	学校は一年休校して、大垣市六	を建て、住っていた。	て、藁や竹を利用して簡単な家	付近の人々がお互いに助け合っ	ランプ、行燈の時代。		- 竹やぶでは暮さなかった。	家の外で生活した。	Ťξ	仮小屋を建てて、夜露をしのい	 †2

⑨ 地震の時、どんな点に気	い長く続きましたか	⑧ 地震のゆれは、どのくら	れましたか	⑦ 地震の時、どのくらいゆ	したか	⑥ 最初何が起きたと思いま		⑤ こわかった思い出	④ 地震の日の天気	③ 地震の時していた事	② 地震にあった場所	学年	① 地震にあった時の年齢、					⑩ お寺や神社のようす
地震の時、どんな点に気一長く続けば避難しようと思った。		一度ゆれただけだった。	-	一家の中の掛時計が止った。		ぴっくと来て地震だなと思った。	はない。	一体に気付く程度で、恐い思い出	一その日はくもりの天気でした。	地震の時は家に居た。	岐阜県益田郡下呂町幸田。		八才、小学校一年生。	ř	(稲 尺 市)	表 · 東 · 区	_	お寺、神社、全壊。
② 窓ガラスはわれましたか		② 屋根瓦のようす	② 家具が倒れましたか	⑲ 障子が倒れましたか	か	⑱ 戸があかなくなりました	⑰ 柱がおれましたか	⑯ 火事のようす	しましたか	⑤ 家が倒れたり、傾	④ 死者、けが人のようす		⑬ 友だちのようす		⑫ 家族のようす	⑪ 前震、余震のようす	⑩ 地震の時、歩けましたか	をつけましたか
ましたか一窓ガラスも割れなかった。	なかった。	当時の家は板屋根が多く異常は	たか 家具の倒れもなかった。	たか 一障子の倒れもなかった。		りました一戸は前と変りなくあいた。	かれた様子もなかった。	一火事は全然なかった。		傾いたり一古い家が多少損傷はあった。	ようす 一死者もけが人もなかった。	75	友達の様子は別にかわりなかっ	一私、計六人。	当時の家族は祖父母、父母、妹、	うすの一前震も余震もなかった。	ましたか 普通に歩けた。	

③ 電灯はつきましたか 当時は電燈は	たか	∞ 竹やぶの中で暮らしまし 竹薮の中では	❸ 家の外で生活しましたか 家の中で生活した。	図 宿所のようす 従来の通り家	③)どこかに避難しましたか「どこにも避難しなかった。	③ 着る物はどうしましたか 着るものにも	<i>t</i>)>	20 水や食料はどうしました 水や食料に不	ふきだしましたかかっった。	∞ 地割れがあり、地下水が │地割れも地下	かもなかった。	∞ 津波、高潮はありました 山地であった	∞ 堤防がきれましたか 堤防も異常なかった。	水のようす	◎ 山くずれ、地すべり、大 山くずれも地	が安全でしたか 階の方が良いと思った。	❷ 一階と二階では、どちら 別に逃げるに	◎ 時計のようす 時計は止った。
当時は電燈はなくランプでした。 囫	49	竹薮の中では生活しなかった。	じた。 4 8	従来の通り家の中で暮した。	だしなかった。	着るものにも不自由はなかった。	45)	水や食料に不自由はなかった。	43)	地割れも地下水もふきだしはな ②	41)	山地であったので、津波も高潮	かった。	38	山くずれも地すべりもなかった。	と思った。	外に逃げるに都合がよい様、一	~;°
》 道路・鉄道のようす	電柱のようす	うす	一石とうろうや、お墓のよ	ジ お寺や神社のようす	聞きましたか	◎ 地震の震源地はどこだと	新聞のようす) 地震のあとで聞いたこと	9 見舞のこと) 工場のようす) 仕事のようす	ジ 学校のようす	》 家を建て直したようす	》 夜の生活のようす		∂ 昼間の生活のようす	こで手当てを受けましたか) けがや病気になって、ど
道路は変りなかった。鉄道はな	電柱はなかった。	 た。	石燈ろうもお墓も変りはなか	お寺も神社も変りなかった。	しなかった。	だから震源地もどこかはっきり	当時まだ新聞はなかった。	何も聞かなかった。	見舞も何もなかった。	当時は工場も会社もなかった。	仕事も差支えなかった。	学校も別に変りなかった。	家も立て直す必要もなかった。	一夜の生活も変りはなかった。	た。	屋の生活には別段変りはなか		けが人や病人はなかった。

	比べてみるとどうですか	⑩ 濃尾地震とほかの地震を	うにしたらよいと言うこと	⑩ 地震の体験からこんなふ		❸ 親が話していたこと	劒 光る物を見ましたか	匈 地鳴りを聞きましたか	⑤ 空のようす			録 井戸のようす	◎ 川や池や海のようす		∞ 動物や鳥や魚のようす	⑤ 車、電車のようす	
	一様もない。	強烈な反応もなかったので比べ	わからない。	余り強烈な印象もなかったので	かなかった。	両親の話していた事も何にも聞	別に光るものは見なかった。	地鳴りは聞かなかった。	空の様子も別に異常はなかった。	た。	数が山からの流れ水を使ってい	井戸の有る家は少かった。大多	川や池も別に異常はなかった。	のでわからない。	家には動物も飼っていなかった	車も電車もなかった。	かった。
⑧ 地震のゆれは、どのくら	れましたか	⑦ 地震の時、どのくらいゆ							⑤ こわかった思い出	④ 地震の日の天気	③ 地震の時していた事	② 地震にあった場所	学年	① 地震にあった時の年齢、			
地震のゆれは、どのくら 三段階に分ければ四、五日続い		小児時代でも歩行がまんさくし	ものを知りました。	震と聞いて、始めて地震と云う	り立って、まわりの人達から地	逃げこもうとして、外にぼんや	家人に押しもどされて、家内に	でて、家内に逃げこもうとして、	早朝で外に薪があり、取りに出	一・晴天でした。	早朝、起床の直后。	岐阜県加茂郡七宗町。	居りませんでした。	年令七才、まだ学校に通学して	(豊 町 計)	十二	ì

い長く続きましたか

一たか判然としない。

⑱ 戸があかなくなりました 開閉は多少きゆうくつになった。	位 柱がおれましたか 折れた事を知らなかった。	⑩ 火事のようす 火事のあった事は知らなかった。	しましたか	⑤ 家が倒れたり、傾いたり 家屋は小生の住宅その他異常が	んでした。	⑭ 死者、けが人のようす 一死者、けが人は一人もありませ	た。	の避難場所でくらして居りまし	した。友だちは少年時で皆自宅	◎ 友だちのようす 皆健在で負傷等はありませんで	で就寝を共にした。	した。家族一同、仮設避難場所	⑫ 家族のようす 皆健在で負傷等はありませんで	一つも覚えて居りません。	⑪ 前震、余震のようす 一小さな地震がいくつあったか、	⑩ 地震の時、歩けましたか 少年期で歩行は普通でした。	をつけましたか 居りました。	⑨ 地震の時、どんな点に気 少年時で大人の云う通りにして
かゝ	② 津波、高潮はありました		28 堤防がきれましたか	水のようす	∞ 山くずれ、地すべり、大		が安全でしたか	❷ 一階と二階では、どちら		∞ 時計のようす	② 窓ガラスはわれましたか		② 屋根瓦のようす		20 家具が倒れましたか		19 障子が倒れましたか	か
	なかった。	状は知らなかった。	当時堤防らしき個処はなく、異		^ この事は一切聞きませんでした。	思いました。	きも、一階建の方が安全の様に	一当時農村では二階建は殆んどな	はなかったので不明。	この時期に農村で時計がある家	- ガラス窓はなく異常がなかった。	飛散した事は聞かなかった。	草ぶきの屋根が多いので、瓦の	かった。	倒れたり、飛散した事は聞かな	でした。	多少、開閉に窮屈になった様子	

∞ 昼間の生活のようす 従来通りの	とで手当てを受けましたか	∞ けがや病気になって、ど 当時、病人	がんでした。	③ 電灯はつきましたか 当時、小牛	たか	(3) 竹やぶの中で暮らしまし 竹やぶでは	事は家の中でした。	◎ 家の外で生活しましたか 昼間は家に	話を聞いた。	∞ 宿所のようす 昼間は家忌	一のを知った。	話を聞いて	で、外に立	③) どこかに避難しましたか 当時地震け	か>	∞ 水や食料はどうしました あまり不白	ふきだしましたか	∞ 地割れがあり、地下水が この件も関
従来通りの生活で、あまり不自		当時、病人やけが人はなかった。)0	当時、小生宅にまだ電燈はなく、		竹やぶでは生活しなかった。		昼間は家に出たり入ったり、食		昼間は家屋のえんがわで大人の		話を聞いて、始めて地震と云う	で、外に立って、おとなの人の(当時地震は午前七時、八時前後(あまり不自由はなかった。		との件も聞きませんでした。
	④ 新聞のようす						44 地震の	43 見舞	42工場		①仕事		④学校	39 家を			339 夜の	
	らす			ς			地震のあとで聞いた事	見舞のこと	工場のようす		仕事のようす		学校のようす	家を建て直したようす			夜の生活のようす	

46 聞きましたか 地震の震源地はどこだと | 地震の震源地も殆んど知らなか った。 能でした。 60 比べてみるとどうですか

47) お寺や神社のようす

との処も被害はあったでしょう

が不明でした。

49 電柱のようす

うす

48

車、電車のようす

(51)

動物や鳥や魚のようす 当地で余り関心は少なかった。

(52)

川や池や海のようす が一本あるだけ。特に記する様 当地は海も池もなく、小さい川

(54) 井戸のようす

水が出なくなった事はなかった。

特に記する様な異常はなかった。

な異常はなかった。

(55) 空のようす

56

地鳴りを聞きましたか

58 67) 親が話していたこと 光る物を見ましたか

見なかった。

これも聞かなかった。

何事も聞かなかった。

石とうろうや、お墓のよ / 石とうろうや、お墓は多分たお れた処も有った様子。

これは小生等の住居地で余り関

主婦ならば其后に食事の準備する事。

倒れた事はなかった。

係らすかった様子。

出来る様準備する事。

険証、金銭は勿論の事、納入し身体にしっかり巻き付けて、 之れは平素、胴巻を調製して、これに印鑑、預金通帳、保

地震に見舞われ、当時救護班を形成され、其の一員に加はりま 私は或る事情のもと名古屋市南区に小医院を開設して空襲と 直ちに行動出来る様にする事。

したが、この経験は后日にゆづります。

濃尾地震とほかの地震を | これは大正十二年九月一日の関 東大地震にあったので、その経

験談は別に記載します。

私は過去に濃尾、関東大震災、名古屋に於ける空襲時地震等

を経験して居り二、三の経験を記して見ましょう。

平素尤も必要な事は、地震時に何処に避難するかを、家族

間で話会いをくこと、パラパラに避難しないこと。

二 早朝起床后、直ちに出入口の旋錠を解くこと。

三 発生した場合、直ちに重要物件の一部だけでも持出す事の

⑫ 家族のようす		⑩ 地震の時、歩けましたか	したか	⑥ 最初何が起きたと思いま			⑤ とわかった思い出	④ 地震の日の天気				③ 地震の時していた事	② 地震にあった場所	学年	① 地震にあった時の年齢、			
おもやが倒れましたので、父が	した。	しばらくして前のやぶへ行きま	た。	一何がおこったか判りませんでし	くなりました。	って居てもゆすりますのでこわ	外へ出て、大きな柿の木にとま	『 青天。	もらいました。	一で、あとで下女に着物を着せて	で、じゅばんのまま出ましたの	朝起きてねまきをぬいだところ	一鵜沼東町。		八才、一年生。	J J	山力	2
∞ 地割れがあり、地下水が	か	⑱ 戸があかなくなりました	(⑰) 柱がおれましたか					しましたか	⑤ 家が倒れたり、傾いたり			<u> </u>						
地割れがあり、地下水が 中信道が前を通って居りますの	てが倒れました。	おも家が倒れましたので、すべ	おも家が倒れました。	のこりました。部屋数十三、四。	御座居ましたので、ざしき一棟	のこりが倉四戸、前旧脇本陣で	と父と母との話を聞きました。	裏門、へい、都合十六棟倒れた	家が倒れたり、傾いたり 家は新ざしき、西ざしき、麦門、	 †z	すのを、そばで聞いて居りまし	ろってといと言い付けて居りま	で、父が下男に骨でもよいでひ	で、岐阜がどんどんやけますの	阜へ一戸かまえて居りましたの	私より五才上の姉をつれて、岐	けがはありませなんだ。祖母が	ぶどうだなの下になりましたが、

∞ けがや病気になって、ど けがや病気はありませなんだと	☞ 電灯はつきましたか 電燈の事は記憶がありません。	たかーけでございました。	∞ 竹やぶの中で暮らしまし 竹やぶの中では地震の日一日だ	た。	❸ 家の外で生活しましたか 家の外では生活致しませんでし	と云うおばえがあります。	一のが、珍らしうてうれしかった	窓 宿所のようす 西ざしきを直してはいりました	致しました。	く見えました。いやなにおいが	まだ岐阜がもえて、西の方が赤	そこへ入りました。地震の晩、	③) どこかに避難しましたか 西座しきのこわれた所を直して	と思います。	∞ 着る物はどうしましたか 着る物は何事もありませなんだ	か料は家で頂きました。	∞ 水や食料はどうしました 水は何も記憶がありません。食	ふきだしましたか で、道が少しわれて居りました。
			④ 地震のあとで聞いたこと 姉が岐阜から帰りまして、地震			⑩ 学校のようす							30 家を建て直したようす	∞ 夜の生活のようす			⑧ 昼間の生活のようす	こで手当てを受けましたか
だけで、あからなんだと話して	思っても、頭をこつこつと打つ	一の最中に、くぐりをあけようと	姉が岐阜から帰りな	そこの、かり住いでした。	玄かんが残って居りましたので、	一学校は倒れましたので、本陣の	今でも。	しろかったおぼえが御座います。	すので、小供心に、とてもおも	い石を歌をうたってつき込みま	まして、やぐらを組んで、土だ	一やを建てますので、今とちがい	一家を建て直しましたので、おも	一夜は記憶がありません。	た。	ますので、おもしろ御座いまし	昼間は家の片付けにみんなが来	思います。

② 地震にあった場所	学年	① 地震のあった時の年齢、					比べてみるとどうですか	⑩ 濃尾地震とほかの地震を	❸ 親が話していたこと	劒 光る物を見ましたか			⑤ 空のようす	→ 井戸のようす	聞きましたか	郷 地震の震源地はどこだと	
三重県紀伊長島町。	·	 六才。		信が置け有く	み まきり	ったと思います。	した地震の方が、一ばんひどか	濃尾地震の方が、私が経験しま	何にも聞きませんでした。	見ませんでした。	ました。	空がまっかで、けむり迄で見え	岐阜の焼けて居りますときは、	何事もありませなんだようです。	く地震と聞きました。	地震の震源地は根尾谷のかんら	居りました。
			⑤ こわかった思い出	④ 地震の日の天気	③ 地震の時していた事	② 地震にあった場所	学年	① 地震にあった時の年齢、							③ どこかに避難しましたか	れましたか	⑦ 地震の時、どのくらいゆ よくゆれた。
かけた。	一家の人達が言ったので何度も出	一ので、竹やぶに行けば助かると、	たくさんの家が次々にこわれた	夕方だったのでくもりだと思う。	子守り。	 一静岡県掛川市中西ノ谷、本人の		七才。	(刈) 谷市)	i į	ì		波を心配してかは不明です。)	(これは地震の余震の為か、津	お寺に三日間避難した。		よくゆれた。

か	⑱ 戸があかなくなりました	⑰ 柱がおれましたか	しましたか	⑮ 家が倒れたり、傾いたり	⑬ 友だちのようす		⑫ 家族のようす	⑪ 前震、余震のようす		⑩ 地震の時、歩けましたか	をつけましたか	⑨ 地震の時、どんな点に気	い長く続きましたか	⑧ 地震のゆれは、どのくら	れましたか	⑦ 地震の時、どのくらいゆ	したか	⑥ 最初何が起きたと思いま
	はい。	家がつぶれた。家がおれた。		ほうぼう家が倒れた。	覚えがない。	にしていた。	恐かったので、火を使わない様	小さいのが何回も何回も。	まく歩けなかった。	歩こうと思ったが、よろけてう	に大わらわ。	風呂(ランプ)の火を消やすの		五分~十分(何回も)。	もいた。	地われがして中に人が落ちた人	が「地震だ」と言った。	最初何が起きたと思いす 家がみじみじと言ったので、人
∞ 夜の生活のようす	とで手当てを受けましたか	30 けがや病気になって、ど	⑧ 電灯はつきましたか	たか	③ 竹やぶの中で暮らしまし	፡◎ 家の外で生活しましたか	③ どこかに避難しましたか	ふきだしましたか	∞ 地割れがあり、地下水が	か	② 津波、高潮はありました	26 堤防がきれましたか	が安全でしたか	❷ 一階と二階では、どちら	23 時計のようす	22 窓ガラスはわれましたか	②① 屋根瓦のようす	⑲ 障子が倒れましたか
家で寝た。		受けない。	ランプだった。		しない。	 しない。	- 外に出ただけ。		地割れがしたが、地下水はなし。		山なのでなし。	きれた。		平家。	時計はなかった。	ガラスはなかった。	- 落ちた。	ところどころの家が倒れた。

54)	à	48	43
井戸のようす	うす	石とうろうや、	見舞のこと
		お墓のよ	
井戸の水は出た。		❸ 石とうろうや、お墓のよ どうも、ならない。	何ももらわなかった



野崎華年の筆による濃尾震災図の うちの枇杷島橋の図。

編 後

した。 部修正を加えたところがありますが、少しでも生の記 録に近いものをと考えて、できるだけ原文のままとしま 編集の方法としては、体験談集と体験問答集とに大 原稿の文章については、編集者が字句等について一 記

村の中にあっては、あいうえお順に整理しました。 験談の順序は、県政順に市町村でとにまとめ、各市町 分の順に配列しました。なお、各項目の中における体 区分して、地域ごとの特性を見出すように努めました。 別し、体験。 については、地震を体験した地域別に 談集

濃尾地震生き証人の記録

昭和 54 年 10 月

発 行 愛 知 県

編 集 愛知県総務部消防防災課 名古屋市中区三の丸三丁目 1 – 2

印刷 東海プリント社 名古屋市西区白塀町3-2